別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジンチュウオウダイガク 学校法人　中央大学	
フリガナ 大学の名称	チュウオウダイガク 中央大学（Chuo University）	
大学本部の位置	東京都八王子市東中野742番地１	
大学の目的	中央大学は、その伝統および私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。	
新設学部等の目的	データサイエンス及びビジネス領域に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と当該領域に関する汎用的能力を涵養するとともに、スポーツデータサイエンス及びスポーツビジネスの専門的学修を通じて、論理的思考力、分析力、コミュニケーション能力を備え、その専門性と優れた見識により社会課題の解決を実践できる価値創造人材を養成し、もって持続可能な社会の実現に貢献する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人				
スポーツ情報学部 (Faculty of Sports Data Science and Business) スポーツ情報学科 (Department of Sports Data Science and Business)	4	295	－	1,180	学士（スポーツ情報）〔Bachelor of Sports Data Science and Business〕	工学関係 経済学関係	令和9年度 第1年次	東京都八王子市東中野742番地１
計		295	－	1,180				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	令和8年3月　収容定員の変更に係る学則変更認可申請 経済学部 経済学科〔定員増〕（542）（令和9年4月） 社会経済学科〔定員増〕（520）（令和9年4月） スポーツ情報学部 スポーツ情報学科〔定員増〕（295）（令和9年4月） 経済学部　経済学科（542）（令和8年4月届出） 経済学部　社会経済学科（520）（令和8年4月届出） 経済学部　経済学科（廃止）　（△467） 経済学部　経済情報システム学科（廃止）（△180） 経済学部　国際経済学科（廃止）（△265） 経済学部　公共・環境経済学科（廃止）（△150） ※令和9年4月学生募集停止	

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
スポーツ情報学部 スポーツ情報学科	122科目	25科目	13科目	160科目	130単位

新設分

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教授	准教授	講師	助教	計			
	人	人	人	人	人	人	人	
スポーツ情報学部　スポーツ情報学科	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)	0 (0)	71 (44)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　15人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)			
	経済学部　経済学科	20 (20)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	40 (40)	0 (0)	235 (164)	令和8年4月 届出予定
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	17 (17)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	31 (31)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　17人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	小計（ａ～ｂ）	20 (20)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	40 (40)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	20 (20)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	40 (40)			
	経済学部　社会経済学科	21 (21)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	41 (41)	0 (0)	240 (162)	令和8年4月 届出予定
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	29 (29)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　17人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
	小計（ａ～ｂ）	21 (21)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	41 (41)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	21 (21)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	41 (41)			
	計	59 (57)	47 (46)	0 (0)	5 (5)	111 (108)	0 (0)	－ (－)	
既設分		人	人	人	人	人	人	人	
	法学部　法律学科	43 (43)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	58 (58)	0 (0)	485 (485)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	40 (40)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	55 (55)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　24人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
	小計（ａ～ｂ）	43 (43)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	58 (58)			
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	43 (43)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	58 (58)			
	法学部　政治学科	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	466 (466)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　14人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)			
法学部　国際企業関係法学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	435 (435)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
商学部　経営学科	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	340 (340)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)			
商学部　会計学科	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	345 (345)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			
商学部　国際マーケティング学科	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	343 (343)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
商学部　金融学科	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	347 (347)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			
基幹理工学部　数学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	157 (144)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
基幹理工学部　物理学科	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	170 (154)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
基幹理工学部　応用化学科	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	166 (157)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（ａ～ｄ）	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
基幹理工学部　生命科学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	175 (155)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（ａ～ｂ）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
社会理工学部　都市環境学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	172 (157)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　７人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
社会理工学部 ビジネスデータサイエンス学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	176 (164)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
社会理工学部　人間総合理工学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	158 (154)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
先進理工学部　精密機械工学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	204 (175)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
先進理工学部　電気電子情報通信工学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	182 (146)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（ａ～ｄ）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
先進理工学部　情報工学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	172 (155)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　７人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
文学部　人文社会学科	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)	0 (0)	375 (375)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　28人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)			
総合政策学部　政策科学科	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	211 (211)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
総合政策学部　国際政策文化学科	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	213 (213)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
国際経営学部　国際経営学科	16 (16)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	149 (149)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　13人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（ａ～ｂ）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
国際情報学部　国際情報学科	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	138 (138)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			
法学部　通信教育課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	0 (0)	119 (119)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
小計（ａ～ｂ）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
計（ａ～ｄ）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
計	359 (359)	108 108	(0) (0)	9 (9)	476 (476)	0 (0)	－ (－)	
合　　計	418 (416)	155 (154)	(0) (0)	14 (14)	587 (584)	0 (0)	－ (－)	

職　　種	専　　属	その他	計
	人	人	人
事　　務　　職　　員	426 (426)	481 (481)	907 (907)
技　　術　　職　　員	13 (13)	33 (33)	46 (46)
図　　書　　館　　職　　員	5 (5)	8 (8)	13 (13)
そ　　の　　他　　の　　職　　員	3 (3)	0 (0)	3 (3)
指　　導　　補　　助　　者	0 (0)	535 (535)	535 (535)
計	447 (447)	1057 (1057)	1504 (1504)

校地等	区　　分	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
	校　舎　敷　地	511,673.77㎡	0㎡	0㎡	511,673.77㎡	借地面積： 20,530.79㎡ 借用期間： 20年～50年
	そ　の　他	51,505.26㎡	0㎡	0㎡	51,505.26㎡	
	合　　計	563,179.03㎡	0㎡	0㎡	563,179.03㎡	

校　　舎	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
	311,502.43㎡ (311,502.43㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	311,502.43㎡ (311,502.43㎡)	

教　室　・　教　員　研　究　室	教　　室	908室	教　員　研　究　室	30室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	スポーツ情報学部	134,589〔66,932〕 (130,512〔65,897〕)	－ (－)	663〔132〕 (663〔132〕)	－ (－)	※② 29,849 ※②（29,849）	※② 44 ※②（44）	※① 左記電子図書、電子ジャーナルは学部等単位で特定不能なため、計は大学全体の数とし、図書、学術雑誌の計に含めている。 また、左記とは別に大学全体共用分は以下のとおり 図書 (2,083,855[746,507]) 学術雑誌 (28,187[12,862]) ※②機械・器具、標本は学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	134,589〔66,932〕 (130,512〔65,897〕)	※①1,555,801〔1,543,514〕 ※①（1,507,051〔1,496,264〕）	663〔132〕 (663〔132〕)	※①102,286〔102,134〕 ※①（102,286〔102,134〕）	※② 29,849 ※②（29,849）	※② 44 ※②（44）	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	2,232.55㎡	0㎡	24,937.29㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	教員１人当り研究費等		580千円	580千円	580千円	580千円	－千円	－千円
	共同研究費等		6,802千円	6,802千円	6,802千円	6,802千円	－千円	－千円
	図書購入費	15,300千円	16,838千円	16,858千円	14,258千円	14,998千円	－千円	－千円
	設備購入費	300,000千円	708千円	708千円	708千円	708千円	－千円	－千円

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,720千円	1,508千円	1,536千円	1,536千円	－千円	－千円

学生納付金以外の維持方法の概要	学生納付金以外の維持方法は、次のとおりです。 ①手数料収入（入学検定料収入、試験料収入、証明手数料収入等） ②補助金収入（国庫補助金収入等）

図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

大学等の名称　中央大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部						1.02 《0.98》		東京都文京区大塚1丁目4番1	
法律学科	4	882	－	3,528	学士（法学）	1.01 《0.98》	昭和29年度		
政治学科	4	389	－	1,556	学士（法学）	1.04 《1.00》	昭和29年度		
国際企業関係法学科	4	168	－	672	学士（法学）	1.02 《0.98》	平成5年度		
経済学部						1.05 《1.01》		東京都八王子市東中野742番1	
経済学科	4	467	－	1,868	学士（経済学）	1.04 《1.00》	昭和38年度		※令和9年4月より学生募集停止
経済情報システム学科	4	180	－	720	学士（経済学）	1.13 《1.09》	昭和38年度		※令和9年4月より学生募集停止
国際経済学科	4	265	－	1,060	学士（経済学）	1.03 《0.97》	昭和38年度		※令和9年4月より学生募集停止
公共・環境経済学科	4	150	－	600	学士（経済学）	1.05 《1.00》	平成5年度		※令和9年4月より学生募集停止
商学部						1.07 《1.02》		東京都八王子市東中野742番1	
経営学科	4	300	－	1,200	学士（商学）	1.06 《1.00》	昭和38年度		
会計学科	4	300	－	1,200	学士（商学）	1.11 《1.06》	昭和38年度		
国際マーケティング学科	4	300	－	1,200	学士（商学）	1.06 《0.01》	昭和38年度		
金融学科	4	120	－	480	学士（商学）	1.07 《0.97》	平成6年度		
理工学部						－		東京都文京区春日1丁目13番27号	
数学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	昭和37年度		※令和8年4月より学生募集停止
物理学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	昭和37年度		※令和8年4月より学生募集停止
都市環境学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	昭和24年度		※令和8年4月より学生募集停止
精密機械工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	昭和24年度		※令和8年4月より学生募集停止

	電気電子情報通信工学科	4	―	―	―	学士 (工学)	―	昭和24年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	応用化学科	4	―	―	―	学士 (工学)	―	昭和24年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	ビジネスデータサイエンス学科	4	―	―	―	学士 (工学)	―	昭和37年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	情報工学科	4	―	―	―	学士 (工学)	―	平成4年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	生命科学科	4	―	―	―	学士 (理学)	―	平成20年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	人間総合理工学科	4	―	―	―	学士 (工学)	―	平成25年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	基幹理工学部						0.87 《0.87》		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	数学科	4	70	―	70	学士 (理学)	0.81 《0.81》	令和8年度		
	物理学科	4	70	―	70	学士 (理学)	0.92 《0.92》	令和8年度		
	応用化学科	4	145	―	145	学士 (工学)	0.89 《0.89》	令和8年度		
	生命科学科	4	75	―	75	学士 (理学)	0.85 《0.85》	令和8年度		
	社会理工学部						0.98 《0.98》		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	都市環境学科	4	90	―	90	学士 (工学)	0.96 《0.96》	令和8年度		
	ビジネスデータサイエンス学科	4	115	―	115	学士 (工学)	0.99 《0.99》	令和8年度		
	人間総合理工学科	4	75	―	75	学士 (工学)	1.00 《1.00》	令和8年度		
	先進理工学部						0.95 《0.95》		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	精密機械工学科	4	145	―	145	学士 (工学)	0.98 《0.98》	令和8年度		
	電気電子情報通信工学科	4	135	―	135	学士 (工学)	0.91 《0.91》	令和8年度		
	情報工学科	4	100	―	100	学士 (工学)	0.95 《0.95》	令和8年度		
	文学部						1.05 《1.00》		東京都八王子市東中野742番1	
	人文社会学科	4	990	―	3,960	学士 (文学) 学士 (史学) 学士 (哲学) 学士 (社会学) 学士 (教育学)	1.05 《1.00》	平成18年度		
	総合政策学部						1.05 《1.01》		東京都八王子市東中野742番1	
	政策科学科	4	150	―	600	学士 (総合政策)	1.06 《1.02》	平成5年度		

	国際政策文化学科	4	150	—	600	学士 （総合政策）	1.05 《1.01》	平成5年度		
	国際経営学部						1.09 《1.02》		東京都八王子市東中野742番1	
	国際経営学科	4	300	—	1,200	学士 （国際経営学）	1.09 《1.02》	平成31年度		
	国際情報学部						1.07 《1.04》		東京都新宿区市谷田町1丁目18番	
	国際情報学科	4	150	—	600	学士 （国際情報）	1.07 《1.04》	平成31年度		
	通信教育部 （法学部通信教育課程）	4	3,000	—	12,000	学士 （法学）	0.43	昭和25年度	東京都八王子市東中野742番1	
	法学研究科 （博士課程前期課程）						0.23		東京都文京区大塚1丁目4番1	
	公法専攻 （博士課程前期課程）	2	8	—	16	修士 （法学）	0.50	昭和55年度		
	民事法専攻 （博士課程前期課程）	2	20	—	40	修士 （法学）	0.20	昭和26年度		
	刑事法専攻 （博士課程前期課程）	2	10	—	20	修士 （法学）	0.50	昭和26年度		
	国際企業関係法専攻 （博士課程前期課程）	2	20	—	40	修士 （法学）	0.02	平成9年度		
	政治学専攻 （博士課程前期課程）	2	15	—	30	修士 （政治学）	0.26	昭和26年度		
	法学研究科 （博士課程後期課程）						0.44		東京都文京区大塚1丁目4番1	
	公法専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 （法学）	0.77	昭和55年度		
	民事法専攻 （博士課程後期課程）	3	7	—	21	博士 （法学）	0.28	昭和28年度		
	刑事法専攻 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	博士 （法学）	1.06	昭和28年度		
	国際企業関係法専攻 （博士課程後期課程）	3	10	—	30	博士 （法学）	0.16	平成11年度		
	政治学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 （政治学）	0.33	昭和28年度		
	経済学研究科 （博士課程前期課程）						0.55		東京都八王子市東中野742番1	
	経済学専攻 （博士課程前期課程）	2	50	—	100	修士 （経済学）	0.55	昭和26年度		
既設大学等の状況	経済学研究科 （博士課程後期課程）						0.40		東京都八王子市東中野742番1	
	経済学専攻 （博士課程後期課程）	3	10	—	30	博士 （経済学） 博士 （会計学） 博士 （経営学）	0.40	昭和36年度		
	商学研究科 （博士課程前期課程）						1.12		東京都八王子市東中野742番1	

	商学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	―	50	修士 （商学）	1.12	昭和26年度		
	商学研究科 （博士課程後期課程）						0.53		東京都八王子市東中野742番1	
	商学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （商学） 博士 （経営学） 博士 （会計学） 博士 （経済学） 博士 （金融学）	0.53	昭和29年度		
	理工学研究科 （博士課程前期課程）						1.15		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	数学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	―	50	修士 （理学）	0.64	平成3年度		
	物理学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	―	50	修士 （理学）	0.78	昭和42年度		
	都市人間環境学専攻 （博士課程前期課程）	2	60	―	120	修士 （工学）	1.39	昭和28年度		
	精密工学専攻 （博士課程前期課程）	2	52	―	104	修士 （工学）	1.45	昭和30年度		
	電気電子情報通信工学専攻 （博士課程前期課程）	2	45	―	90	修士 （工学）	1.53	昭和30年度		
	応用化学専攻 （博士課程前期課程）	2	45	―	90	修士 （工学）	1.26	昭和30年度		
	ビジネスデータサイエンス専攻 （博士課程前期課程）	2	30	―	60	修士 （工学）	1.05	平成3年度		
	情報工学専攻 （博士課程前期課程）	2	40	―	80	修士 （工学）	0.83	平成8年度		
	生命科学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	―	50	修士 （理学） 修士 （工学）	0.58	平成24年度		
	理工学研究科 （博士課程後期課程）						0.75		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	数学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （理学）	0.11	平成6年度		
	物理学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （理学）	0.22	平成3年度		
	都市人間環境学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （工学）	1.20	昭和30年度		
	精密工学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （工学）	1.33	昭和39年度		
	応用化学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （工学）	0.77	昭和39年度		
	ビジネスデータサイエンス専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （工学）	1.33	平成10年度		
	生命科学専攻 （博士課程後期課程）	3	2	―	6	博士 （理学） 博士 （工学）	0.33	平成25年度		
	電気・情報系専攻 （博士課程後期課程）	3	7	―	21	博士 （工学）	0.57	平成29年度		
	文学研究科 （博士課程前期課程）						0.68		東京都八王子市東中野742番1	

	国文学専攻 （博士課程前期課程）	2	10	―	20	修士 （文学）	0.75	昭和31年度			
	英文学専攻 （博士課程前期課程）	2	10	―	20	修士 （文学）	0.45	昭和31年度			
	独文学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （文学）	0.40	昭和31年度			
	仏文学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （文学）	0.70	昭和30年度			
	中国言語文化専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （文学）	0.40	平成18年度			
	日本史学専攻 （博士課程前期課程）	2	7	―	14	修士 （史学）	0.92	昭和38年度			
	東洋史学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （史学）	0.40	昭和38年度			
	西洋史学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （史学）	0.90	昭和37年度			
	哲学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （哲学）	0.50	昭和31年度			
	社会学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （社会学）	1.80	昭和37年度			
	社会情報学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （社会情報学）	0.40	平成7年度			
	教育学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 （教育学）	0.30	平成4年度			
	心理学専攻 （博士課程前期課程）	2	8	―	16	修士 （心理学）	0.87	平成12年度			
	文学研究科 （博士課程後期課程）						0.51		東京都八王子市東中野742番1		
	国文学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （文学）	0.60	昭和38年度			
	英文学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （文学）	0.06	昭和39年度			
	独文学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （文学）	0.11	昭和37年度			
	仏文学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （文学）	0.22	昭和37年度			
	中国言語文化専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （文学）	0.22	平成20年度			
	日本史学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （史学）	1.40	昭和37年度			
	東洋史学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （史学）	0.55	昭和38年度			
	西洋史学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （史学）	0.11	平成6年度			
	哲学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （哲学）	0.44	昭和37年度			
	社会学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （社会学）	1.00	昭和40年度			
	社会情報学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （社会情報学）	0.11	平成9年度			
	教育学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （教育学）	0.22	平成6年度			

	心理学専攻 （博士課程後期課程）	3	4	―	12	博士 （心理学）	1.08	平成14年度		
	総合政策研究科 （博士課程前期課程）						0.20		東京都八王子市東中野742番1	
	総合政策専攻 （博士課程前期課程）	2	40	―	80	修士 （総合政策）	0.20	平成9年度		
	総合政策研究科 （博士課程後期課程）						0.23		東京都八王子市東中野742番1	
	総合政策専攻 （博士課程後期課程）	3	10	―	30	博士 （総合政策）	0.23	平成11年度		
	国際情報研究科 （修士課程）						0.40		東京都新宿区市谷田町1丁目18番	
	国際情報専攻 （修士課程）	2	25	―	50	修士 （国際情報）	0.40	令和5年度		
	法務研究科 （専門職学位課程）						0.64		東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	法務専攻 （専門職学位課程）	3	160	―	520	法務博士 （専門職）	0.64	平成16年度		※令和7年度 入学定員減 （△40人）
	戦略経営研究科 （専門職学位課程）						1.09		東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	戦略経営専攻 （専門職学位課程）	2	80	―	160	経営修士 （専門職）	1.09	平成20年度		
	戦略経営研究科 （博士課程後期課程）						0.05		東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	ビジネス科学専攻 （博士課程後期課程）	3	12	―	36	博士 （経営管理） 博士 （学術）	0.05	平成22年度		
附属施設の概要		該当なし								

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（スポーツ情報学部スポーツ情報学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目		English Ⅰ	1前	○	1				○			1				4	
		English Ⅱ	1後	○	1				○			1				4	
		検定英語講座	2･3･4前･後			1		○				1				1	メディア
		検定英語初級	2･3･4後			1		○				1					
		検定英語中級	2･3･4後			1		○				1					
		検定英語上級	2･3･4後			2		○				1					
	特別科目	日本語BⅠ（1）	1前			1		○								1	※演習
		日本語BⅠ（2）	1後			1		○								1	※演習
		日本語BⅠ（3）	2前			1		○								2	※演習
		日本語BⅠ（4）	2後			1		○								2	※演習
		日本語BⅡ（1）	1前			1		○								1	※演習
		日本語BⅡ（2）	1後			1		○								1	※演習
		日本語BⅡ（3）	2前			1		○								1	※演習
		日本語BⅡ（4）	2後			1		○								1	※演習
		小計(14科目)	－	－	2	13	0	－			0	1	0	0	0	7	－
総合教育科目		法学	1･2･3･4前			2		○								1	
		人間工学	1･2･3･4後			2		○								1	
		美学	1･2･3･4前			2		○								1	
		美術史概論	1･2･3･4後			2		○								1	
		色彩学	1･2･3･4前			2		○								1	
		プロダクトデザイン	1･2･3･4後			2		○								1	
		建築・デザイン概論	1･2･3･4前			2		○								1	
		音楽と文化	1･2･3･4後			2		○								1	
		環境工学	1･2･3･4前			2		○								1	
		総合講座	1･2･3･4後			2		○			1						
		ヒューマンウエルネス論	1･2･3･4前			2		○			2						オムニバス
		スポーツリスクマネジメント論	1･2･3･4前			2		○			1						
		スポーツ心理学	1･2･3･4後			2		○			1						
		救急救命システム論	1･2･3･4後			2		○			1						
		生体システム論	1･2･3･4後			2		○				1					
		スポーツ実技1	1･2･3･4前･後			1				○	3	1					
		スポーツ実技2	1･2･3･4前･後			1				○						2	
		スポーツ実技3	1･2･3･4休			1				○	2	1					標準外
		小計(18科目)	－	－	0	33	0	－			4	2	0	0	0	11	－
	数理基礎	スポーツと数学	1前	○	2			○			3	1					※演習
		微分積分Ⅰ	1前	○	2			○			2						
		線形代数Ⅰ	1後	○	2			○			2						
		微分積分Ⅱ	2前	○		2		○			1						
		線形代数Ⅱ	2後	○		2		○			1						
		微分積分演習	1前	○	1				○		2					1	
		線形代数演習	1後	○	1				○		2					1	
		力学	1前			2		○			1						
		小計(8科目)	－	－	8	6	0	－			6	1	0	0	0	1	－
	情報基礎	デジタルコミュニケーションⅠ	1前	○	2			○			2	1		1			※演習
		デジタルコミュニケーションⅡ	1後	○		2		○			2	1		1			※演習
		アルゴリズムとプログラミングⅠ	2前	○	2			○			1	1					※演習
		アルゴリズムとプログラミングⅡ	2後	○		2			○		2						
		デジタルデザイン	1後			2		○			1						
		プロジェクトマネジメント	2前			2		○								1	
		小計(6科目)	－	－	4	8	0	－			3	1	0	1	0	1	－

専門基礎科目	データサイエンス基礎	スポーツデータ測定入門	1前	○	2			○			3	2					※演習
		スポーツと統計学	1後	○	2			○			2	4					
		確率統計	2前	○		2		○			1						
		AI・データサイエンスと現代社会	1前	○	2			○								3	オムニバス・メディア
		データサイエンス基礎技術Ⅰ	1後	○	2			○				1				1	オムニバス・メディア ※演習
		データサイエンス基礎技術Ⅱ	2前	○	2			○			1					1	オムニバス・共同（一部）・メディア ※演習
		AI・データサイエンス応用基礎	2後	○	2			○			1						メディア
		社会調査法	2前			2		○				1					
		小計(8科目)	－	－	12	4	0	－			5	6	0	0	0	5	－
	経営学基礎	経営学	1前	○	2			○				1					
		マーケティング論Ⅰ	1後	○	2			○			1						
		マーケティング論Ⅱ	2前	○	2			○			1						
		財務会計論	1後	○	2			○								1	
		経営戦略論	2前	○	2			○			1						
		デザインシンキング	2前			2		○			1						
		管理会計論	2後	○		2		○			1						
		ファイナンス	2前			2		○				1					
		経営組織論	2後			2		○			1						
		小計(9科目)	－	－	10	8	0	－			5	2	0	0	0	1	
	経済学基礎	ミクロ経済学	1後	○	2			○			1	1					
		マクロ経済学	2前	○		2		○			2						
		地域社会産業論	2後			2		○			1						
		公共政策論	2前			2		○				1					
		地域産業連関分析	2後			2		○			1						※演習
		政策評価論	2前			2		○			1						
		小計(6科目)	－	－	2	10	0	－			3	2	0	0	0	0	
専門展開科目	統計・数理モデリング	多変量解析Ⅰ	2前	○	2			○			1	2					※演習
		多変量解析Ⅱ	2後	○	2			○			1	2					※演習
		線形モデル	3前	○		2		○			1						
		最適化	3後	○		2		○			1						
		オペレーションズ・リサーチ	3前			2		○			1						
		質的データ解析	3後			2		○			1						※演習
		時系列解析	3後			2		○			1						※演習
		小計(7科目)	－	－	4	10	0	－			4	3	0	0	0	0	
	AI・情報技術	データベース	2後	○		2		○			1						※演習
		機械学習Ⅰ	3前	○		2		○				1		1			※演習
		機械学習Ⅱ	3後	○		2		○						1			※演習
		スポーツとXR技術	2後			2		○				2					※演習
		データ構造とアルゴリズム	3前			2		○				1					※演習
		画像処理とAI動作解析	3後			2		○						1			※演習
		コンピュータシミュレーション	4前			2		○			1						※演習
		AIと身体性認知科学	3後			2		○			1						
		自然言語処理と生成AI	4前			2		○								1	※演習
		データサイエンス特講	3後			2		○			1						※演習
		小計(10科目)	－	－	0	20	0	－			3	3	0	1	0	1	
	スポーツデータサイエンス	スポーツテックとデータ活用	2後	○	2			○			1	3					※演習
		スポーツ情報戦略・戦術論	2前			2		○				1					※演習
		スポーツ映像分析論	3前			2		○				2					※演習
		スポーツと計量社会学	3後			2		○				1					
		モーションデータ解析	3前			2		○				1					
		データに基づくコンディショニング	3後			2		○								1	
		データに基づくコーチング	4前			2		○								1	
		小計(7科目)	－	－	2	12	0	－			1	5	0	0	0	1	－
	ビジネスデータサイエンス	ビジネスデータサイエンス	2後	○	2			○			1						
		デジタル・マーケティング	3前			2		○								1	
		計量経済学と因果推論	3後			2		○				1					※演習
		ビジネスデータマイニング	3前			2		○			1						※演習
		小計(4科目)	－	－	2	6	0	－			1	1	0	0	0	1	－
	スポーツビジネス	スポーツビジネス論	2前	○	2			○				1					
		スポーツマーケティング	2後	○	2			○			2						
		スポーツ倫理学	2前			2		○			1						
		スポーツ経済学	2後	○		2		○			1						
		スポーツマネジメント	3･4前	○		2		○				1					
		サービスイノベーション論	3･4前			2		○				1					
		スポーツツーリズム	3･4後			2		○			1						
		スポーツメディア論	3･4前			2		○				1					
		スポーツ文化論	2後			2		○				1					
		スポーツファイナンス	3･4前			2		○			1						
		スポーツ政策論	3･4後			2		○				1					

		ｅスポーツビジネス論	3･4後			2		○			1							
		スポーツファシリティマネジメント	3･4前			2		○				1						
		スポーツ産業論	3･4後			2		○			1							
		生涯スポーツ論	3･4前			2		○			1							
		グローバル・スポーツビジネス論	3･4後			2		○			1							
		スポーツビジネス特講	3･4後			2		○			1							
		スポーツスポンサーシップ論	3･4前			2		○			1							
		小計(18科目)	－	－	4	32	0	－			7	3	0	0	0	0	－	
	卒業論文	卒業論文	4後			2			○		15	10		1				
		小計(1科目)	－	－	0	2	0	－			15	10	0	1	0	0	－	
演習・実習・実践科目	演習	基礎演習	1前	○	2				○		18	10		1				
		専門演習A1	3前	○	2				○		15	10		1				
		専門演習A2	3後	○	2				○		15	10		1				
		専門演習B1	4前	○	2				○		15	10		1				
		専門演習B2	4後	○	2				○		15	10		1				
		小計(5科目)	－	－	10	0	0	－			18	10	0	1	0	0	－	
	スポーツビジネス実践	スポーツ統括団体（リーグ・協会）経営論	1･2･3･4前			2		○			1							
		Jリーグビジネス論Ⅰ	1･2･3･4前			2		○			1							
		スポーツ代理人・マネジメント論	1･2･3･4後			2		○								1		
		Jリーグビジネス論Ⅱ	1･2･3･4後			2		○			1							
		スポーツアナリティクス実践論	1･2･3･4前			2		○				2					オムニバス	
		スポーツツーリズム実践論	1･2･3･4前			2		○			1							
		スポーツビジネス・プロジェクトⅠ	1･2･3･4前			2			○							1		
		スポーツビジネス・プロジェクトⅡ	1･2･3･4後			2			○							1		
		イベントプロデュース演習	1･2･3･4前			2			○			1						
		イベントマネジメント演習	1･2･3･4後			2			○		1							
		イベントプロデュース実習	1･2･3･4休			2				○		1					標準外	
		イベントマネジメント実習	1･2･3･4休			2				○	1						標準外	
		グローバル・スポーツビジネス・キャリア実習	1･2･3･4休			2				○						1	標準外	
		スポーツアナリティクス実習	1･2･3･4後			2				○		2					オムニバス ※講義	
		小計(14科目)	－	－	0	28	0	－			3	3	0	0	0	2	－	
学部間共通科目		短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						4	標準外・メディア	
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						4	標準外・メディア	
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外・メディア	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外・メディア	
		FLP演習A	2通			4			○		1					20	メディア	
		FLP演習B	3通			4			○		1					20	メディア	
		FLP演習C	4通			4			○		1					21	メディア	
		グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								1		
		専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						1	標準外	
		グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・共同（一部）	
		グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	標準外	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							1	メディア	
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1		
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○				1				4	オムニバス・共同（一部）・メディア	
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4前			2		○								1	メディア	
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○			1						メディア	
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○		1	1				2	メディア	
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○		1	1				2	メディア	
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○		1	1				2	メディア	
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○		1	1				2	メディア	
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○		1	1				2	メディア	
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○		1	1				2	メディア	
		大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前･後			2		○								1	メディア	
		大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前･後			2		○								1	メディア	
		小計(24科目)	－	－	0	55	0	－			2	1	0	0	0	46	－	
科目随意		学術情報の探索・活用法	1･2前･後				2	○								1	メディア	
		小計(1科目)	－	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	1	－	
合計(160科目)			－	－	60	247	2	－			18	11	0	1	0	71	－	

学位又は称号	学士(スポーツ情報)	学位又は学科の分野	工学関係、経済学関係

卒　業　・　修　了　要　件　及　び　履　修　方　法	授業期間等	
■「外国語科目」及び「総合教育科目」から計14単位以上　修得 ①「外国語科目」から「English Ⅰ」「English Ⅱ」の計2単位を含む3単位以上必修 ②「総合教育科目」のうち「法学」「人間工学」「美学」「美術史概論」「色彩学」「プロダクトデザイン」「建築・デザイン概論」「音楽と文化」「環境工学」「総合講座」から4単位以上　修得 ③「総合教育科目」のうち「ヒューマンウエルネス論」「スポーツリスクマネジメント論」「スポーツ心理学」「救急救命システム論」「生体システム論」から計4単位以上 修得 ④「総合教育科目」のうち「スポーツ実技1」「スポーツ実技2」「スポーツ実技3」から1単位以上 修得 ■「専門基礎科目」 ・データサイエンスコース：50単位以上　修得 ①コース共通の必修科目に加えて「微分積分Ⅱ」「線形代数Ⅱ」「デジタルコミュニケーションⅡ」「アルゴリズムとプログラミングⅡ」「確率統計」の計10単位　必修 ②「数理基礎」区分、「情報基礎」区分、「データサイエンス基礎」区分からコース共通・①のコース必修科目を含めて計36単位以上　修得 ・スポーツビジネスコース：48単位以上　修得 ①コース共通の必修科目に加えて「管理会計論」「マクロ経済学」の計4単位　必修 ②「経営学基礎」区分からコース共通・①のコース必修科目を含めて計14単位以上　修得 ③「経済学基礎」区分からコース共通・①のコース必修科目を含めて計6単位以上　修得 ■「専門展開科目」 ・データサイエンスコース：48単位以上　修得 ①コース共通の必修科目に加えて「線形モデル」「最適化」「データベース」「機械学習Ⅰ」「機械学習Ⅱ」の計10単位　必修 ②「統計・数理モデリング」区分、「AI・情報技術」区分、「スポーツデータサイエンス」区分からコース共通・①のコース必修科目を含めて計28単位以上 修得 ③「ビジネスデータサイエンス」区分、「スポーツビジネス」区分からコース共通の必修科目を含めて計10単位以上　修得 ・スポーツビジネスコース：44単位以上　修得 ①コース共通の必修科目に加えて「スポーツ経済学」「スポーツマネジメント」の計4単位必修 ②「統計・数理モデリング」区分、「AI・情報技術」区分、「スポーツデータサイエンス」区分からコース共通の必修科目を含めて計10単位以上　修得 ③「ビジネスデータサイエンス」区分、「スポーツビジネス」区分からコース共通・①のコース必修科目を含めて計26単位以上　修得 ■「演習・実習・実践科目」 データサイエンスコース 14単位以上、スポーツビジネスコース 22単位以上　修得（コース共通の必修科目を含む） ■卒業単位として認める単位を合計130単位以上　修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位） ※コース共通の必修科目は、本様式「単位数」のうち必修としている科目を指す。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経済学部経済学科）※既設学部等

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	導入科目	入門演習	1前･後	○		2			○		5	7				29	
		経済入門	1前･後	○		2		○			2	3				12	オムニバス（一部）
		基礎数学Ａ１	1･2･3前			2		○								3	
		基礎数学Ｂ１	1･2･3前			2		○								2	
		基礎数学Ａ２	1･2･3後			2		○								3	
		基礎数学Ｂ２	1･2･3後			2		○								2	
		キャリアデザイン	1前･後			2		○								3	標準外（一部）
		ビジネス・プロジェクト講座	1前･後			2		○								3	
		小計(8科目)	－	－	0	16	0	－			6	7	0	0	0	41	－
	基礎科目	基礎マクロ経済学	1前･後	○	4			○			3					2	メディア（一部）
		基礎ミクロ経済学	1前･後	○	4			○			2	1				2	
		日本経済史	1前･後	○		4		○				2					
		西洋経済史	1前･後	○		4		○			1	1					
		マルクス経済学	2･3前	○		4		○			1	1					
		経済政策論	2･3前･後	○		4		○								3	
		経済学史	2･3前･後	○		4		○								2	
		小計(7科目)	－	－	8	20	0	－			6	5	0	0	0	6	－
	学科基本科目	財政学	2･3前･後	○		4		○								1	
		金融論Ⅰ	2･3前･後	○		4		○			1	1					
		社会政策	2･3前･後	○		4		○				2					
		社会思想史	2･3前･後	○		4		○			2						
		中級マクロ経済学	2後	○		4		○			2						
		中級ミクロ経済学	2前	○		4		○			1	1					
		独占資本主義論	3前･後	○		4		○			1					1	
		小計(7科目)	－	－	0	28	0	－			6	4	0	0	0	2	－
		統計学	1前･後	○		4		○								1	
		国際金融論	2後	○		4		○								1	
		国際経済学	2前･後	○		4		○								2	
		公共経済学	2前	○		4		○								2	
		経済数学	2前	○		4		○								1	
		経済変動論	3･4前	○		4		○			1						
		金融論Ⅱ	3･4後	○		4		○			1						
		マクロ会計論	3･4前	○		2		○								1	
		日本経済論	3･4前	○		4		○								1	
		産業組織論	3･4前	○		4		○								1	
		租税論	3･4後	○		4		○								1	
		計量経済学	3･4前	○		4		○								1	
		証券市場論	3･4後	○		4		○								1	
		地方財政論	3･4後	○		4		○								1	
		経済総合クラスター演習	3･4後	○		2			○			1					
		経済総合クラスター特殊講義	3･4後	○		2		○				1					
		人口論	2前	○		4		○								1	
		環境経済学	2後	○		4		○								1	
		産業社会学	2後	○		2		○								1	
		労働経済学	3･4前	○		4		○			1						
		労使関係論	3･4前	○		4		○			1						
		人口分析	3･4前	○		4		○			1						
		社会保障論	3･4前	○		4		○								1	
		社会福祉論	3･4後	○		4		○								1	
		健康経済学	3･4後	○		4		○								1	
		ジェンダーと労働	3･4前	○		4		○								1	
		空間経済学	3･4前･後	○		4		○								1	
		社会と環境	3･4前	○		2		○								1	
		ヒューマンエコノミークラスター演習	3･4前	○		2			○		1						
		ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	3･4前	○		2		○			1						
		小計(30科目)	－	－	0	106	0	－			5	1	0	0	0	22	－
		経営学	2前･後			4		○								1	
		産業構造論	2前			4		○								1	
		ＩＣＴスキル	3前･後			4		○								4	

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	経済学科科目	簿記論	1前･後			4		○								2	
		入門統計演習	1前･後			2			○							4	
		入門ＩＣＴ演習	1前･後			2			○							7	
		地域システム	2前			4		○								1	
		財務会計論	2前			4		○								1	
		管理会計論	2前			4		○								1	
		経営戦略論	3･4後			4		○								1	
		経営組織論	3･4前			4		○								1	
		交通経済論	3･4前			4		○								1	
		農業経済論	3･4後			4		○								1	
		中小企業論	3･4後			4		○								1	
		公益企業論	3･4後			4		○								1	
		生産システム	3･4前			4		○								1	
		流通システム	3･4後			4		○								1	
		環境会計論	3･4後			4		○								1	
		先端産業論	3･4後			2		○								1	
		ベンチャー起業論	3･4後			2		○								1	
		監査論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		監査論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		税務会計論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		税務会計論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		企業経済クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		情報数学	2後			4		○								1	
		情報科学	2前			4		○								1	
		応用統計	3･4後			4		○								1	
		経済統計	3･4後			4		○								1	
		システムデザイン	3･4後			4		○								1	
		ＩＣＴ応用演習	3･4通			4			○							1	
		データ分析演習	3･4前･後			2			○							1	
		経済情報クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		世界経済論	2後			4		○								1	
		国際経済政策	3前			4		○								1	
		国際開発論	3後			4		○								1	
		国際関係論	2前			4		○								1	
		Economics Seminar Ⅰ	2前			2			○			1					
		外国為替論	3･4前			4		○								1	
		国際経営論	3･4後			4		○								1	
		米国経済論	3･4前			4		○								1	
		ＥＵ経済論	3･4前			4		○								1	
		国際投資論	3･4前			2		○								1	
		地域経済統合論	3･4後			2		○								1	
		Economics Seminar Ⅱ	3･4後			2			○			1					
		資源論	3･4後			2		○								1	
	専門教育科目	貿易・国際金融クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		国際協力論	2前			2		○								1	
		アジア経済論	3･4前			4		○								1	
		開発と環境	3･4後			2		○								1	
		多国籍企業論	3･4前			2		○								1	
		中国経済論	3･4前			2		○								1	
		開発金融論	3･4前			2		○								1	
		アジア経営論	3･4前			2		○								1	
		経済開発クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		公共政策	3前			4		○								1	
		国際公共政策	3後			4		○								1	
		行政学	3後			4		○								1	
		地方自治論	3･4前			2		○								1	
		都市経営論	3･4後			2		○								1	
		非営利組織論	3･4前			2		○								1	
		地域ガバナンス論	3･4前			2		○								1	
		費用便益分析	3･4後			2		○								1	
		公共クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		環境科学Ⅰ	2前			2		○								1	
		環境科学Ⅱ	2後			2		○								1	
		環境倫理学	2後			2		○								1	

区科分目			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
			環境政策Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			環境政策Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			企業と環境	3･4前			2		○								1	
			環境リスク論	3･4後			2		○								1	
			環境クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
			小計(72科目)	－	－	0	212	0	－			0	1	0	0	0	60	－
		法律プログラム	憲法	1前			4		○								1	
		法律プログラム	民法Ⅰ	2通			4		○								1	
		法律プログラム	商法Ⅰ	2後			4		○								1	
		法律プログラム	民法Ⅱ	3･4通			4		○								1	
		法律プログラム	商法Ⅱ	3･4前			4		○								1	
		法律プログラム	行政法	3･4通			4		○								1	
		法律プログラム	経済法	3･4後			4		○								1	
		法律プログラム	労働法	3･4通			4		○								1	
		法律プログラム	知的財産法	3･4後			4		○								1	
		法律プログラム	国際法	3･4前			4		○								1	
		法律プログラム	小計(10科目)	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		学部共通科目	外国書講読（英）	3･4前			4		○								1	
		学部共通科目	外国書講読（独）	3･4通			4		○			1						
		学部共通科目	外国書講読（仏）	3･4通			4		○				1					
		学部共通科目	外国書講読（中）	3･4通			4		○								1	
		学部共通科目	学部共通インターンシップⅠ	2前			2		○								1	標準外
		学部共通科目	学部共通インターンシップⅡ	2後			2		○								1	
		学部共通科目	インターンシップ	3･4通			4		○								7	標準外　※実験・実習
		学部共通科目	海外インターンシップ演習	2･3･4前			2			○							4	
		学部共通科目	海外インターンシップ実習	2･3･4休			2				○						4	標準外
		学部共通科目	特殊講義Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		学部共通科目	特殊講義Ⅱ	3･4後			2		○			1						
		学部共通科目	特殊講義Ⅲ	3･4前			2		○			1						
		学部共通科目	特殊講義Ⅳ	3･4前			2		○								1	
		学部共通科目	演習１	2通			4			○		13	9				37	
		学部共通科目	演習２	3通			4			○		13	9				34	
		学部共通科目	課題演習	3通			4			○							1	
		学部共通科目	演習３	4通･後			6			○		14	8				35	メディア（一部）
		学部共通科目	特別講義Ⅰ	2･3･4前･後			2		○								5	
		学部共通科目	特別講義Ⅱ	2･3･4後			2		○								4	オムニバス
		学部共通科目	特別講義Ⅲ	2･3･4後			2		○								1	
		学部共通科目	特別講義Ⅳ	2･3･4前･後			2		○								3	
		学部共通科目	特別講義Ⅴ	2･3･4前			2		○								1	
		学部共通科目	特別講義Ⅵ	2･3･4後			2		○								1	
		学部共通科目	総合講座Ⅰ	1･2･3･4後			4		○								1	
		学部共通科目	総合講座Ⅱ	1･2･3･4前			4		○								1	
		学部共通科目	総合講座Ⅲ	1･2･3･4前･後			2		○			3					1	
		学部共通科目	総合講座Ⅳ	1･2･3･4後			2		○				1				4	
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	1後			6				○						1	標準外
		学部共通科目	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								2	オムニバス
		学部共通科目	学術情報の探索・活用法	1･2前･後				2	○								1	メディア
		学部共通科目	小計(38科目)	－	－	0	92	4	－			14	9	0	0	0	70	－
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○							20	メディア
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○							26	メディア
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		1					26	メディア
		学部間共通科目	グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								6	
		学部間共通科目	専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						2	オムニバス・標準外
		学部間共通科目	グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								4	オムニバス
		学部間共通科目	グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	共同（一部）　標準外
		学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							2	オムニバス・メディア

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	標準外
		短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○		1				8	オムニバス（一部）・メディア 標準外
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○		1				8	オムニバス（一部）・メディア 標準外
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○								6	オムニバス・メディア
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○								11	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							3	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							3	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		小計(27科目)	－	－	0	61	0	－			1	1	0	0	0	85	－
		英語１ａ	1前･後	○		1		○				1				20	
		英語１ｂ	1前･後	○		1		○				1				20	
		英語２ａ	1前･後	○		1			○			2				23	
		英語２ｂ	1前･後	○		1			○			2				23	
		英語３ａ	2前･後	○		1		○				1				21	
		英語３ｂ	2前･後	○		1		○				1				21	
		英語４ａ	2前･後	○		1			○			1				24	
		英語４ｂ	2前･後	○		1			○			1				24	
		ドイツ語１ａ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語１ｂ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語２ａ	1前･後	○		1		○				1				6	
		ドイツ語２ｂ	1前･後	○		1			○			1				6	
		ドイツ語３ａ	2前･後	○		1			○							5	
		ドイツ語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		ドイツ語４ａ	2前･後	○		1			○			1				7	
		ドイツ語４ｂ	2前･後	○		1			○			1				7	
		フランス語１ａ	1前･後	○		1		○			1					6	
		フランス語１ｂ	1前･後	○		1		○			1					6	
		フランス語２ａ	1前･後	○		1			○		1					6	
		フランス語２ｂ	1前･後	○		1			○		1					6	
		フランス語３ａ	2前･後	○		1		○			1					4	
		フランス語３ｂ	2前･後	○		1		○			1					4	
		フランス語４ａ	2前･後	○		1			○		1					4	
		フランス語４ｂ	2前･後	○		1			○		1					4	
	Ⅰ系	中国語１ａ	1前･後	○		1		○								17	
		中国語１ｂ	1前･後	○		1		○								17	
		中国語２ａ	1前･後	○		1			○							12	
		中国語２ｂ	1前･後	○		1			○							12	
		中国語３ａ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語３ｂ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語４ａ	2前･後	○		1			○							11	
		中国語４ｂ	2前･後	○		1			○							11	
		スペイン語１ａ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語１ｂ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語２ａ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語２ｂ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語４ａ	2前･後	○		1			○							7	
		スペイン語４ｂ	2前･後	○		1			○							7	
		朝鮮語１ａ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語１ｂ	1前･後	○		1		○								3	

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目		朝鮮語２ａ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語２ｂ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語３ａ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語３ｂ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語４ａ	2前･後	○		1			○							3	
		朝鮮語４ｂ	2前･後	○		1			○							3	
		小計(48科目)	－	－	0	48	0	－			1	3	0	0	0	97	－
	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1				8	
		オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1				8	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（英語３ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		特設英語１ａ	1･2･3･4前	○		1		○				1				4	
		特設英語１ｂ	1･2･3･4後	○		1		○				1				4	
		特設英語２ａ	1･2･3･4前	○		1		○				1				4	
		特設英語２ｂ	1･2･3･4後	○		1		○				1				4	
		特設ドイツ語１ａ	2･3･4前			1		○				1					
		特設ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1		○				1					
		特設ドイツ語２ａ	2･3･4前			1		○				1					
		特設ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1		○				1					
		特設フランス語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設中国語１ａ	1前			1		○								1	
		特設中国語１ｂ	1後			1		○								1	
		特設中国語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設中国語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		小計(46科目)	－	－	0	46	0	－			0	3	0	0	0	25	－
		上級英語１	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語２	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語３	2･3･4前	○		2			○			1					
		上級英語４	2･3･4後	○		2			○			1					
		上級英語５	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語６	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級ドイツ語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級ドイツ語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	Ⅲ系		上級フランス語１ａ	2･3･4前			1			○		1						
			上級フランス語１ｂ	2･3･4後			1			○		1						
			上級フランス語２ａ	2･3･4前			1			○		1						
			上級フランス語２ｂ	2･3･4後			1			○		1						
			上級中国語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級中国語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級中国語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級中国語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級スペイン語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級スペイン語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級スペイン語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級スペイン語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級朝鮮語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級朝鮮語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級朝鮮語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級朝鮮語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			小計(26科目)	－	－	0	32	0	－			1	1	0	0	0	6	－
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語ＡⅠ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			小計(16科目)	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		Bコース	日本語ＢⅠ（1）	1前	○		1		○								5	※演習
			日本語ＢⅡ（1）	1前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（2）	1後	○		1		○								5	※演習
			日本語ＢⅡ（2）	1後	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅡ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅡ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			小計(8科目)	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	12	－
		日本事情	日本事情	1前･後			2		○								1	
			小計(1科目)	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	1	－
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ科学論	1前･後	○	2			○								2	
			健康・スポーツ実習Ⅰａ	1前	○	1					○						14	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1後	○	1					○						14	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅱａ	2･3･4前			1				○						5	
			健康・スポーツ実習Ⅱｂ	2･3･4後			1				○						7	
			健康・スポーツ実習Ⅲａ	2･3･4前			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2･3･4後			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅳ	2･3･4前			2				○						1	
			小計(8科目)	－	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	19	－
		人文科学	哲学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			倫理学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			日本史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			アジア史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			欧米史Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			社会心理学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			文学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			総合教育科目演習Ⅰ（人文）	1通	○		4			○							1	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	10	－
			政治学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
総合教育科目	基本科目	社会科学	政治学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			社会学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			法学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（社会）	1通	○		4			○							2	
			小計(7科目)	－	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	8	－
		自然科学	地球科学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			生命科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			地球科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			微分積分Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								4	
			線形代数Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			地球環境論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（自然）	1通	○		4			○							4	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	11	－
			日本史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			アジア史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			欧米史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会心理学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			文学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			地誌学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			政治学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			法学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅱ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			生命科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			地球科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			微分積分Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								4	
			線形代数Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			地球環境論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ａ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			国際教養Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			言語と文化Ａ	1･2･3･4前	○		2		○			1						
			言語と文化Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○				1					
			言語と文化Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			言語と文化Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			言語と文化Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○				1					
			総合教育科目演習Ⅱ（人文）	2･3･4通	○		4			○							1	
			総合教育科目演習Ⅱ（社会）	2･3･4通	○		4			○							2	
			総合教育科目演習Ⅱ（自然）	2･3･4通	○		4			○							4	
			小計(30科目)	－	－	0	66	0	－			1	1	0	0	0	34	－
		教職科目	外国史	1後				2	○								1	
			人文地理学	1前･後				2	○								1	
			自然地理学	1前･後				2	○								1	
			社会科・地理歴史科教育法1	3前				2		○							3	
			社会科・地理歴史科教育法2	3後				2		○							3	
			社会科・公民科教育法1	3前				2		○							3	
			社会科・公民科教育法2	3後				2		○							3	
			職業指導Ⅰ	3前				2	○								1	
			職業指導Ⅱ	3後				2	○								1	
			商業科教育法1	3前				2		○							1	
			商業科教育法2	3後				2		○							1	
			小計(11科目)	－	－	0	0	22	－			0	0	0	0	0	11	－
合計(416科目)				－	－	12	859	26	－			14	11	0	0	0	363	－
学位又は称号				学士（経済学）		学位又は学科の分野			経済学関係									

区科分目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門教育科目」区分から62単位以上修得 ・「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」の２科目８単位修得 「日本経済史」から「経済学史」までの５科目から８単位以上修得、ただし「日本経済史」「西洋経済史」の２科目とも修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。 ・「財政学」から「社会思想史」までの４科目から８単位以上、「中級マクロ経済学」から「独占資本主義論」までの３科目から４単位以上、「統計学」から「ヒューマンエコノミークラスター特殊講義」までの30科目から12単位以上修得 ■「外国語科目」区分から14単位以上（外国人留学生については、16単位以上）修得 ・ 英語６単位以上、その他の外国語１カ国語６単位以上修得 ■「健康・スポーツ科目」区分から４単位以上修得 ・「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までの３科目４単位修得 ■「総合教育科目」区分から24単以上修得 ・「基本科目」区分のうち、「人文科学」区分から４単位以上、「社会科学」区分から４単位以上、「自然科学」区分から４単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を133単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際情報学部国際情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
情報基盤	国際情報概論	1前	○	2			○			14	3		1			オムニバス・共同
	基礎情報学	1前	○	2			○			1						
	プログラミングのための数学	1前			2		○								1	
	インターネット概論	1前	○	2			○			1						
	情報フルエンシー	1前	○	2			○			3					5	
	プログラミング基礎	1後	○	2			○			3	1				4	
	統計学	1後			2		○								1	
	データサイエンス基礎	1後			2		○				1					
	情報倫理	1後	○	2			○			1						
	先端国際情報学	2前	○	2			○			1						
	情報理論	2前	○	2			○				1					
	問題解決とアルゴリズム	2後			2		○								1	
	コンピュータアーキテクチャ	2前			2		○			1						
	情報ネットワーク論	2前			2		○				1					
	システム開発論	2前			2		○			1						
	情報セキュリティ論	2前			2		○			1						
	アプリケーション開発	2後			2		○			1						
	OSとハードウェア	2後			2		○			1						
	リスクコミュニケーション	2後			2		○			1						
	意思決定論	2後			2		○								1	
	システムマネジメント	2後			2		○								1	
	データベース論	3･4前			2		○				1					
	システムとソフトウェア	3･4前			2		○			1						
	SNSとコミュニケーション	3･4前			2		○								1	
	情報産業における人的資源管理論	3･4前			2		○								1	
	ICTケーススタディ（ネットワーク構築）	3･4前			2		○			1						
	セキュリティマネジメント	3･4前			2		○								1	
	データマイニングとAI	3･4後			2		○				1					
	小計(28科目)	－	－	16	40	0	－			15	3	0	1	0	13	－
情報法	法学概論	1前	○	2			○				1					
	民事法（総則と情報契約法）	1前	○	2			○			1						
	情報政策概論	1後	○	2			○			1						
	情報と憲法	1後	○	2			○			1						
	刑事法（概論）	1後	○	2			○				1					
	情報法	1後	○	2			○			1						
	民事法（情報不法行為法）	2前	○	2			○			1						
	民事法（財産法総合）	2前			2		○								1	
	知的財産法	2前			2		○								2	オムニバス・共同
	国際法	2前			2		○								1	
	情報プライバシー権法	2前	○	2			○			1						
	AI・ロボット法	2前	○	2			○			1						
	法情報学	2前			2		○			1						
	情報政策ワークショップ	2後			2		○			2						オムニバス・共同
	行政法（情報行政法）	2後	○	2			○			1						
	情報通信法	2後			2		○			1						
	民事法（債権法総合）	2後			2		○								1	
	刑事法（サイバー犯罪の刑事規制）	2後			2		○				1					
	法と経済学	2後			2		○			1						
	ICTビジネスと公共政策	3･4前			2		○			1						
	情報政策事例研究	3･4前			2		○			1						
	競争法（情報競争法）	3･4前			2		○			1						
	企業と情報法	3･4前			2		○			1						
	国際私法	3･4前			2		○								1	
	刑事法（サイバーセキュリティと刑事法）	3･4前			2		○								1	
	情報判例研究A	3･4前			2		○				1					
	情報判例研究B	3･4前			2		○			1						
	情報と国家安全保障	3･4後			2		○			1						
	著作権実務	3･4後			2		○								1	
	消費者保護法	3･4後			2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門科目群		国際規約と国際標準化団体	2前			2		○			1						
		電子商取引法	3･4後			2		○								1	
		刑事法（デジタル・フォレンジック）	3･4後			2		○								1	
		法交渉学	3･4後			2		○								1	
		小計(34科目)	－	－	20	48	0	－			6	1	0	0	0	10	－
	関連科目	学問最前線	1前			2		○			3	1					オムニバス
		学際最前線	3･4前			2		○			1	1					オムニバス
		イノベーションと技術	3･4前			2		○								1	
		インターフェースデザインとユーザ体験	3･4前			2		○								1	
		システムコンサルティング技法	3･4前			2		○			1						
		情報戦略論	3･4前			2		○								1	メディア
		システム監査論	3･4前			2		○			1						
		プロジェクトマネジメント	3･4後			2		○			1						
		技術戦略論	3･4後			2		○								1	
		DX戦略	3･4後			2		○			1						
		デジタルブランディング	3･4後			2		○								1	
		ITILとサービスマネジメント	3･4後			2		○								1	
		ICTケーススタディ（セキュリティインシデント）	3･4後			2		○			1						
		小計(13科目)	－	－	0	26	0	－			5	2	0	0	0	6	－
	情報実践	メディア論	1後			2		○			1						
		ジャーナリズム論	1後			2		○			1						
		映像制作基礎	1後			2		○								1	
		Practical English for Informatics	2前			2		○			1						
		English for Current Topics	2前			2		○								1	
		情報社会学Ⅰ	2前			2		○			1						
		ドキュメンタリー論	2前			2		○			1						
		特殊講義A1	2前			2		○			1						
		特殊講義A3	2後			2		○								1	
		Technical Writing	2後			2		○								1	
		情報社会学Ⅱ	2後			2		○			1						
		特殊講義A2	2後			2		○			1						
		特殊講義A4	2後			2		○								1	
		デジタルメディアとコンテンツ	3･4前			2		○								1	
		情報サービスとゲーミフィケーション	3･4前			2		○								1	
		金融情報システム論	3･4前			2		○								1	
		情報教育論	3･4前			2		○								1	
		ICTケーススタディ（パケットキャプチャ）	3･4前			2		○								1	
		特殊講義B1	3･4前			2		○			1						
		特殊講義B2	3･4後			2		○								1	
		特殊講義B3	3･4後			2		○								1	
		広告論	3･4後			2		○								1	
		パブリックコミュニケーション	3･4後			2		○								1	
		ネットビジネスとマネタイズ	3･4後			2		○								1	
		情報と言語	3･4後			2		○			1						
		情報とガバナンス	3･4後			2		○						1			
		ブロックチェーンとWeb3	3･4後			2		○			1						
		特殊講義B4	3･4後			2		○			1						
		特殊講義B5	3･4後			2		○			1						
		特殊講義B6	3･4後			2		○			1						休講
		小計(30科目)	－	－	0	60	0	－			5	0	0	1	0	14	－
演習科目群		基礎演習	1前	○	2				○		13	3		1			
		国際情報演習Ⅰ	2後	○		2			○		13	3		1		1	
		国際情報演習Ⅱ	3前	○		2			○		12	3		1		1	
		国際情報演習Ⅲ	3後	○		2			○		13	3		1		1	
		国際情報演習Ⅳ	4前	○		2			○		13	3		1		1	
		国際情報演習Ⅴ	4後	○		2			○		13	3		1		1	
		卒業研究	4後			4			○		13	3		1		1	
		特定課題研究Ⅰ	4前			2			○		13	3		1		1	
		特定課題研究Ⅱ	4後			2			○		13	3		1		1	
		小計(9科目)	－	－	2	18	0	－			16	3	0	1	0	1	－
		論理学Ⅰ	1前	○	2			○				1					
		情報と国際コミュニケーション	1前			2		○						1			
		論理学Ⅱ	1後	○	2			○				1					
		宗教学	1後			2		○			1						メディア
		哲学Ⅰ	2前			2		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
グローバル・教養科目群	グローバル	国際関係論	2前			2		○						1			
		情報社会と社会的包摂	2前			2		○								1	メディア
		哲学Ⅱ	2後			2		○				1					
		国際文化論	2後			2		○						1			
		比較文明論	2後			2		○								1	
		ダイバシティ論	2後			2		○								10	
		日本文化論	3･4前			2		○			1						メディア
		宗教とメディア	3･4後			2		○			1						メディア
		異文化間コミュニケーション論	3･4前			2		○								1	
		インターネット文化とサブカルチャー	3･4後			2		○			1						
		各国ICT事情	3･4後			2		○								1	メディア
		統合英語Ⅰ	1前	○	2			○								7	
		ICT留学	1･2･3･4前			2				○						1	標準外
		アカデミックイングリッシュⅠ	1･2･3･4前			2		○								1	
		ビジネスイングリッシュⅠ	1･2･3･4前			2		○								1	
		統合英語Ⅱ	1後	○	2			○								7	
		国際ICTインターンシップ	1･2･3･4後			2				○						1	標準外
		アカデミックイングリッシュⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	
		ビジネスイングリッシュⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	
		情報英語Ⅰ	2前	○	2			○			1					7	
		情報英語Ⅱ	2後	○	2			○			1					7	
		小計(26科目)	－	－	12	40	0	－			3	1	0	1	0	23	－
	教養	政治学	1･2･3･4前			2		○								1	
		歴史学	1･2･3･4前			2		○								1	
		心理学	1･2･3･4前			2		○			1						
		生命科学	1･2･3･4前			2		○								1	メディア
		環境科学	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		ミクロ経済学	1･2･3･4前			2		○								1	
		マクロ経済学	1･2･3･4後			2		○								1	
		社会学	1･2･3･4後			2		○								1	
		文学	1･2･3･4後			2		○								1	
		物質科学	1･2･3･4後			2		○								1	
		健康・スポーツ	1･2･3･4後			2		○								1	
		小計(11科目)	－	－	0	22	0	－			1	0	0	0	0	8	－
学部間共通科目・随意科目	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						8	オムニバス（一部）・メディア　標準外
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						8	オムニバス（一部）・メディア　標準外
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
		専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						2	オムニバス・標準外
		グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								6	
		グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								4	オムニバス
		グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	共同（一部）　標準外
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							2	オムニバス・メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前･後			1				○						1	標準外
		学部共通インターンシップⅠ	2前			2				○						1	標準外
		学部共通インターンシップⅡ	2後			2				○						1	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○		2					18	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○		2					24	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		2					24	メディア
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○			2					5	オムニバス・メディア
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○								11	オムニバス・メディア　共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅠ	1前･後			2		○								2	オムニバス・メディア　共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○			1						メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア　共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○		1					3	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○		1					3	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							3	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○		1					2	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1前・後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1前・後			2		○								1	メディア

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
		小計(29科目)	－	－	0	65	0	－			5	0	0	0	0	82	－
	随意科目	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								2	共同
	随意科目	学術情報の探索・活用法	1･2前・後				2	○								1	
	随意科目	小計(2科目)	－	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	3	－
合計(182科目)			－	－	50	319	4	－			16	3	0	1	0	155	－

学位又は称号	学士（国際情報）	学位又は学科の分野	法学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門科目群」から68単位以上（「情報基盤」から30単位以上、「情報法」から30単位以上、「関連科目」から8単位以上）を修得すること。 ■「演習科目群」から2単位以上を修得すること。 ■「グローバル・教養科目群」から24単位以上（「グローバル」から16単位以上、「教養」から8単位以上）を修得すること。 ■卒業単位として認める単位を合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録上限（年間）：1年次42単位、2年次42単位、3年次38単位、4年次38単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（スポーツ情報学部スポーツ情報学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	EnglishⅠ	○	本科目は演習形式で英語四技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）を総合的に伸ばすことを目指す。幅広い学問分野や現代的課題に対応できる基礎的な語彙・表現に加え、アカデミックな文脈で必要とされる語彙力・理解力を身につける。具体的には、新聞記事・エッセイやニュース映像、入門的な学術記事といった教材を用いて読解・聴解に取り組み、グループ・ワークやディスカッションを通じて論理的かつ的確に意見を述べ合う力を養う。また、個別のリサーチ活動を通して自ら課題を設定し、英語でのプレゼンテーションに主体的に取り組む姿勢を培い、情報収集・整理・発信の基礎的なスキルについても学んでいく。英語で的確に理解・分析・発信するための基本的な能力を身につけることを目的とする。	
外国語科目	EnglishⅡ	○	本科目では、演習形式にて「EnglishⅠ」で培った英語四技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）のさらなる定着と発展を図る。多様な分野で必要となる基礎から発展的な語彙や表現を引き続き学びながら、よりアカデミックで高度な資料・教材にも取り組み、語彙運用と内容理解の力を高める。 また、グループ・ワークやディスカッションを通して、多様な視点を養い論理的思考を深めるとともに、個別のリサーチ活動に基づく英語でのプレゼンテーション演習を重ねることで、情報を収集・整理し、自らの考えをわかりやすく発信する実践力を強化する。多角的に課題を探究し、英語による理解・分析・発信に必要となる実践的な応用力を身につけることを目的とする。	
外国語科目	検定英語講座		本科目は、外部組織が提供するe-learningを活用したオンデマンド学習と、学習活動の統括や学びの補完を目的とする面接授業を組み合わせ、TOEIC（L&R）のスコア・アップを目指すものである。履修者は、入学時のTOEICスコア・レポートをもとに自身のスキル別習熟度を把握したうえで、学習計画を立案し、教室外ではオンライン教材を活用して対策に取り組む。4回の面接授業では、達成状況の確認や現状分析、動機付け、TOEICに関する解説や補足、グループ・ワーク等のアクティブラーニングを通じたフォローアップやフィードバックを実施する。本科目は、英語学習の習慣化・継続を促し、自律性と計画性を高めながら、主体的に学ぶ力を育成し、スコアの向上を目指すことを目的とする。	
外国語科目	検定英語初級		本科目は、社会的評価を有する外部検定試験において一定のスコアを達成した履修生に対して、単位を認定するものである。履修者は、入学時に受験したTOEICスコア・レポートをもとに自身の英語技能の現状を把握したうえで、検定英語講座も活用しながら試験対策に取り組む。履修期間内に各自で外部検定試験を受験し、スコア申請書類提出期限までに学部において定める初級基準スコア（例えば TOEIC（L&R）600点 相当）を上回るスコアに到達した場合、単位を修得することができる。本科目は、学習成果および英語能力の可視化を通じて、授業内外で英語学習の継続とスコアの向上を促進することを目的とする。	
外国語科目	検定英語中級		本科目は、社会的評価を有する外部検定試験において一定のスコアを達成した履修生に対して、単位を認定するものである。履修者は、入学時に受験したTOEICスコア・レポートをもとに自身の英語技能の現状を把握したうえで、検定英語講座も活用しながら試験対策に取り組む。履修期間内に各自で外部検定試験を受験し、スコア申請書類提出期限までに学部において定める中級基準スコア（例えば TOEIC（L&R）700点 相当）を上回るスコアに到達した場合、単位を修得することができる。本科目は、学習成果および英語能力の可視化を通じて、授業内外での英語学習の継続とスコアの向上を促進することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目		検定英語上級		本科目は、社会的評価を有する外部検定試験において一定のスコアを達成した履修生に対して、単位を認定するものである。履修者は、入学時に受験したTOEICスコア・レポートをもとに自身の英語技能の現状を把握したうえで、検定英語講座も活用しながら試験対策に取り組む。履修期間内に各自で外部検定試験を受験し、スコア申請書類提出期限までに学部において定める上級基準スコア（例えば TOEIC（L&R）850点 相当）を上回るスコアに到達した場合、単位を修得することができる。本科目は、学習成果および英語能力の可視化を通じて、授業内外での英語学習の継続とスコアの向上を促進することを目的とする。	
外国語科目	特別科目	日本語BI（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心として四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。具体的には、講義・演習を併用し、個人あるいはグループごとに関心を持つテーマ（ニュースや社会問題等）について問いを立て、インタビュー等を通じた調査を行うなど様々な情報収集を行い、個人で発表あるいはグループで話し合う活動を中心に行う。本科目による実践的な活動を通じて、日本語能力を向上させると共に、社会的なテーマを探求し、成果を発表することを通じて自分なりの見解を深め、課題発見解決能力、社会に参加する力を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
外国語科目	特別科目	日本語BI（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心として四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。本科目では、「日本語ＢⅠ（1）」に引き続き、日本語を通して自らが関心を持つテーマについて、問いを立て、自ら調査し、個人で発表あるいはグループで話し合う活動を中心に行う。具体的には、講義・演習を併用し、グループ毎に関心のあるニュースや社会問題に関するテーマを定め、グループでの話し合いやインタビュー調査など日本語を用いて情報を集め、整理し、グループ発表、ディスカッション、そして個人によるポスター発表等を行う。本科目を通じて、日本語能力の向上と共に、自己・他者との対話を通して社会的なテーマを探求し、成果の発表を通じて自分なりの見解を深めることを目指す。	講義15時間 演習15時間
外国語科目	特別科目	日本語BI（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心にして四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。本科目では、「意見を述べる」「ストーリーを述べる」「興味を引く話し方」の手法を講義形式で学びながら、自らが関心を持つテーマについて自ら探究し、その結果を発表する機会や、意見を述べる表現を利用したグループワーク等を中心に行う演習の機会を多く設定する。授業を通じて、日本語能力の向上と共に、課題発見解決能力の向上、さらには成果の発表を通じて自分なりの見解を深めることを目指す。	講義15時間 演習15時間
外国語科目	特別科目	日本語BI（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心にして四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。「日本語ＢⅠ（3）」に引き続き、日本語を通して自らが関心を持つテーマについて、問いを立て、話し合う活動を通じて、他者と日本語で対話を行うための技法も学ぶ。具体的には、日本における就職活動の枠組みをテーマとして、企業・業界の分析およびその説明、自己アピール、面接、複数種類のディスカッション等について演習を中心に行いながら、それぞれの場面に応じた適切な日本語表現についても講義形式で学ぶ。これらを通じて、日本語能力の向上と共に、自分自身やグループとしての考えを深め、適切に表現できるようになることを目的とする。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	特別科目	日本語BⅡ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視するが、「書く」技能のみならず、情報を自分の言葉でわかりやすく伝えるための「話す」技能等、四技能をそれぞれバランスよく身につける。具体的には、日本語文法やよく使われる表現・指示語・接続詞等を講義形式で学びつつ、要約文や説明文、意見文等を実際に書き、それをグループワークやディスカッションを通じて専門科目を日本語で学習できるアカデミックな日本語能力や、主体的に学びを進める力等を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
外国語科目	特別科目	日本語BⅡ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語BⅡ（1）」に引き続き「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視するが、「書く」技能のみならず、情報を自分の言葉でわかりやすく伝えるための「話す」技能等、四技能をそれぞれバランスよく身につける。具体的には、文章の序論・本論・結論の型の表現や分析・説明でよく使われる表現等を講義形式で学びつつ、新聞記事の要約・引用の実践、自分の意見の発表とグループワークやディスカッションを通じて説明・意見し合う等の活動を通じて、専門科目を日本語で学習できるアカデミックな日本語能力や主体的に学びを進め、深めていく力、伝えたい事柄を相手と共有することができる力を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
外国語科目	特別科目	日本語BⅡ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視する。具体的には、本の講読・ディスカッションを繰り返し行い、地域や話し手、文化や状況等に応じた日本語の変化を学ぶ。さらには読解や言語表現について講義形式による学習を通じてアカデミック・ライティングのポイントを理解することを目的とする。同時に、社会的事象から課題を発見し、レジュメの作成やディスカッションができるようになること、社会的な問題に関して自らの意見を述べる主張文や大学の授業で課されるレポート・論文等を書けるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
外国語科目	特別科目	日本語BⅡ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語BⅡ（3）」に引き続き、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視する。具体的には、講義および演習形式にて短文や中文、長文の読解をそれぞれ行い、担当教員や他の学生によるフィードバック、グループによる話し合いを通じて言語表現やアカデミックライティングのポイントについて理解を深める。同時に、社会的な問題に関して自らの意見を述べる主張文、そして大学の授業で課されるレポート・論文がの作成能力の向上を目標とする。また、パワーポイントを用いた発表・ディスカッションを通じて、伝えたい内容を要点を押さえながら口頭で表現できるようになることも目標とする。	講義15時間 演習15時間
総合教育科目		法学		本科目では、講義形式にて、法学を学ぶ上で不可欠な基礎知識と考え方を習得する。具体的には、法の役割や機能、法学という学問の位置づけ、そして法の解釈や適用の方法といった基本概念を解説する。その上で、公法、刑事法、民事法を中心とした主要な法領域の概要を学ぶ。現代社会において法制度は、個人の権利と義務を定め、社会秩序を支える枠組みであり、スポーツやビジネス、情報社会における諸活動とも密接に関係している。法に関する基礎的理解は、公共性や正当性、規範意識といった観点を養ううえでも重要である。本科目の学習を通じて、スポーツの公正な運営や選手の権利の保護、スポーツビジネスの健全な発展など法的な課題について考えるための基礎的な知識について理解を深めることを到達目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	人間工学		本科目では、講義形式にて、人間の身体的・認知的特性に基づいた環境や道具の設計に関する基礎的な考え方を学ぶ。具体的には、身体寸法や動作、視覚・聴覚・触覚などの感覚、情報処理や注意・負荷といった認知特性をふまえ、作業環境や製品、インタフェースがどのように「人に適合」して設計されるべきかを考察する。また、実験や調査に基づくデータ活用、ヒューマンエラーの分析、ユーザビリティ評価などの基本的な手法にも触れる。人間工学は、スポーツにおける身体の使い方や、トレーニング機器、データ可視化ツール、情報提示デザインなど、様々な領域と関わる基盤的知識である。本科目における学習を通じて、人間中心の設計や環境づくりに必要な視点と知識を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	美学		本科目では、講義形式にて、美や芸術、感性といった主題に対して哲学的に向き合う美学の基本的な考え方を学ぶ。具体的には、「美とは何か」「芸術とはなぜ存在するのか」「美的価値とはどのように成り立つのか」といった問いに対して、古今の思想家による議論を紹介しながら、多様な視点から概念の意味と背景を探究する。また、美的判断や感性の働きを手がかりに、人間の経験の深層や価値づけの仕組みについても考察する。美学的な視点は、芸術や日常生活における行為や表現の意味を再考する契機となり、身体感覚や文化的営みへの理解を広げる手がかりともなる。本科目における学習を通じて、美や価値に関する根源的な問いを言語化し、自らの感性や他者の価値観について深く考察する姿勢を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	美術史概論		本科目では、講義形式にて、美術の歴史を通じて人類の表現活動の多様性とその文化的・社会的背景を学ぶ。具体的には、西洋美術と東洋美術の主要な時代・様式・作品・作家を取り上げ、それぞれの歴史的文脈や思想的背景に焦点を当てながら、美術がどのように発展してきたかを概観する。また、美術作品の鑑賞を通じて、視覚的な情報の読み取りや空間構成、美的価値の捉え方についても考察する。多様な様式や表現手法に触れることで、美術が感性や文化と深く結びついた表現であることを理解し、その多様なあり方を受けとめる視点を身につける。本科目における学習を通じて、異なる時代や文化における表現のあり方を読み解く力を育み、現代社会における芸術・文化への感受性豊かな視点を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	色彩学		本科目では、講義形式にて、色彩の基礎的な仕組みとその応用について学ぶ。具体的には、色の物理的性質（光と波長）、人間の視覚による色の知覚、文化や心理における色の意味、色彩調和や配色理論といった基礎を学びつつ、身の回りのデザインやメディア、情報表現における色彩の使われ方を考察する。さらに、グラフや図表などを通じた情報の可視化における色彩の役割にも触れ、色が人に与える印象や伝達効果について理解を深める。色彩に対する知識と感性は、スポーツや身体表現、さらにはデータサイエンスにおける「見せる力」の重要な一端を担っており、実践的な表現力の基盤ともなる。本科目における学習を通じて、色彩を科学的かつ文化的に捉える視点を養い、伝えるための色の使い方についての理解を深めることを到達目標とする。	
総合教育科目	プロダクトデザイン		本科目では、講義形式にて、日常生活や社会を支える製品や道具のデザインについて、その基本的な考え方や歴史的背景、設計の視点を学ぶ。具体的には、製品デザインのプロセス、形と機能の関係、素材や技術の活用、ユーザーとの関係性などを多角的に取り上げ、身近な製品や先進的なプロダクトの事例を通じてその意図や価値を考察する。また、人間工学や感性、持続可能性といった観点をふまえた「人にやさしい設計」や、社会課題に応答するプロダクトのあり方についても触れる。プロダクトデザインの知見は、スポーツの現場における用具や装置、情報提示ツールの設計などにも応用され、身体と環境のインターフェースを考えるうえで重要な視点となる。本科目における学習を通じて、ものづくりと人間・社会との関係を多角的に捉え、目的に応じた表現や設計への理解を深めることを到達目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	建築・デザイン概論		本科目では、講義形式にて、建築およびデザインに関する基本的な考え方や歴史的・文化的背景を学ぶ。具体的には、建築の構造や空間のあり方、デザインにおける形・色・機能の関係性、さらには都市計画や生活環境との接点など、幅広い観点から人間と環境との関係を考察する。また、時代ごとの建築様式やデザイン思想の変遷を概観しながら、社会や技術との連関にも目を向ける。建築やデザインは、人間の身体感覚や動線、視覚情報の整理にも深く関わっており、現代における情報表現や空間演出の理解に通じる視点を育む。本科目における学習を通じて、建築・デザインを文化的営みとして捉える力を養い、環境や表現に対する批判的かつ創造的な感性を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	音楽と文化		本科目では、講義形式にて、音楽を文化的・社会的な文脈の中で捉え、その多様な意味や役割について学ぶ。具体的には、民族音楽や宗教音楽、ポピュラー音楽と大衆文化、さらには現代におけるメディアやテクノロジーと音楽の関係などを取り上げ、音楽が人間の生活や価値観にどのように関わってきたかを考察する。また、音楽を通じた感情表現、身体の動き、共同性や社会的機能にも注目し、音楽と人間の関係の多層性について理解を深める。音楽に対する幅広い視点は、スポーツやパフォーマンスにおけるリズム、協調、表現にも通じるものがあり、感性や文化を多角的に捉える素養として重要である。本科目における学習を通じて、音楽を単なる芸術や娯楽としてではなく、文化的営みの一端として理解する視点を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	環境工学		本科目では、講義形式にて、人間の活動と環境との関係を科学的に捉え、快適で持続可能な生活・活動空間を実現するための環境工学の基礎を学ぶ。具体的には、温熱環境、空気質、光・音といった物理的環境要因が、身体や認知に与える影響を理解し、それらを適切に設計・制御するための原理を扱う。また、スポーツ施設やトレーニング空間を含む建築環境の設計における省エネルギー技術、再生可能エネルギーの活用、環境負荷の低減といった持続可能性の視点にも触れる。環境工学は、個人のパフォーマンスや安全性、快適性を支えるだけでなく、社会的・地球規模の課題への応答としても位置づけられる。本科目における学習を通じて、人間と環境の相互関係を科学的に理解し、環境に配慮した空間設計や行動に必要な視点と知識を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	総合講座		本科目は、本学部のカリキュラムを補完し、教養及び専門分野のいくつかを相互に接合する、時代の要請に応え得るテーマを講義形式にて取り扱う。具体的には、時宜に照らしたテーマに基づき、データ分析の基礎技術、そしてそれが現代社会でどのように活用されているか等を学ぶとともに、スポーツを中心としたビジネスの現場でこれらのデータや技術がどのように機能しているかを理解する。加えて、企業や現場での先進的な取り組み事例を取り上げながら、学生はスポーツ・ビジネスの構造、文化的背景、運営の仕組みについても体系的に学習する。講義と並行してデータを活用した課題に取り組み、自身の専門性と結びつけた考察を深めることで、データサイエンスおよびビジネスの観点から、スポーツ分野における実践的な応用力を育むことを目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	ヒューマンウエルネス論		現代社会の中で人が豊かに生きるとはどういうことなのか、また、そのことは如何にして可能なのかについて追求していくことは、生涯にわたって活き活きと過ごすための生きがいの創造、及び健康保持・増進をデザインする上で重要な課題の一つである。 本講義では、人間としてより良い生き方を探究する取り組みの一つとして、健康・スポーツ医科学、及び予防医学における一次予防を中心とした理論と実践を通して、生命（いのち）の大切さに気づき、人間の心とからだを総合的に考察し、生きがいの創造をデザインすることが期待される。 講義の後半部分では、LIFESAVINGをキーワードに、生命倫理を問いながら、もって自他の生命と社会を見つめていく。本講義を通じ、人の死から死生観および命の尊さを学び、利他の精神を身につけることを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （9 小峯 力／7回） LIFESAVING、生命倫理　自他の生命と社会について担当する。 （16 村井 剛 ／7回） 人間の心とからだの総合的考察、生きがい創造のデザインについて担当する。	オムニバス方式
総合教育科目	スポーツリスクマネジメント論		本科目では、事故なく安全にスポーツ活動を実践するためのリスクマネジメントについて学ぶ。具体的には、①固有要因：スポーツ活動そのものに起因する、②身体要因：スポーツ活動実施者自身に起因する、③環境要因：用具や気象などに起因する、の観点から「スポーツの潜在（内在）危険」を整理し、プレイヤー、指導者、あるいは施設管理者として、安全にスポーツを遂行するために必要な事項や対策についての理解を深める。 また、不幸にして大事故に見舞われた際には、法的責任が問題となるため、関連する民事責任（不法行為、債務不履行、土地工作物責任など）、刑事責任、行政上の責任などについても取り扱う。本科目を通じて、スポーツ現場での安全行動に役立たせる知識やマインドを身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	スポーツ心理学		本講義では、スポーツ心理学の概要と基礎的知識を学習する。 運動・スポーツを心理学的視点から科学的に究明しようとするスポーツ心理学の研究は、近年、オリンピック選手の事例が報告されたり、運動・スポーツの普及・発展とともに広がりを見せている。その内容は、競技力向上を目的にしたもの、スポーツへの参加動機や運動学習に関するものから、健康づくり、燃え尽き症候群等に関するものまで多岐にわたっている。 本科目ではスポーツ・運動場面で生じる心理的事象について各種研究報告を幅広く取り扱う。パフォーマンスを発揮するための心理状態、ストレス下の心身の状態、スポーツ経験が心身にどのような影響を与えるかについて、幅広く理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	救急救命システム論		本科目は、「病院前救急救命」の事故実例より、その実践倫理の展開から、スポーツ現場で起こりうる、心肺停止、脳振盪、心臓振盪、大出血、熱中症、アナフィラキシーなど、生命を脅かしうる重篤な事態に対する初期対応を中心に、様々なスポーツ競技種目の実際の事故事例を取り上げ、生命倫理の考察を目的とする。 また、日本の救急医療システムの問題点の抽出と解決のための検討を行う。医療倫理（臓器移植、再生医療、蘇生拒否、終末期医療、トリアージなど）についても講じ、生命倫理に関する社会背景を下に、病院前救護（非医療従事者）、及び自然・都市災害における危機管理システム構築などを検討する。 さらに、実践知を備える重要性から、一次救命の知識、技術を学び、心肺停止（CPA）の傷病者の確実な社会復帰を図るための心肺脳蘇生（CPCR）及び対外式除細動器（AED）による質の高い一次救命処置（BLS）技術を習得することも目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目		生体システム論		運動器とは、ヒトの身体を支え、動かすといった役割を担う器官の総称であり、骨、筋、靭帯、腱、関節、神経で構成されている。本授業では、ヒトの身体を構成する運動器の構造とその機能的役割を体系的に学ぶ。具体的には、骨の部位や名称、その骨に関わる関節の構造や働きを理解し、その関節を動かす筋の名称、起始（付着）・停止や神経支配について学び、スポーツ動作のメカニズムを理解する際の基礎知識を習得する。 全身の各部位における骨・筋・靭帯・腱の配置、関節の構造と機能、脳・神経系による運動の制御について学ぶことで、ヒトの身体運動について解剖学的及び神経科学的な視点から説明できる力を身につけることを目標とする。	
総合教育科目		スポーツ実技1		本科目は、個人系のスポーツ種目を中心に実技を通してスポーツ実施そのものを楽しみながら、各種目の練習方法、競技の特性やルール、得点の喜び、相手とのコミュニケーションを体得する。 スポーツを実践することでしか体感できない主観的な感覚をポジティブに味わいつつ、スポーツ・フォー・オールと言われているように、老若男女どのような組み合わせであっても一緒に楽しめるような環境・特別ルールの考え方や、参加者にとってより多幸感がもたらされるような運用方法も体験する。 生涯にわたり健康や生きがいの一つとして運動・スポーツを実践し続けられる人材になることを目指す。	
総合教育科目		スポーツ実技2		本科目は、チーム系の各種スポーツ競技を中心に実技を通してスポーツ実施そのものを楽しみながら、各種目の練習方法、競技の特性やルール、得点の喜び、チームのコミュニケーションを体得する。 スポーツを実践することでしか体感できない主観的な感覚をポジティブに味わいつつ、スポーツ・フォー・オールと言われているように、老若男女どのような組み合わせであっても一緒に楽しめるようなゲーム環境の考え方や、ハンデも考慮した運用方法も体験することで、生涯にわたっていつでもどこでも誰とでもスポーツを楽しめる人材になることを目指す。	
総合教育科目		スポーツ実技3		本科目では、実習形式でアウトドアスポーツにおける安全管理、生理的効果、心理的効果および教育的効果などを実践活動を通して学び、野外活動の有益性、運営方法などを学ぶ。また、自然・アウトドア環境での活動を通して、様々なアウトドアスポーツ技術を修得するとともに、各種安全対策や自然との共生について考察を深める。さらに、中山間地における集団活動を通して人間関係づくりの構築や非日常的な環境の中で自己の新たな可能性を発見する等、社会性の向上も狙う。 本科目における学修を通じて、アウトドアスポーツの社会的および教育的価値を理解すること、協調性・コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	
専門基礎科目	数理基礎	スポーツと数学	○	本科目では、さまざまな現象を数量的・数理的に捉える視点を養い、実社会の課題に数学的にアプローチするための基礎的なリテラシーを、講義および演習形式を併用して身につける。具体的には、競技やトレーニングにおける計測データ、観客動員数などスポーツ関連の場面を題材とし、単位変換や割合を用いた指標化、差分や割合の変化の記述、関数による現象のモデル化、運動軌道や加速度の解析、近似や誤差の扱い、グラフによる可視化など、数理的概念を応用的に学ぶ。数学的手法を通じて実現される現象の記述・予測・評価といった思考の枠組みを理解することで、データサイエンスおよびスポーツビジネスの両分野に共通する数理的リテラシーの基盤を育むことを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	数理基礎	微分積分Ⅰ	○	本科目では、講義形式にて、関数や微分積分に関する基礎的概念を体系的に学び、解析学の入門としての素養を身につける。具体的には、データ表現やデータサイエンスにおいて重要な役割を果たす指数関数・対数関数・三角関数などの基本的な関数の意味と性質を丁寧に解説したうえで、極限や連続といった概念の捉え方、微分や積分といった操作の持つ意味や背後にある考え方を取り扱う。また、具体的な事象の変化や蓄積を記述する手段としての関数・微分積分の重要性にも触れながら、数式の抽象性に対する直感的理解を育てることを重視する。本科目における学習を通じて、計算技法にとどまらず、関数と変化の数学的構造を理解し、将来的な応用の基盤となる数理的リテラシーを習得することを到達目標とする。	
専門基礎科目	数理基礎	線形代数Ⅰ	○	本科目では、統計学的手法やデータサイエンスの理解に必要となるベクトルおよび行列に関する基礎的内容を、講義形式にて学ぶ。具体的には、ベクトルや行列の概念的な意味付けから始めて、基本的な演算、行列の構造、行列式の性質、さらには固有値・固有ベクトルといった線形代数における重要な概念を取り扱う。これらの内容について、単なる計算処理にとどまるのではなく、各操作や定理がどのような意味を持つのかを理解することに重点を置き、論理的な思考力を養うことを重視する。また、数式の抽象性に対する直感的理解も助けながら、応用の場面に結びつける視点を育てる。本科目における学習を通じて、AIやデータサイエンスの実践的応用を視野に入れた数理的リテラシーを着実に身につけることを到達目標とする。	
専門基礎科目	数理基礎	微分積分Ⅱ	○	本科目では、講義形式にて、「微分積分Ⅰ」で学んだ関数と微分積分の概念をより詳しく学習する。特に、多変数関数の微分（偏微分）や重積分を中心に扱い、計算力よりも概念の理解を重視する。さらに、ニュートン・ラフソン法、ラグランジュの未定乗数法、ベクトル微分といった、データサイエンスの中でキーポイントとなる手法についても扱い、それらが実際の応用場面で活用できる力を身につける。終盤では、フーリエ変換や微分方程式にも触れる。これらの学習を通じて、AI・データサイエンスにおける数学的基盤の理解を深めることを到達目標とする。	
専門基礎科目	数理基礎	線形代数Ⅱ	○	本科目では、講義形式にて、線形代数の応用的なテーマを幅広く学ぶ。具体的には、射影、行列のランク、グラム・シュミットの直交化法、特異値分解といった応用範囲の広いトピックに加え、固有値問題やベクトル空間における線形写像など、理論と応用をつなぐ重要な内容を取り扱う。これらを通じて、線形代数の概念が実際にどのような問題の中で役立つかを理解していく。本科目の学びを通じて、抽象的な数学的思考を現実の課題に応用する力を養い、線形代数の枠組みを用いて問題を整理し、解決の糸口を見出す実践的な思考力の習得を到達目標とする。	
専門基礎科目	数理基礎	微分積分演習	○	本科目では、演習形式にて、「微分積分Ⅰ」で学ぶ関数や微分積分の基礎概念に関する理解を深め、その応用力と計算力を身につける。具体的には、指数関数・対数関数・三角関数といった基本的な関数の性質に関する問題や、極限・連続性・微分・積分に関する典型的な問題を通じて、計算手法や考え方を段階的に習得する。あわせて、関数の変化や面積の意味といった直感的理解と数式処理の対応にも留意しながら学習を進める。本科目における学習を通じて、微分積分に関する基本的な問題に対して自力で取り組み、適切に解法を組み立てられる力を養成することを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	数理基礎	線形代数演習	○	本科目では、演習形式にて、「線形代数I」で学んだベクトルや行列に関する基礎的概念を、具体的な問題演習を通じて定着させるとともに、それらの構造や性質に対する理解をより深める。具体的には、ベクトル・行列の演算、行列式の計算、連立一次方程式の解法、固有値・固有ベクトルの導出といった典型的な問題に取り組みながら、抽象的な数式操作とその意味づけとを対応させる力を身につける。計算練習のみにとどまらず、演習を通じて線形代数の背後にある論理的な構造や、応用における重要性についての直感的理解も高めることを重視する。本科目における学習を通じて、AIやデータサイエンスの基盤となる線形代数の内容を自力で運用可能なレベルまで習得することを到達目標とする。	
専門基礎科目	数理基礎	力学		本科目では、講義形式で、自然界における運動の基本法則を理解し、数理的に記述するための力学の基礎を体系的に学ぶ。主に質点系および剛体の運動を対象とし、ニュートンの運動の法則、運動方程式の導出とその応用、保存力に基づくエネルギー保存則、衝突・反発係数と運動量保存則、単振動における解析的な解法、さらには剛体の回転運動や力のモーメントといったトピックを扱う。これらの内容は、物理的現象を支配する法則を数学的に導出し、抽象的な理論と具体的な現象とを結びつけて理解するために不可欠である。本科目における学習を通じて、記号・式を用いて運動を定量的に把握する視点を獲得し、力学的概念の背後にある理論的構造を正確に理解する力を養う。複雑な現象を単純化し、基本原理に基づいて論理的に分析・予測する能力を身につけることを到達目標とする。	
専門基礎科目	情報基礎	デジタルコミュニケーションⅠ	○	本科目では、講義・演習形式を通じて、デジタル技術を活用した情報伝達の基礎を学ぶ。具体的には、電子メールや掲示板ツール（Slack 等）の適切な使い方とマナー、Word などの文書作成ソフトによるレポート・論文の基本的な作成、PowerPoint などのプレゼンテーションソフトによるスライドの作成に加え、マークダウンによる簡易的な文書作成方法も取り扱う。また、文字や図表の見やすさ、情報の整理方法など、視覚的・構造的に効果的な情報伝達の基本原則を理解する。さらに、情報検索の方法や信頼性の評価など、情報リテラシーの基礎も学ぶ。本科目における学習を通じて、現代社会で必須となるデジタルツールの基礎的活用能力と、正確かつ効果的に情報を伝えるスキルを身につけることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門基礎科目	情報基礎	デジタルコミュニケーションⅡ	○	本科目では、講義・演習形式にて「デジタルコミュニケーションⅠ」で学んだ基礎を発展させ、実践的な情報表現とより高度な技術的スキルを学ぶ。具体的には、LaTeXによる数式や論文スタイルの基本表現、研究ポスターの作成方法を取り扱う。さらに、マークダウンの発展としてHTMLやCSSの基礎を学び、簡易的なWebページの作成を通じて、デジタルコンテンツを構造的に表現する方法を習得する。あわせて、デジタルデータの扱いや再現性のある文書作成、科学的情報の信憑性評価など、研究活動に不可欠なスキルを学ぶ。本科目における学習を通じて、専門的・学術的な情報を的確に構造化・発信するための能力を身につけることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門基礎科目	情報基礎	アルゴリズムとプログラミングI	○	本科目では、データ分析やアプリケーション開発などで必要となるプログラミングの基本を Google Colaboratory 上のPython言語を用いて演習を交えて学ぶ。具体的には、変数と関数、数値演算、論理・比較演算、条件分岐、繰り返しといった基本的な演算や処理構造を扱い、アルゴリズムの基本やフローチャートの書き方を学ぶ。また、データ分析の基本となるデータ操作やベクトル・行列演算、グラフによる可視化などを取り扱う。プログラムを作るための考え方や手順を理解し、課題に取り組む中でデータ分析やアプリケーション開発などで必要となる基本的なプログラミングスキルを身につけることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	情報基礎	アルゴリズムとプログラミングⅡ	○	本科目では、「アルゴリズムとプログラミングI」で習得したPythonの基礎をふまえ、実践的かつ構造的なプログラムの記述力を演習を通じて高める。具体的には、複数の処理を関数に分割して組み合わせる方法や、外部ファイルの読み書き、例外処理、標準ライブラリや外部モジュールの活用、データの整形と再利用、簡単な自動処理スクリプトの作成などを通じて、日常的なプログラミング課題に対応できる力を身につける。また、複数ファイルにまたがる処理の構成や、他者のコードの読み書きも含め、実務的な開発スキルを体験的に学ぶ。本科目における学習を通じて、Pythonを用いた中規模な処理やツールの作成が自力で行えるようになることを到達目標とする。	
専門基礎科目	情報基礎	デジタルデザイン		本科目では、講義形式で効果的なデジタルデザインの基本を学ぶ。具体的には、色彩理論やデザインの基本原則、インフォグラフィックの作成手法、UX（ユーザー体験）とUI（ユーザーインターフェース）の設計原則などを取り扱うと同時に、人間の知覚や認知、情動のメカニズムや特性と合わせて、デジタル技術を活用したデザインの重要性について理解を深める。これらは他者への情報伝達や、顧客への視覚的訴求など、データサイエンスやスポーツビジネスにおける多様な目的で重要な役割を果たす。また、イベントやアプリ開発などにおけるデザインの実践例も取り上げることで、具体的な応用・実践の方法について学ぶ。本科目を通じて、現代社会におけるデザインの重要性を理解し、その実践に向けた基礎力を修得することを到達目標とする。	
専門基礎科目	情報基礎	プロジェクトマネジメント		本科目では、ビジネスの現場をはじめとする多様な場面で不可欠なプロジェクトマネジメントの基礎を講義形式で学ぶ。具体的には、AI・データサイエンスを活用した課題解決のグループでの取り組みや、組織におけるチームメンバーとしての貢献など、共通の目標に向けて複数人が協力する状況を「プロジェクト」として捉え、PMBOK（Project Management Body of Knowledge）をはじめとするプロジェクト管理のフレームワークを活用しながら、計画立案と遂行・管理の方法、リーダーシップとマネジメント、コミュニケーションとファシリテーションの方法などを取り扱う。本科目における学習を通じて、スポーツやビジネスの現場でプロジェクトを円滑に推進するための実践的な知識を身につけることを到達目標とする。	
専門基礎科目	データサイエンス基礎	スポーツデータ測定入門	○	本科目では、講義形式と演習形式を交えて、スポーツや日常的な身体運動を題材とし、簡易なセンサやアプリケーションを用いたデータの取得と、取得したデータの可視化・要約・解釈の基本的な方法を体験的に学ぶ。具体的には、心拍数、動作、位置、感覚などの身体的情報を客観的な数値として測定し、それらを自身の主観的経験と照らし合わせながら、多様な視点から身体活動を捉える力を養う。また、データ測定や記録の信頼性、可視化による理解の深まり、簡単な統計処理の考え方なども取り上げ、データに基づく論理的思考への基礎を築く。本科目における学習を通じて、データを測定・解釈するための初歩的な知識と技能を習得し、2年次以降のデータサイエンス系科目への橋渡しとなる基礎的なリテラシーを身につけることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門基礎科目	データサイエンス基礎	スポーツと統計学	○	本科目では、統計学の基礎的な考え方と手法を講義形式で体系的に学ぶ。具体的には、グラフによる可視化を含むデータの要約方法、確率と確率分布、統計量と標本分布、点推定・区間推定・仮説検定など、記述統計・確率論・統計的推測に関する基本的な概念と技術を取り扱う。これらの概念や手法を、スポーツの実データを含む様々な実例を通して実践的に学習する。本科目における学習を通じて、データを正しく読み取り、論理的に解釈するための統計的リテラシーを身につけ、データサイエンスの深い理解やスポーツビジネスの実践に通じる基礎力を修得することを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	データサイエンス基礎	確率統計	○	本科目では講義形式にて、確率論および統計的推測の基礎理論を体系的に学ぶ。具体的には、確率変数と確率分布、確率変数の変換、モーメント母関数、大数の法則および中心極限定理といった確率論の基盤を扱う。さらに、点推定・区間推定の理論、最尤推定法、仮説検定の理論など、統計的推測における代表的な方法を取り上げる。これらの学習を通じて、単なる確率論や統計学の手法の利用にとどまるのではなく、その背後にある理論的根拠を理解し、適切に応用できる能力を身につけることを到達目標とする。	
専門基礎科目	データサイエンス基礎	AI・データサイエンスと現代社会	○	本科目は講義形式にて、「AIやデータサイエンスがもたらす価値」、「デジタル技術が行き渡った社会における課題」という大きく分けて2つのテーマについて学ぶ。前者では技術的な作業も体験する。後者では講義の中でどのような課題がありうるのか身近に考えていく。この科目はAI・データサイエンス領域におけるリテラシー科目として位置付けられており、この科目での学習を通じて、学生がAIやデータサイエンスに関連する課題に対する認識を深めるとともに、AI・データサイエンス領域の基礎的な知識を習得することを目的としている。AI・データサイエンスに関する最新のトピックを取り扱うため、テーマに応じてゲストスピーカーを招聘し、専任教員と共に講義を展開する。 （オムニバス方式／全14回） （72 大草　孝介／8回） 講義の導入、社会で起きている変化、データの可視化と集約、相関と因果の考え方、データ利用の最新動向、社会で活用されているデータ、AI やデータサイエンスの活用領域、AI やデータサイエンス活用の現場、AIの基礎 （58 松崎　和賢／3回） 情報セキュリティ、倫理の問題や関連する議論の動向等 （36 岡嶋　裕史／3回） 個人情報保護と関連する問題、講義のまとめ	オムニバス方式
専門基礎科目	データサイエンス基礎	データサイエンス基礎技術Ⅰ	○	本科目では、ExcelやPythonを用いたデータ操作の基礎から、可視化、簡単なデータ分析までを、講義と演習を組み合わせた形で学習する。具体的には、前半のExcelを使ったパートでは、関数やフィルタ、ピボットテーブルを活用した集計・抽出、クエリによる変換、グラフやチャートによる可視化、統計的手法による分析までを学習し、実務的演習を通じて理解を深めていく。中盤以降では、Python環境を用い、pandasによるデータ加工やmatplotlib／seabornによる可視化、scikit-learnを使った簡易的な機械学習モデル構築に触れ、実践的なデータサイエンスの流れを体験する。テーマに応じてゲストスピーカーを招聘し、専任教員と共に講義を展開する。これらを通じて、あらゆる業務の基盤となるExcelのスキルを確実に身につけ、さらに、現代的なPythonを用いたデータ処理や分析への理解を深めることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （46 武石　智香子／13回） Excelから入るデータ整備、分析、集計、Pythonによるプログラミング、Excelの自動化、データベース入門、SQL、Pythonによる探索的データ分析、最適化の考え方を用いた分析、統計的推定と仮説検定、AI体験学習（画像認識、自然言語処理）、講義まとめ （24 中村　周史／1回） Excelによる探索的データ分析（可視化）	オムニバス方式 講義17時間 演習13時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	データサイエンス基礎	データサイエンス基礎技術Ⅱ	○	データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをラングリングし、視覚化・分析するツールが不可欠である。 本科目では、講義形式にて、プログラム的な基礎知識を要することなくこれらを行うことができるBI（ビジネス・インテリジェンス）ツールと、データサイエンスにおける基礎言語の一つであるRの基礎、そしてデータ加工、可視化、データ分析の基本的な考え方を学び、理解することを目的とする。また、到達目標は、数万件程度までの比較的小規模のデータについて、データ加工、可視化、基本的なデータ分析を自身で行えるようになることである。 （オムニバス形式　全14回） （73 大野　航太/7回） データの読み込みとサマリー、データラングリング、ダッシュボードやノートによるレポーティング、R、グラフ作成とカスタマイズ、Rでのデータ・アナリティクス、Rmarkdownによるレポーティング （10 酒折　文武、73 大野　航太/7回）（共同） AIとBI、データサイエンスとツール、グラフや表による可視化と分析、統計と機械学習、Exploratoryのさらなる活用、データの読み込みと操作、データラングリングの詳細、Shinyでウェブアプリ構築	オムニバス方式・　共同（一部） 講義17時間 演習13時間
専門基礎科目	データサイエンス基礎	AI・データサイエンス応用基礎	○	本科目では、データ駆動型社会におけるAI・データサイエンスの基本的な枠組みと応用の視点を、講義形式で学ぶ。具体的には、分析設計と分析の基礎、ビッグデータとデータエンジニアリング、データ表現やデータベース、ITセキュリティ、AIの歴史と社会的課題、機械学習や深層学習の基礎、生成AIの最新動向、人間の身体・運動とAI技術、AIの構築と運用など、多岐にわたる内容を扱う。本科目は、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定を目指すための中心的な科目である。本科目における学習を通じて、AIおよびデータサイエンスの応用的基礎に関する体系的な理解を深め、現代社会における実践的活用力の基礎を身につけることを到達目標とする。	
専門基礎科目	データサイエンス基礎	社会調査法		本科目では、講義形式にて、人々の実態や意識を把握するための方法である社会調査法の基礎を学ぶ。我々を取り巻く社会を理解することは、課題解決の第一歩であるという認識のもと、調査の種類や手順、標本抽出の理論と方法、仮説構築から概念操作を通じて質問作成に至るまでの調査設計方法、実査とその注意点、調査結果の整理・集計・解析の方法、結果報告といった量的調査のプロセスを取り扱う。さらに、インタビュー調査やエスノグラフィーなどの定性調査についても取り扱う。本科目における学習を通じて、簡易的な質問紙調査が実施できるようになることを到達目標とする。	
専門基礎科目	経営学基礎	経営学	○	本科目は、経営学の入門科目として位置づけられる。経営学は、企業・組織にかかわる現象の「なぜ」を解明する学問であり、こうした「なぜ」という問いに対する答え（理論）の集合体でもある。本講義では、経営学の基本的性格と全体像（見取り図）を示したうえで、これらを構成する諸理論（たとえば、顧客価値の創造、経済価値の獲得、生産性の増大、価値の測定、イノベーション、社会との調和などにかかわる理論）とその具体的な事例（企業またはスポーツ組織の経営などにかかわる実践）について幅広く学ぶことを目的とする。さらに、こうした理論的・実践的な学びを通じて、経営学という学問を学ぶことの意味や意義について理解することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	経営学基礎	マーケティング論Ⅰ	○	本科目は講義形式として、マーケティングの基本概念を体系的に学び、その役割や本質を理解することを目的とする。マーケティングの戦略的視点や環境分析を行い、市場や競争の捉え方を考察することを通じて、データやフレームワークに基づいた意思決定の重要性を学ぶ。また、マーケティング・リサーチや消費者行動の理解を深めることで、科学的な思考法を身につけ、マーケティングの基礎を総合的に整理する。さらに、実際の企業の事例を通じて、マーケティングの理論と現場のつながりを理解する。本科目は「マーケティング論Ⅱ」の基礎部分であり、「スポーツマーケティング」の前提となる科目である。	
専門基礎科目	経営学基礎	マーケティング論Ⅱ	○	本科目は講義形式として、「マーケティング論Ⅰ」で学んだ基礎的な知識を前提に、マーケティングの応用を学び、マーケティングに関する理解を深めることを目的とする。セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングなどをもとに市場戦略の立案方法を考察し、マーケティング・ミックスの各要素が市場競争力や顧客の意思決定に与える影響を探る。また、新製品・サービス開発のプロセスを学び、企業が市場で価値を創造する方法について理解を深めつつ、ケーススタディを交えながら実践的な視点を養い、マーケティングの応用力を高める。さらに、データ活用の視点も取り入れつつ、客観的なマーケティングプロセスのあり方を探求する。本科目は、「スポーツマーケティング」の前提となる科目である。	
専門基礎科目	経営学基礎	財務会計論	○	企業は、投資家を中心とする外部の利害関係者に対して、経済活動の状況や結果を報告している。この報告のために用いられる手段が財務諸表である。財務諸表は、会計固有の規則に従って作成されるが、この規則は「一般に認められた会計原則」と呼ばれている。当該原則およびその背後にある論理を知ることは、財務諸表を作成したり、利用するために必要不可欠である。本講義では、「企業会計原則」と「会計基準」を中心に、現行の制度会計で用いられる「一般に認められた会計原則」を学びながら、その背後にある論理を明らかにし、それらの論理にしたがって、企業活動を具体的に描き出す方法である複式簿記、とりわけ仕訳についても学ぶことを目的とする。	
専門基礎科目	経営学基礎	経営戦略論	○	本講義では、データサイエンスのドメイン知識である経営戦略論とマーケティングの基礎知識の習得を目的とする。まず、経営戦略の定義や学派（ポジショニングスクールとリソースベースド）などについて説明したのち、環境と組織の関係からドメイン構築とSCP(Structure-Conduct-Performance)、経営戦略の種類と構造を検討する際に必要な事業部制の知識、経営戦略の種類として全社戦略と競争戦略、ここでは、PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）やアンゾフのドメインの議論、競争戦略ではポーターの戦略論、バリューチェーンとビジネスシステムなどについて検討する。その上でデータマイニング（データ活用）の背景について経営戦略論とマーケティングの動向から、顧客起点経営の重要性を示唆する。その点からCRM（顧客関係管理）についても説明する。	
専門基礎科目	経営学基礎	デザインシンキング		本科目は講義形式として、デザインシンキングの基本概念とプロセスを学ぶ。具体的には、発見・共感・観察・定義からなる着想、発案、実現、確認の一連の流れを通じて、創造的かつ実践的な課題解決能力を身につける。デザインシンキングは、ユーザー中心性（共感性）やユーザー理解、問題提起、アイデア生成・概念化を基盤に、社会に存在する課題を解決するための視座を提供する枠組みである。本科目ではこの枠組みの理解と応用を通じて、論理的かつ柔軟な思考力の育成を目指す。講義やディスカッションに加え、グループワークやワークショップを通じて、革新的な発想の具体化、問題解決、社会的価値の創造に向けた方法論を実践的に習得する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	経営学基礎	管理会計論	○	管理会計とは、経営管理のための会計であり、主として企業の経営管理者に対して管理上不可欠な経済的情報を提供するために、適切な数量的データを認識し、測定し、記録し、分類し、要約し、解説する理論と技術である。経営管理者に提供される経済的情報には、設備投資の意思決定や業務上の意思決定に資するための情報と、一定期間についての企業全体あるいは事業部門ごとの総合的な実行計画の立案と統制に資する情報とがあり、本講義では、それらの情報を算出するための理論ならびに技術を習得することを目的とする。とりわけ、後者の情報は、業績管理会計情報と呼ばれ、計画の実行プロセスを担う組織成員の行動を組織目標に沿うように方向づけるとともに、組織成員のモチベーションを促進するうえで重要である。日本企業には、固有の業績管理会計システムが観察されており、その実際の事例についての理解も促す。	
専門基礎科目	経営学基礎	ファイナンス		本科目は講義形式として、金融リテラシーを身につけることを主眼に、まず金融取引の基本的な枠組みや仕組みを詳しく学習する。そのうえで、銀行や証券会社、保険会社などの金融機関が担う役割や、市場参加者の行動原理、および株式市場・債券市場・外国為替市場などの各市場がどのような構造や特徴をもつのかを体系的に理解する。さらに、金融取引には情報の非対称性が存在し、それが資金調達や投資判断においてどのような困難をもたらすかを掘り下げて考察する。具体的には、逆選択やモラルハザードといった問題が生じるメカニズムを学び、それらに対処するための手段として、各種規制や金融商品の設計、契約条件の工夫などがどのように機能するかを検討していく。本科目では、こうした金融のミクロ的側面についての理解を促し、現実の金融市場での現象や日常的な動きを理解できるようになることを目指す。	
専門基礎科目	経営学基礎	経営組織論		本科目では、経営組織論の基本的な理論と概念を学び、組織がどのように設計され、機能し、人々の行動に影響を与えるのかを理解することを目的とする。組織構造や権限・責任の分担に加え、モチベーションやリーダーシップ、組織文化やコミュニケーションといった要素を体系的に取り上げる。授業では講義を通じて経営組織論の理論的枠組みを習得するとともに、国内外の企業や非営利組織、スポーツ運営組織の事例を分析し、実際の経営課題との結びつきを考察する。さらに、グループディスカッションや発表を通じて多様な視点から問題を検討し、理論を現実の組織問題に応用する力を身につける。学生は組織の一員としてだけでなく、組織をリードし変革する視点も培うことを目指す。	
専門基礎科目	経済学基礎	ミクロ経済学	○	本科目は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、個々の経済主体の行動と市場の仕組みを分析するミクロ経済学の基礎理論を体系的に学ぶことを目的とする。まず、需要と供給の決定メカニズムや消費者・企業の行動原理を通じて、価格形成と資源配分の仕組みを理解する。次に、費用構造と生産行動、完全競争市場を学び、市場の効率性と企業行動の関係を考察する。そのうえで、外部性、独占、不確実性、情報の非対称性など市場の失敗を取り上げ、政府や制度による介入の意義を検討する。さらに、寡占市場における戦略的行動（ゲーム理論）、独占的競争市場、労働市場の分析を学び、比較優位にもとづく国際貿易理論を通じて、より広い資源配分の原理を考える。本科目では、抽象的な理論の背後にある直観的な考え方を重視し、グラフや数式、具体的事例を用いながら理解を深めることを目指す。	
専門基礎科目	経済学基礎	マクロ経済学	○	本講義では、国内総生産（GDP）の決定、国債価格と金利の関係、物価と失業率の関係などの基本的な経済理論から、為替の影響、景気変動のメカニズム、金融政策・財政政策の役割とその効果までを体系的に学習する。その上で、従来は想定されていなかった急激な人口減少や気候変動などが、マクロ経済へどのような影響をもたらすかについて考察する。講義では、国民経済計算体系（SNA）の理解に重点を置き、実際のデータを用いて現実の日本経済と経済理論を結び付けて解説する。本科目は受講生が現代の社会経済の背景を理解し、日本経済の大きな流れを捉えるための力を身につけることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	経済学基礎	地域社会産業論		本科目では、地域社会における産業の構造と発展について学び、特に現代の地域産業において重要な役割を担うスポーツと観光が地域経済に及ぼす影響を考察する。スポーツイベントやアウトドアアクティビティなどが地域経済や住民に与える影響を分析し、持続可能な地域振興の可能性を探る。具体的には、国内外の事例を通じて地域資源を活かした新たな産業モデルを検討し、スポーツや観光を活用した地域活性化の戦略を検討する。さらに、地域経済分析システム（RESAS）を用いたデータ分析演習を実施し、統計データを基に地域の課題や可能性を可視化し、地域産業の未来を主体的に考える力を身につけることを目的とする。	
専門基礎科目	経済学基礎	公共政策論		本科目は講義形式として、政府や自治体が社会課題に対してどのように政策を立案・実施し、その効果を評価するのかについて学ぶ。本講義では、政策決定過程や関係者の役割、エビデンスに基づく政策形成（EBPM）を中心に、具体的な事例を交えながら考察する。また、スポーツ政策、社会包摂、地域活性化、環境政策などの分野における政策の特徴を分析し、政策評価の手法や課題についても理解を深める。講義を通じて、政策の課題を発見し、実効性のある解決策を考案する能力を身につけることを目的とする。	
専門基礎科目	経済学基礎	地域産業連関分析		ある地域の経済が持続可能であるということは、生産、分配、支出の循環構造が安定して機能することを意味する。本科目では、講義形式と演習形式を交えて経済循環の考え方と国民経済計算体系（SNA）、県民経済計算について学び、データから地域経済の実態を把握することを目的とする。その上で地域産業連関表を使用し、地域経済に変化をもたらす経済事象についてその影響を定量的に評価する方法について習得する。受講者は各自PCを持ち込み、Microsoft Excelを用いて実際に計算を行う。その際、行列計算が必要となるため、線形代数の基礎についても学習する。また、RESAS（地域経済分析システム）を用いて具体的な地域の経済循環構造について考察を行う。	講義20時間 演習10時間
専門基礎科目	経済学基礎	政策評価論		ある事業や政策が妥当であることを説明するためには、「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点からエビデンスに基づいてそれぞれ独立に評価することが求められる。ここに論理矛盾、倫理観の欠如、情報操作などが内在すると、評価結果のみならず評価体制そのものへの信頼が損なわれることになる。本講義では、評価の目的、評価の論理的構造、アウトプットやアウトカムなどの評価概念、ロジックモデル、エビデンスを導くための様々なメトリクス、評価体制と意思決定などについて学修を目的とする。講義では具体的な政策を事例として、どのような評価の仕方が望ましいのかについて議論する。	
専門展開科目	統計・数理モデリング	多変量解析I	○	本科目では、講義形式と演習形式を交えて、多変量データの解析法を学ぶ。多変量データとは、複数の変数が同時に観測されたデータを指し、現代のデータ解析において基本的かつ重要な対象である。本科目では、多変量データの定義から始め、多変量データの要約や可視化といった記述的方法に加え、単回帰分析、重回帰分析、判別分析といった代表的な手法を取り扱う。これらは、変数間の関係を把握し、構造を理解するための基礎となるものである。理論的な説明とともに、実際のデータを用いた演習を通じて、各手法を適切に理解し、その使い方を体得することを重視する。本科目における学習を通じて、多変量データを整理・分析し、適切に解釈できる能力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	統計・数理モデリング	多変量解析Ⅱ	○	本科目では、講義形式と演習形式を交えて、多変量データを解析する方法を実践的に学ぶ。「多変量解析Ⅰ」に続いて、本科目で扱うのは、クラスター分析、主成分分析、因子分析、多次元尺度構成法といった代表的な教師なし学習の手法である。教師なし学習は、データに内在する構造や潜在的な要因を明らかにし、変数間の関連やデータの分類を理解するための基本的な方法論である。理論的な説明とともに、実際のデータを用いた演習を通じて、各手法を適切に理解し、その使い方を体得することを重視する。本科目における学習を通じて、多変量データに潜むパターンや構造を的確に把握し、適切に解釈できる能力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	統計・数理モデリング	線形モデル	○	本科目は講義形式として、線形モデルおよび一般化線形モデルの基礎を学ぶ。具体的には、重回帰モデル、ロジスティック回帰モデル、一般化線形モデル、混合効果モデルなどの理論的背景と実装方法、および結果の解釈について扱う。これらの手法は、予測、要因の効果の推定、特性の比較や評価など、多変量データの解析に広く用いられる基本的枠組みである。本科目では、理論的説明とあわせてデータ解析ソフトを活用した実践的理解を重視する。本科目における学習を通じて、線形モデルに基づく統計的モデリングの基礎的な能力を習得することを到達目標とする。	
専門展開科目	統計・数理モデリング	最適化	○	本科目では、講義形式にて、最適化の数理的基礎と計算手法およびその応用を学ぶ。具体的には、最適解が満たすべき条件や双対理論、線形計画や非線形計画などの連続最適化、組合せ最適化や整数計画などの離散最適化、さらに、スパース最適化やロバスト最適化などの概念についても取り扱う。また、様々な分野で最適化手法が活用される具体例にも触れ、数理的アプローチの実用性を体得する。本科目における学習を通じて、数理最適化の基礎的な概念や反復法の考え方を正しく理解することを到達目標とする。	
専門展開科目	統計・数理モデリング	オペレーションズ・リサーチ		本科目では、スポーツなどの現場における意思決定や運営上の課題に対して、数理的手法を用いて解決を図るオペレーションズ・リサーチ（OR）について、講義形式で学ぶ。具体的には、試合に関する数学モデルの構築、選手やチームの評価、選手起用などのスポーツ戦略、スポーツイベントのスケジューリングなど、実際のスポーツ環境における最適な意思決定を支援するアプローチ方法を取り扱う。最適化手法の理論よりも、マルコフ解析、包絡分析法（DEA）、階層化意思決定法（AHP）、シミュレーションやネットワーク分析、待ち行列理論といった応用技術に重点を置き、スポーツマネジメントやパフォーマンス分析における実践的な活用方法を習得することを到達目標とする。	
専門展開科目	統計・数理モデリング	質的データ解析		本科目では、講義・演習形式にて、カテゴリカルデータの解析法を学ぶ。具体的には、クロス集計表の分析から始まり、ロジスティック回帰モデルや対数線形モデルを用いた回帰分析、対応分析、数量化理論による多変量解析、さらに順序尺度データに対するノンパラメトリックな分析方法の理論的背景を扱う。これらの手法はいずれも、質的データに潜む構造や変数間の関係を明らかにするための基礎的な枠組みである。本科目では、理論的説明に加えて、実際のデータを用いた分析演習を通じて、各手法の特性と適用の仕方を理解することを重視する。本科目における学習を通じて、質的データを適切に整理・分析し、解釈する力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	統計・数理モデリング	時系列解析		本科目では、講義形式と演習形式を交えて、時系列データの解析法を学ぶ。時系列データとは、時間的に順序づけられた観測値からなるデータであり、経済・社会・自然現象など多様な分野で重要な役割を果たす。本科目では、まず時系列データの特徴と基本的な記述方法を確認し、自己相関や平滑化といった基礎的な手法を扱う。そのうえで、移動平均モデル（MA）、自己回帰モデル（AR）、自己回帰和分移動平均モデル（ARIMA）といった代表的なモデルの考え方と推定法を学ぶ。さらに、季節変動やトレンドの取り扱い、モデルの適合度評価、予測手法についても取り上げる。理論的な説明とともに、実データを用いた演習を行い、実践的理解を重視する。本科目における学習を通じて、時系列データを適切にモデル化し、将来の予測や解釈に応用できる基礎的能力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	ＡＩ・情報技術	データベース	○	本科目では、講義形式と演習形式を交えて、関係データベースを中心として、データモデル、関係の概念などの理論的バックグラウンドから、データベースの作成、関係データベースのクエリ言語SQLを用いた検索、プログラムからの関係データベース利用など、関係データベースの利用に必要な手法を学ぶ。また、NoSQLなど最近の技術動向についても学ぶ。本科目における学習を通じて、データベースを正しく理解する上で必要な理論とその利用方法について習熟することを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	ＡＩ・情報技術	機械学習Ⅰ	○	本科目では、講義形式と演習形式を交えて、機械学習の基本的な考え方と代表的な手法を学ぶ。特に、解釈性と予測精度の両立に注目しながら、教師あり学習を中心に扱う。具体的には、線形回帰やロジスティック回帰といった基礎的手法を出発点とし、決定木モデル、ランダムフォレストや勾配ブースティングなどのアンサンブル学習を学ぶ。また、データの前処理（標準化・正規化）に加え、モデル性能を高めるための特徴量エンジニアリング（変数選択、変数変換、交互作用の導入など）についても取り上げる。さらに、モデルの評価指標や汎化性能を高めるためのハイパーパラメータ調整について学ぶ。本科目における学習を通じて、既存データからパターンを抽出し、未知のデータに対して適切に予測・評価できる基礎的能力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	ＡＩ・情報技術	機械学習Ⅱ	○	本科目では、講義形式と演習形式を交えて、ニューラルネットワークを基盤とする深層学習の手法とその実装を学ぶ。まず、パーセプトロンや多層ニューラルネットワークを通して基礎的な構造と学習アルゴリズムを理解する。続いて、畳み込みニューラルネットワーク（CNN）、リカレントニューラルネットワーク（RNN）、さらに近年広く利用されているTransformerモデルなど、代表的な深層学習の枠組みを取り上げる。また、過学習を防ぐための正則化手法やドロップアウト、最適化アルゴリズム、学習率調整といった実践的な要素についても扱う。本科目における学習を通じて、深層学習モデルを設計・実装し、未知データに対して適切に予測や表現学習を行う基礎的能力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	ＡＩ・情報技術	スポーツとXR技術		本科目では、講義形式と演習形式を交えて、物理世界と情報世界の融合によって新しい体験を創造するXR技術について、スポーツ分野における活用事例とともに実践的に学ぶ。スポーツの観戦・トレーニング・実践の場でAugmented RealityやVirtual Realityなどに代表されるXR技術の活用が進んでいる。さらには超人スポーツなどXR技術をはじめとするテクノロジーを利用した新たなスポーツも生み出されている。本科目では、XRに関する基礎的概念、感覚のしくみ、マルチモーダルな計測・フィードバック手法、XR技術による効果と副作用などを取り扱い、プレゼンテーションやデモンストレーションを交えて学ぶ。これらを通じて、スポーツ分野で活用される実践的なXR技術のねらいや価値を理解し、他者にわかりやすく伝えることができるようになることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	AI・情報技術	データ構造とアルゴリズム		本科目では、講義形式と演習形式を交えて、データサイエンスを実践する上で、目的に応じたプログラムを自ら構築できるようになるために必要な、データ構造やアルゴリズムについて深く学ぶ。具体的には、Google Colaboratory 上の Python 言語を用いて、アルゴリズムの基本的な考え方や代表的なデータ構造、計算量の概念を学び、ソートや探索における効率的なアルゴリズムの設計と実装を行う。これらの学習を通じて、データ分析やアプリケーション開発の基盤となるデータ構造とアルゴリズムの性能を計算量の観点から理解し、効率的なプログラムを実装できるようになることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	AI・情報技術	画像処理とAI動作解析		本科目では、スポーツにおいて基本的な情報である映像（動画）からアスリートの動きに関する特徴を抽出するために深層学習に基づくマーカーレスモーションキャプチャ（主に姿勢推定）技術をスポーツの映像分析に活用する方法を講義・演習形式で学ぶ。具体的には、撮影条件の設定や撮影した動画の前処理、OpenPoseやYOLOをはじめとする代表的な学習済みモデルの適用、得られたデータから腕を振る速度や膝を曲げる角度などの物理量への変換、調子の良し悪しでの統計的な比較といった一連の動作解析を扱う。本科目における学習を通じて、普段の練習や試合で撮影した動画に上述の深層学習モデルを用いて自身の動きを定量化できるようになることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	AI・情報技術	コンピュータシミュレーション		本科目では、講義形式と演習形式を交えて、Google Colaboratory 上の Python言語を用い、モンテカルロ法およびマルチエージェントシステムについて学ぶ。特にマルチエージェントシステムに関しては、エージェントの設計と、オブジェクト指向やオントロジーと呼ばれる概念構造との関係についても紹介する。また、時系列データの取り扱い手法についても学ぶ。本科目における学習を通じて、簡単なシミュレーションモデルを設計・実装し、その構造や挙動を分析・検討できるようになることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	AI・情報技術	AIと身体性認知科学		本科目では、講義形式にて、認知科学・心理学・神経科学の知見を土台としつつ、身体性と認知の相互作用を数理的・システム的に捉えるための理論と応用について学ぶ。身体性認知科学とは、ヒトの認知（心・意識・知能）が脳のみならず、身体全体と環境との相互作用を通じて生じるという視点に立ち、これらを一体的なシステムとして扱う学問領域である。本科目では、こうした認知システムの構成原理や動的特性について、関連する理論や研究例を紹介するとともに、人工知能・ロボティクス・人間拡張などへの応用可能性についても取り上げる。さらに、身体性と認知の関係が、教育、福祉、スポーツ、ユーザインタフェースなど多様な実社会の分野でどのように活かされ得るかを考察する。本講義を通じて、脳―身体―環境のインタラクションに関するシステム的理解を深め、情報科学・工学・認知科学にまたがる横断的視点を身につけることを到達目標とする。	
専門展開科目	AI・情報技術	自然言語処理と生成AI		本科目では、講義形式と演習形式を交えて、自然言語処理の基礎から生成AIの応用までを学ぶ。まず、言語データの特徴やテキストの前処理、形態素解析、ベクトル表現といった基本概念を取り上げる。次に、Bag-of-WordsやTF-IDFによる表現、単語分散表現、さらにニューラルネットワークを応用した系列モデルや注意機構の考え方を学ぶ。そのうえで、大規模言語モデル（LLM）を中心とした生成AIの仕組みを概観し、文章生成・要約・翻訳・対話などの応用例を扱い、実装にも触れる。本科目における学習を通じて、自然言語データを適切に処理し、生成AIを活用した応用ができる基礎的能力を身につけることを到達目標とする。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	AI・情報技術	データサイエンス特講		本科目では、講義形式と演習形式を交えて、データサイエンス分野における最新の研究動向や応用的トピック、あるいは学際的・実践的な課題に対応したテーマについて学ぶ。カリキュラムの柔軟性を高め、分野の発展や社会的ニーズに即した特色ある教育を行うために設置された科目であり、年度ごとに設定されるテーマに応じて、多様な分野のデータを対象とした分析手法や可視化技術、情報処理、身体・環境データの取得と処理、社会実装に関する内容などを取り扱う。本科目における学習を通じて、データサイエンスの先端的知見とその応用について主体的に学び、多様な課題に柔軟に対応できる力を身につけることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	スポーツテックとデータ活用	○	本科目では、講義・演習形式で最新のスポーツテック（センシング技術や画像解析技術など）を活用したスポーツや運動パフォーマンスの計測と分析について学ぶ。具体的には、GPSやモーションキャプチャー、アイトラッキングなどの技術による定量的なデータの計測・処理・分析の方法、および、競技映像の定性的な観察・分析、インタビューや当事者の語り（ナラティブ・データ）などによる定性的なデータの収集・分析の方法を取り扱う。また、それらが選手の育成や指導、パフォーマンスの向上などにどのように役立つかについても考察する。さらに、実際のスポーツ・運動のデータセットを用いた演習も行いながら、データの活用技術・分析能力を高める。本科目では、多様なスポーツテックとデータ分析手法の基本を理解し、それらを実際に応用する能力を習得することを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	スポーツ情報戦略・戦術論		本科目では、主に球技を題材に、スポーツ組織および選手個人が目標を達成するために活用する情報戦略・戦術手法について、実際のスポーツ現場の事例を用い、講義と演習を通じて学ぶ。具体的には、競技スポーツにおける情報収集・分析・伝達に関する知識と基本技術を習得し、戦略と戦術の違いを理解した上で、量的（記述的）パフォーマンス分析を手作業またはソフトウェアを用いて実践する。さらに、量的データに基づくパフォーマンス評価を行い、戦略・戦術策定への応用方法を修得する。本科目の学習を通じて、スポーツ現場における情報活用に関する実践的な知識と技術を身につけるとともに、量的分析の意義と限界への理解を深めることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	スポーツ映像分析論		本科目では、講義・演習形式にて、競技スポーツのパフォーマンス分析において重要な映像情報を、適切に撮影・管理・分析・プレゼンテーションする方法について学ぶ。具体的には、SportscodeやDartfishなど、プロチームのスポーツアナリストが用いる専用の映像分析ソフトウェアを用いて、仮説の設定、映像の取得から分析、成果のプレゼンテーションまでの一連の流れを体験する。本科目における学習を通じて、競技現場におけるパフォーマンス分析に必要な、課題を見極める力、データや映像から意味を読み取る分析力、伝える力、そしてチームと連携して働くための実践的な基礎能力を身につけることを到達目標とする。	講義16時間 演習14時間
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	スポーツと計量社会学		本科目では、スポーツを題材としながら、計量社会学の基礎的な考え方と研究手法を講義形式で学ぶ。具体的には、主に統計的調査によって得られた数量的データを用い、社会学的な問いに対するアプローチの有効性と限界について理解を深める。また、潜在クラスモデルや構造方程式モデルといった多変量解析の計量社会学的な応用事例を通じて、統計的手法によって社会におけるスポーツの位置づけ、そしてその変化をとらえる手法を理解する。本科目における学習を通じて、データから社会を正しく読み解き、論理的な解釈を得るための学術的および統計的リテラシーを身につけることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	モーションデータ解析		本科目では、講義形式にて、モーションキャプチャ、筋電図、力覚センサなどによって得られる時系列データを対象に、身体動作に関する多様なデータを統計的・数理的に解析する方法を学ぶ。具体的には、質点モデル・剛体系モデル・筋骨格モデルなどの運動モデル、位置・速度・加速度（キネマティクス）および力・トルク（キネティクス）といった力学的概念を踏まえた上で、センサーデータに対する信号処理や時系列解析の基本手法を用いて、データ取得・前処理・特徴抽出・可視化・比較などを行う手法を学ぶ。また、データに基づく身体動作の定量的理解を通じて、運動現象の構造的解釈と、スポーツにおける課題発見・解決への応用可能性についても考察する。これらを通じて、データサイエンス的思考に基づく運動分析における、センサーデータに基づいた分析力と実践的スキルを身につけることを到達目標とする。	
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	データに基づくコンディショニング		本科目は講義形式として、心身の体調（コンディション）を整えるコンディショニング法について理解し、実践あるいは指導するための基礎的な知識を身につける。コンディショニングは、身体的データ（心拍数・睡眠時間・関節可動域・筋出力・筋持久力等）、環境的データ（トレーニング条件・運動時間・運動強度・栄養摂取状況等）、心理的データ（心拍変動・質問紙等）など様々な因子があり、各種側面を組み合わせながら理解を深めていく。コンディショニングの目的、方法、評価指標を学習し、傷害予防、心身のストレスや疲労回復のためのコンディショニングだけでなく、応用可能な、健康維持を目的としたアプローチ方法についても学び、対象者やスポーツ現場に応じたコンディショニングプログラムの検討ができる能力を習得することを目的とする。	
専門展開科目	スポーツデータサイエンス	データに基づくコーチング		本科目は、講義形式にてコーチング学の理論的な背景に加え、現代社会における多様な実践事例についても理解を深めることを目指す。 具体的には、スポーツをフィールドにしたコーチングの実際について、各種情報機器を活用した動作のトラッキングデータ、心拍数、画像編集を用いたフォームや技術分析、速度を意識したトレーニング、生理学的データ活用など、パフォーマンスデータ測定や分析に基づく指導実践事例の紹介や、コーチング上、考慮すべき事象（コンディション不良やバーンアウト等）についても実測データに基づいた手がかりの検討手法など幅広く解説する。さらに、スポーツのコーチング場面において現代社会で求められている、経験則に加えてデータに裏付けられた指導方法についても考察を深めていく。	
専門展開科目	ビジネスデータサイエンス	ビジネスデータサイエンス	○	本科目では、講義形式にて、データサイエンスとは何かから始まり、ビジネスでのデータサイエンスの活用について理解することを目的とする。データサイエンスとはデータ活用に関する諸領域であり、データサイエンスの前提条件を含めた領域である。そこでは、基幹系システムの構築、データマネジメントとデータエンジニアリング、分析用データの作成とデータクリーニング、分析手法（アルゴリズム）などが含まれる。これらについて学習したのち、実務界での利用法について説明する。そこでは、金融機関などで行われる与信管理、需要予測、顧客行動理解、顧客離反とチャーンマネジメント、レコメンドシステムなどについて説明する。また、最近注目されている自動化についても説明する。なお、ビジネスとの関係を重視するので、経営戦略論とマーケティングの基本なども習得する。	
専門展開科目	ビジネスデータサイエンス	デジタル・マーケティング		近年のデジタルテクノロジーの発展は、STP（Segmentation、Targeting、Positioning）とマーケティング・ミックスを中心としたマーケティング実践に大きな変化をもたらしており、デジタル技術活用の巧拙が企業業績に重要な影響を及ぼすようになっている。本講義では、まず企業を取り巻くマーケティング環境の変化を理解するため、デジタル時代におけるビジネスモデルやデジタル技術活用について学修する。続いて、これまでのマーケティングの発展過程を学びつつ、企業のウェブサイトやSNSを活用したデジタル・マーケティングの位置づけと、従来のマーケティングの中核となるSTPとマーケティング・ミックスの進展について学ぶ。さらには、デジタル時代における消費者行動の変化と顧客対応についての理解を促すことで、デジタル・マーケティング戦略を理論的かつ実践的に考察できる力を身につけることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	ビジネスデータサイエンス	計量経済学と因果推論		本科目は、経済データを用いて現実の問題を数量的に分析するための基礎的手法を学ぶことを目的とする。統計学の初歩を踏まえ、回帰分析を中心とした計量経済学の基本概念を理解し、実際のデータを用いて分析を行う。授業は講義形式と実習形式を交えて進め、Rなどの統計ソフトを用いてデータの整理、グラフ作成、回帰分析の実行と結果の解釈を体験する。これにより、数値の背後にある経済的意味を読み取る力を身につける。さらに、時間の許す範囲で、相関と因果の違いや、因果推論の基本的考え方（操作変数法やDIDなど）にも触れ、政策評価や社会調査への応用の入り口を学ぶ。本科目を通じて、学生はデータに基づいて経済現象を理解し、実証的に考察する基礎的スキルを身につける。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	ビジネスデータサイエンス	ビジネスデータマイニング		本科目は、経営戦略論およびビジネスとの関係でデータサイエンスの手法の一つであるデータマイニング（AI）の基本的な知識と実例と利用法の修得を目的とする。データマイニングとは、企業内に蓄積されたデータよりビジネス上の仮説を発見する方法であり、最近注目されているAIに進化している。このような手法は現在多くの企業で導入されており、国際的な企業（グーグル、アマゾン等）においてもその動向は同じである。そこで、本講義では、企業での実例とともにその利用法を説明する。最近話題になっている組織科学および経営学領域もしくはビジネスでのデータサイエンティスト（AI人材）になるための基礎を習得することを目的とする。可能であれば、ツールを用いた演習を行う。ツールとしては、IBM SPSS Modelerを用いる。	講義20時間 演習10時間
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツビジネス論	○	スポーツビジネスとは、スポーツに関わる製品・サービス・体験等を人々に提供し、経済的・社会的な価値を創出する活動の総称である。具体的には、プロスポーツクラブや地域スポーツクラブ、フィットネスクラブ、競技団体等の経営に加えて、スポンサーシップ、放映権、デジタルテクノロジーの活用、サステナビリティ経営などの過程で展開される多様なビジネス活動（企画・戦略の立案、生産・販売、マーケティング、人的資源管理、リスク管理等）が含まれることになる。本講義では、スポーツビジネスに関連する基礎理論や事例、実務的な展開を学び、スポーツ価値の増大・普及・共創を実現するための基本的な知識と実践的な能力を身につけることを目的とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツマーケティング	○	本講義では、マーケティングの基礎を修得済みの学生を対象に、スポーツ産業に特有な市場特性と消費者行動を学ぶ。特にスポーツプロダクトの公益性やエンターテイメント性、サービスプロダクトとしての特性、そして地域社会における社会的価値の創出といった特徴を理解する。また、スポーツ観戦者と参加者という二大消費者層に焦点を当てることで、スポーツマーケティングの対象となる顧客の理解を深める。講義では、デジタル化やグローバル化の進展を考慮しつつ国内外の様々なケースを扱い、学生自身がマーケティング戦略を立案・発表することで、実践的な応用力を身につけることを目指す。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツ倫理学		本講義は、スポーツと倫理の関係を幅広く理解することを目的とする。ドーピング、フェアプレイ、暴力や差別などスポーツ現場での倫理課題に加え、スポーツ産業に関わる企業の社会的責任やコンプライアンス、スポンサー契約における倫理的判断も扱う。競技における審判の公正性、選手の人権保護、ジェンダー平等、障害者スポーツにおける配慮などの現代的課題を検討する。また、AIやテクノロジーの導入による新たな倫理問題についても議論する。学生はケーススタディを通じて、競技者・組織・企業の立場からスポーツ倫理を多角的に考察し、健全なスポーツ文化の維持に必要な倫理的価値観と実践的判断力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツ経済学	○	スポーツ経済学は、スポーツを経済分析の対象とするミクロ経済学の応用分野の一つである。本科目は講義形式として、まず経済分析の対象としてのスポーツの特性を学ぶ。さらに、スポーツ経済学に関連する主要なトピックを学ぶ。 本講義で主に取り上げる「観るスポーツ」の商品は、サービスとしてのゲームであり、財との比較の中で、類似点や相違点を考え、その特性を学ぶ。次に具体的なトピックとして、スポーツのゲーム（試合）の結果の不確実性と戦力均衡、オリンピックやワールドカップなどのメガスポーツイベントの経済効果と社会効果、プロスポーツにおける労働市場の特徴などを取り扱う。本科目を通じて、スポーツ競技やスポーツを取り巻く環境を経済学的視点で捉える視座やスポーツ経済学の基礎的な知識を身につけること、行動経済学の理論を応用した新たなスポーツマーケティングの提案ができるようになることを到達目標とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツマネジメント	○	本科目では、スポーツ組織の運営や経営に関する理論と実践を学ぶ。具体的には、プロスポーツクラブ、スポーツイベント、スタジアム・アリーナビジネス、地域スポーツ振興、スポーツスポンサーシップなど、スポーツ産業の多様な領域を取り上げる。さらに、マーケティング戦略、財務管理、組織運営、ガバナンス、ファンエンゲージメントの手法を具体的な事例とともに考察する。講義を通じて、スポーツビジネスの現場で求められる知識と実践力を身につけ、持続可能なスポーツ産業の発展に寄与する力を身につけることを目的とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	サービスイノベーション論		サービスイノベーションとは、革新的なサービスの開発や既存のサービスの改善などを通じて、顧客に新たな価値を提供し、組織や社会に様々な変化を生み出すことを意味している。スポーツ組織は、ヒト・モノ・カネ・情報といった諸資源（スポーツ資源）を「スポーツサービス」に転換する役割を果たしていることから、こうしたサービスイノベーションの知識・技術が必要不可欠となる。本講義では、サービスイノベーションの概念や理論について学ぶとともに、顧客体験の向上やデジタル技術の活用、新たなビジネスモデルの構築など、現代のサービス産業におけるイノベーションの重要性を理解することを目的とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツツーリズム		本科目は講義形式にて、旅行先での活動にスポーツの要素が含まれることで概念化されるスポーツツーリズムについて学ぶ。新たな産業として、また地域活性化の手段として認識されるようになったスポーツツーリズムの定義や特徴、歴史を概観するとともに、その発展プロセス、推進組織、環境との関係、ウェルビーイングとの関連性などについて考察する。また、スポーツイベント、スポーツチーム、スポーツ施設などのスポーツ資源を活用したスポーツツーリズム推進に関する国内外の具体的な取り組みを紹介し、スポーツと観光産業の成長および地域振興におけるスポーツツーリズムの役割について理解を深めることを目的とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツメディア論		本科目では、スポーツとメディアの相互作用や、メディアが社会にもたらす影響の考え方を講義形式で学ぶ。具体的には、スポーツとメディアが相互に影響し合いながら発展してきた歴史的変遷、現代社会においてスポーツメディアが社会・経済に及ぼす影響、そして、メディアで表象されるスポーツの現状と課題について取り扱う。また、スポーツ社会学系の論文で扱われた具体的な事例を参考に、スポーツメディアにかかわる問いの立て方と基礎的な研究手法を学ぶ。本科目における学習を通じて、スポーツ、メディア、そしてそれを取り巻く社会の三者の関係性を読み解くリテラシーを身につけ、現代社会におけるスポーツメディアの有効性と課題を考えられるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツ文化論		本科目では、時代や国、社会構造に応じたスポーツの多様性と、スポーツの普遍性を主たる題材としながら、文化としてのスポーツの基礎的な考え方を講義形式で学ぶ。具体的には、日本に近代スポーツが伝搬した明治から現代にかけてのスポーツと日本社会のかかわりの変容、そして現代社会におけるスポーツの多様性に関する具体的な事例を通して、スポーツ文化論に関する基本的な概念と理論を取り上げる。また、データを扱った、スポーツ文化の探求方法に関する実証主義的なアプローチも学ぶ。本科目における学習を通じて、文化としてのスポーツを捉える洞察力を養い、スポーツビジネスに携わるための素地を身につけることを到達目標とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツファイナンス		本科目は講義形式として、スポーツビジネスにおけるファイナンス、中でも主としてプロスポーツ組織とプロスポーツリーグにおける特徴について、事例分析も含めて幅広く学ぶ。具体的には、プロスポーツにおけるファイナンスの特性や、プロスポーツ組織の株式上場について取り扱うと共に、スポーツ組織の資産価値について、事例分析も行いながら幅広い視点で考察する。また、特定のプロスポーツ組織のみならず、プロスポーツリーグを統括する機構のファイナンスや、非営利スポーツ法人のファイナンス等についても学ぶ。本科目を通じて、ファイナンスの仕組みや実態に関する理解を深めること、我が国におけるスポーツ組織の市場価値に関してさらに理解を深めるすることを目的とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツ政策論		本科目は、講義形式にてスポーツを取り巻く公共政策の立案、実施等一連のプロセスを取り扱うが、特に評価のプロセスについて学ぶ。具体的には、国や自治体が推進するスポーツ振興政策、競技スポーツの支援制度、スポーツによる社会包摂、健康増進、地域活性化の施策を具体的に考察する。さらに、スポーツ基本法や国際的なスポーツガバナンス、スポーツと経済・教育・福祉との関連性についても分析する。政策評価の手法やエビデンスに基づく政策形成（EBPM）の重要性を理解し、スポーツ政策の課題を発見し、実効性のある解決策を考案する能力を身につけることを目的とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	ｅスポーツビジネス論		本科目は、急速に成長するeスポーツ産業を経営学の観点から理解することを目的とする。大会運営やリーグの仕組み、スポンサーシップや広告戦略、メディア配信のビジネスモデル、さらにはファンコミュニティやプレイヤーマネジメントなど多様な要素を体系的に扱う。従来のスポーツビジネスと比較し、共通点と相違点を整理することで、eスポーツ特有の市場構造や課題を明らかにする。授業は講義形式にて国内外の事例分析や最新データを用いた考察を行い、収益源や成長可能性を理論的に検討する。さらにグループディスカッションを通じて、自らビジネスモデルを構想する実践的な力も身につけることを目指す。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツファシリティマネジメント		「スポーツファシリティマネジメント」では、スポーツ施設の計画、運営、維持管理に関する理論と実践を学ぶ。本講義では、スタジアム、アリーナ、公共体育施設、トレーニングセンターなど、多様なスポーツ施設の役割と機能を考察する。施設の設計・建設、財務管理、収益モデル、施設利用の最適化、安全管理、環境負荷低減の取り組みなど、持続可能な運営のための戦略を具体的な事例とともに学ぶ。さらに、地域社会との連携やイベント開催時の運営課題についても検討し、スポーツ施設を活用した地域活性化の可能性について理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツ産業論		我が国におけるスポーツ産業のGDPは約10兆円と推計され、ここ10年で年平均3.6%の成長率で推移している。スポーツ産業が人口減少下においても着実に成長を遂げている理由は、産業全体のすそ野の広がりと高付加価値化によるものと推察される。本講義では、このようなスポーツ産業を産業論の枠組みから捉え直し、その経済規模、エコシステム、組織化・産業化の取り組み、スポーツ事業の経済性評価、産業政策としての政策課題などについて多角的に考察することにより、理解を深めることを目的とする。講義ではスポーツサテライトアカウント（SSA）や具体的なスポーツ事業に対する地域付加価値創造分析について解説する。	
専門展開科目	スポーツビジネス	生涯スポーツ論		本科目は講義形式として、年齢や体力、技術、興味・目的に応じて、いつでもどこでも継続的に親しむことができる生涯スポーツについて学ぶ。高齢化が進む日本において重要視される生涯スポーツの定義や特徴、歴史を概観するとともに、余暇・レジャーとの関連を踏まえながら、行政、技術革新、自然環境、ウェルビーイング、文化などとの関連性について考察する。また、生涯スポーツ社会の実現に向けた国内外の具体的な取り組みを学ぶとともに、今日的な傾向や今後の方向性、課題について検討する。さらに、フロー理論、レクリエーション専門志向化理論、レジャーの阻害要因理論などを取り上げ、生涯スポーツの現象を科学的に説明する力を身につけることを到達目標とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	グローバル・スポーツビジネス論		本講義では、海外ビジネススクールで用いられるケース教材を活用し、学生が批判的思考力と意思決定能力を身につけることを目的とする。国際的なチームやリーグの運営、企業統治、倫理課題、スポンサーシップ、危機マネジメントなどを題材に、ケース分析とグループディスカッションを展開する。学生は不確実で複雑な環境における意思決定のプロセスを実践的に体験し、スポーツビジネスに特有の課題を多角的に検討する力を身につける。また、グローバルな視点からスポーツ産業の構造を理解し、リーダーとして国際的な現場で活躍するための思考方法を磨くことを目指す。本授業は英語で実施される。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツビジネス特講		本科目では、講義形式にて、スポーツビジネスにおける最新の動向やトピックを取り扱い、その現場で生じる実践的・実務的な課題について理論的に学ぶ。カリキュラムの柔軟性を高め、スポーツビジネス分野の社会的ニーズに即した特色ある教育を行うために設置された科目である。本科目における学習を通じて、スポーツビジネスの先端的知見とその応用について主体的に学び、多様な課題に柔軟に対応できる力を身につけることを到達目標とする。	
専門展開科目	スポーツビジネス	スポーツスポンサーシップ論		スポーツスポンサーシップは、スポーツ組織と資金や資源を提供する企業との間に成立する共創的な関係構築の仕組みを指し、双方が有益な価値を提供し合うことで新たな価値を創造していく営みである。本授業では、講義形式にてスポーツスポンサーシップの理論を学ぶとともに、国内外のスポーツ組織に関わる事例を題材として、多様な価値創造のあり方を俯瞰し、企業のブランド戦略、権利ビジネスの構造、さらには社会的価値創出との関わりを理解する。加えて、スポンサーシップ・パッケージやプロポーザルを実際に作成し、実務家に向けた提案を行うことを通じて、実践的な視点と戦略的コミュニケーション能力を身につけることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門展開科目	卒業論文	卒業論文		4年次に至るまでの各科目、とりわけ「専門演習」で学んできた学問的な知見を用い、自身の定めた研究テーマに対してアプローチし、研究成果を論文の形でまとめる。解決すべき課題の発見と絞り込み、目的の明確化、先行研究の整理、研究方法の選択と実施、分析といった一連のプロセスを通じて、研究者・ビジネスパーソンとして独り立ちできる力を完成させることを到達目標とする。各プロセスには指導教員、専門演習の他の履修者が積極的に関与し、専門演習における研究発表などを通じて研究の進捗や方向性を管理する。最終成果物である卒業論文については、発表会などを実施し、その質を担保する。	
演習・実習・実践科目	演習	基礎演習	○	本科目では、演習形式にて、大学での学びに必要な基礎力、学修技法および研究のための基礎的能力を身につけることを目的とする。具体的には、データサイエンス、スポーツビジネスに関する主体的な学び方を習得するとともに、大学における学びにおいて必要な文献輪読やグループワークを通じて、文献の読解方法、資料探し、レポート・レジュメ作成、先行研究・引用方法、調査分析方法、ディスカッションや討論、効果的なプレゼンテーションの方法等を取り扱う。また、自身で分析した資料を作成して発表したり、他者の意見を聴き議論したりする集団学習法を通じて、人前で話す力、傾聴力、議論に慣れることを目指す。本演習における学習を通じて、大学での学修活動を円滑に進めるための基礎力を身につけ、協調性、自己管理力、論理的思考力を修得することを到達目標とする。	
演習・実習・実践科目	演習	専門演習A1	○	本科目では、演習形式にて、専門基礎科目で培った知識を基に、専門応用科目においてコースの専門分野の知識を習得しつつ、深い探求に必要な専門知識・研究スキルを修得する。具体的には、科目担当教員の専門分野における具体的なテーマ設定、文献研究、データ収集・分析、ディスカッション、プレゼンテーション、実験、実習、フィールドワーク等を取り扱う。少人数制の指導のもと、学生自身の興味に基づいた課題に取り組み、研究を進める。本科目における学習を通じて、自ら課題を発見し深く探求する研究能力を身につけ、専門分野に関する知識、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に高めることを到達目標とする。これにより、将来の社会で活躍するための基盤を築くとともに、4年次の「専門演習B1」「専門演習B2」、卒業論文の執筆につながる知識の基盤をつくる。	
演習・実習・実践科目	演習	専門演習A2	○	本科目では、「専門演習A1」に引き続き演習形式にて、専門応用科目の学習と並行しながら少人数でのコミュニケーションを通じて、専門知識・研究スキルを修得する。科目担当教員の専門分野における具体的なテーマ設定、文献研究、データ収集・分析、ディスカッション、プレゼンテーション、実験、実習、フィールドワーク等を取り扱う。少人数制の指導のもと、学生自身の興味に基づいた課題に取り組み、卒業論文のテーマにつながる研究を進める。本科目における学習を通じて、自ら課題を発見し深く探求する研究能力を身につけ、専門分野に関する深い知識、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に高め、卒業論文制作をめざした研究課題の設定につなげるることを到達目標とする。これにより、将来の社会で活躍するための基盤を築くとともに、4年次の「専門演習B1」「専門演習B2」における卒業論文につなげていく。	
演習・実習・実践科目	演習	専門演習B1	○	本科目では、演習形式にて、3年次までの学びを基盤とし、学生自身の興味・関心に基づいた研究テーマにそって、個人またはグループで研究活動をすすめ、その集大成としての卒業論文作成に集中的に取り組む。具体的には、各自が選んだテーマに基づいた研究計画立案、文献研究、データ収集・分析、卒業論文執筆、ディスカッション、プレゼンテーション、研究成果の共有、中間発表など行う。少人数制のもと、教員からの個別指導とアドバイスを受けながら、研究を進める。本科目における学習を通じて専門分野に関する高度な研究能力、論理的思考力、課題解決能力を総合的に高めることを到達目標とし、「専門演習B1」「専門演習B2」で取り組む学びの集大成となる卒業論文につなぐ研究を深めることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習・実習・実践科目	演習	専門演習B2	○	本科目では、演習形式にて、文献、資料、データ、フィールド調査等の材料を分析し、その結果に基づいて研究課題から導かれた仮説を検証し、その成果の総括に取り組む。教員からの個別指導に沿って個人またはグループで研究活動をすすめ、論文の執筆、研究成果の発表を行う。これらの活動を通じて、学部での学びの集大成となる卒業論文の執筆を目標とすることで、論理的思考力やコミュニケーション能力を培い、将来の学術研究や専門分野での活躍に向けた確固たる基盤を築くことを目的とする。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツ統括団体（リーグ・協会）経営論		本科目は講義形式として、例えばJリーグのチェアマン、日本サッカー協会（JFA）の副会長、日本バドミントン協会会長、世界バドミントン連盟理事、日本オリンピック委員会（JOC）理事といったスポーツ統括団体における豊富な経営経験を有する教員が、国内外のリーグ・協会等の経営経験を通じて得たスポーツマネジメントの知見を、幅広く学生に還元することを目的とする。スポーツの競技力向上施策、競技の普及やファン獲得などの振興施策、スポーツを通じた社会貢献などを具体的に共有するとともに、経営の土台となる財政基盤の確立や人材戦略、デジタル戦略なども学生とともに探求することで、国内外のリーグ・協会経営の基盤として必要な知識と知見を身に付け、スポーツマネジメントに対する理解を深めることを到達目標とする。講義には世界レベルで活躍をしてきたスポーツアスリートやレフェリー、コーチ、クラブ経営者なども招へいして議論を深める。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	Jリーグビジネス論Ⅰ		サッカーに限らず日本におけるプロスポーツのビジネスの実務については、断片的に特定の組織の業務内容が伝えられることはあっても、複数の組織に関して網羅的にかつ比較可能な形式で語られることはほとんどなかった。そこで本科目では、講義形式により、Jリーグのサッカークラブ（J1、J2、およびJ3）の経営者あるいは経営管理者をゲストとして週替わりに招き、それぞれのクラブの地域特性、スポンサー特性、サポーター特性などの解説を受けたうえで、営業、企画、広報の観点からその具体的な実務の内容を学ぶ。本科目を通じて、サッカークラブ経営の実務の多様性、ならびにそれを生じせしめている要因について理解を深めることを目指す。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツ代理人・マネジメント論		本科目では、講義形式にて、主としてサッカーに関する代理人の役割、ならびにアスリートのマネジメントに関する実践について学ぶことを目的とする。サッカーの代理人の役割は多岐にわたり、クライアントのキャリア管理、契約交渉、移籍手続き、国際サッカー連盟（FIFA）規定の順守の確保など、さまざまな責任を担っているが、本科目では、選手の地位および移籍に関するFIFA規定、FIFA倫理規定、トレーニング報酬、連帯メカニズム、移籍マッチングシステムの仕組みなどを学ぶとともに、書物などでほとんど解説されることのないアスリートのブランド管理の構造についても学習する。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	Jリーグビジネス論Ⅱ		本科目では、講義形式により、「Jリーグビジネス論Ⅰ」にゲストとして招いたサッカークラブとは異なるJリーグのクラブ（J1、J2、およびJ3）の経営者あるいは経営管理者をゲストとして週替わりに招き、それぞれのクラブの地域特性、スポンサー特性、サポーター特性などの解説を受けたうえで、各クラブにおける営業、企画、広報の観点からその具体的な実務の内容を学ぶ。本科目を通じて、サッカークラブ経営の実務の多様性、ならびにそれを生じせしめている要因について、理解をさらに深めることができるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツアナリティクス実践論		本科目では、講義形式により、スポーツアナリティクスに関する実践的な知識と視点を学び、スポーツ業界におけるデータ活用の現状や課題についての理解を深める。具体的には、スポーツアナリストやスポーツコンサルタント、データプロバイダ、映像分析ソフトウェア開発企業など、スポーツアナリティクスに関わる実務家をゲストとして招き、業務内容やキャリアパス、業界構造の実態について講演を受ける回と、担当教員による補足講義や解説を通じて、データ活用の技術的・実践的背景を掘り下げて学ぶ回とを組み合わせて授業を展開する。本科目における学習を通じて、スポーツアナリティクスが果たす役割を多角的に理解するとともに、自身の関心と将来像を結びつける視点を育むことを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （25　久永 啓／7回） 主にスポーツアナリスト、データプロバイダなどの実務家の講義回とその補足講義や解説を担当する。 （26　廣澤 聖士／7回） 主にスポーツコンサルタント、映像分析ソフトウエア開発企業などの実務家の講義回とその補足講義や解説を担当する。	オムニバス方式
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツツーリズム実践論		本科目では、講義形式にて、旅行先での活動にスポーツの要素が含まれることで概念化されるスポーツツーリズムについて、国内外の具体的な取り組みについて学ぶことを目的とする。観戦型イベント、参加型イベント、アクティブ、ヘリテージという4種類のスポーツツーリズムに関する現場で活躍する専門家を招き、今日的な傾向や今後の方向性、課題について検討する。具体的には、スポーツツーリズム推進組織、スポーツ行政、観光行政、スポーツイベント、スポーツチーム、観光業などの分野で活動する実務者から最新の情報を共有してもらい、実践的な知識を深める。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツビジネス・プロジェクトⅠ		本科目は、プロスポーツ組織から受講生に向けて提示される課題について、学生がその解決に向けて主体的に取り組む、PBL形式の科目である。「課題」については、プロスポーツ組織の集客上の課題、グッズ企画上の課題、イベント企画上の課題、海外進出戦略上の課題、スポンサー営業上の課題など、学生たちによる解決を期待されるものが選定される。提示された課題解決のために、本講座の受講生は、基本的にグループワークを実施し、ソリューションを考案する。考案したソリューションについては、プロスポーツ組織に直接プレゼンテーションを行うとともに、フィードバックと評価を受ける。本科目を通じて、課題に関連する情報を自ら収集・分析し、他者とのコミュニケーションを図りながらグループで現実的な解決策を考案しそれを実現するためのプロセス創りを通じて、課題の解決能力を身につけることを主な到達目標とする。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツビジネス・プロジェクトⅡ		本科目は、「スポーツビジネス・プロジェクトⅠ」に引き続き、プロスポーツ組織が受講生に提示する新たな課題について、学生が主体的にその解決に取り組む、PBL形式の科目である。「課題」のタイプは、スポーツビジネス・プロジェクトⅠと同様であるが、本科目では新たに設定された課題に取り組む。提示していただいた課題解決のために、本講座の受講生は、基本的にグループワークを実施し、ソリューションを考案する。考案したソリューションについては、プロスポーツ組織にプレゼンテーションを行うとともに、フィードバックと評価を受ける。本科目を通じて、特定された課題を、スポーツビジネスの視点から解決する方策を提案できるようになることを主な到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	イベントプロデュース演習		本科目では、プロスポーツクラブと提携して、夏季休業期間中に開催される当該クラブの試合興行などにおけるイベントについて、受講生が企画・プロデュースを行うPBL形式の科目である。当該クラブの観戦者の増加につながるイベントを企画するとともに、そのイベントを通じて当該クラブの本拠地における地域課題の解決を目指す。受講生は自ら当該クラブに関する情報を収集・分析し、自由な発想に基づくアイデアを加味したうえで現実的な解決策を考案し、当該クラブに提案する。 これらを実現するためのプロセス創りを通じて、課題の解決能力と同時に対面影響力、主体的に議論する力、プレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	イベントマネジメント演習		本科目では、演習形式にて、スポーツイベントに関する理論的な知識を学ぶとともに、実務的なスキルを習得することを目的とする。具体的には、学校、自治体、国際的な規模で実施されるスポーツイベントの歴史や成り立ちを理解し、現代の動向を把握しながら、スポーツイベントがもたらす経済的、社会的、環境的な効果やレガシー、レバレッジ戦略について学ぶ。また、参加型または観戦型のスポーツイベントを題材に、自分たちの企画案・課題解決案を考案し、内容をブラッシュアップする過程を経験する。加えて、チームでの協働作業を通じて、課題解決能力やコミュニケーション能力の向上も目指す。これらにより、スポーツイベントの企画立案における実践的なビジネススキルを身につける。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	イベントプロデュース実習		本科目では、PBL形式にて、「イベントプロデュース演習」で考案した、提携するスポーツクラブにおける課題解決案を実践することを通じて、スポーツクラブ経営を実際に体験する。具体的には、夏季休業期間中に行う当該クラブのイベントについて、自分たちが策定した課題解決案を実現するために必要な計画行動を策定し、そのうえで最終的にスポーツクラブの試合当日のイベントプロデュースを行う。これにより、課題の解決に向けて、周囲の人々や状況をよく理解し、協力者を得ることができるように行動する力、および相互に協力しあう態度を身につけることを目的とする。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	イベントマネジメント実習		本科目は、実習形式にて「イベントマネジメント演習」で得た知見や企画案・課題解決案を基盤に、それを現場で具体化・実行する実践的な学びを提供する。提携するスポーツクラブとの連携を通じて、計画立案、運営準備、イベント実施に至るプロセス全体を実地に体験し、スポーツイベントの管理・運営に必要な知識と実務的なスキルを体系的に修得する。本科目を通じて、状況に応じた柔軟な対応力や総合的な判断力、確かな実践力を養うとともに、異なる背景や専門性を持つ人々と協働・対話する中で、多様性への理解と尊重、そして実社会で通用するコミュニケーション能力やチームワーク力を身につけることを目的とする。	
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	グローバル・スポーツビジネス・キャリア実習		本科目は、世界のサッカーリーグの中で最も経営的に成功していると言われるブンデスリーガ所属のサッカークラブと提携して、受講生は8日間程度ドイツに滞在し、そこにおけるサッカークラブ経営を実習するPBL形式の科目である。具体的には、①クラブのフロント部門の具体的な業務内容、②クラブのフィロソフィー、③ドイツ固有の会員組織（フェライン）、④スポンサー営業、⑤クラブ広報、⑥チケッティング、⑦スカウティング/強化、⑧地域貢献活動/SDGs活動、⑨ユースアカデミーの運営、以上の点について実地での観察、クラブ関係者の講義などを通じて実践的に学修する。実習を通じて、様々な分野において多様性を理解・尊重する力、柔軟な適応力・総合的な判断力・確かな実践力、他者と協働する力を身につけることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習・実習・実践科目	スポーツビジネス実践	スポーツアナリティクス実習		本科目では、講義形式と実習形式を併用して、スポーツアナリティクスに関する知識や技能を実社会の現場で実践的に活用しながら、課題発見力や振り返りの力を身につける。具体的には、スポーツチームや関連企業等において実際の業務に携わり、データ活用や競技支援、組織運営などに関する活動を経験したうえで、その内容や成果を適切に整理・分析し、振り返ることで学習内容を深化させる。活動前や活動期間中には担当教員による指導を受け、活動後には所定の報告・発表を通じて自身の経験を言語化・構造化する。本科目における学習を通じて、スポーツアナリティクスに関連する実務を理解するとともに、現場に根ざした課題意識と探究心を育むことを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （25　久永 啓／7回） 主にスポーツアナリスト、データプロバイダ分野への実習を担当する。 （26　廣澤 聖士／7回） 主にスポーツコンサルタント、映像分析ソフトウエア開発企業への実習を担当する。	実習30時間 講義15時間 オムニバス方式
学部間共通科目		短期留学プログラムⅠ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。	
学部間共通科目		短期留学プログラムⅡ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	
学部間共通科目		短期留学プログラムⅢ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部間共通科目	短期留学プログラムⅣ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は2年次に履修する。	
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｂ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は3年次に履修する。	
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｃ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は4年次に履修する。	
学部間共通科目	グローバル・テュートリアル		グローバル化が急速に進展する時代の要請に応えていくため、学部学生（日本人学生・学部留学生）、選科生が、テューター（教員）の助言のもとで、小人数グループ討論を行う。英語または中国語を使用言語として、アクティブな討論を行うことにより、国際的に活躍するための実践的素養を身につけることを目標とする。 討論を指導する担当教員（テューター役）は、海外で実務家として働いた経験を有し、一定の要件を備えた者である。	
学部間共通科目	専門インターンシップ		本科目では、海外の特定の企業・機関で2週間のインターンシップを行う。物理的・文化的環境の異なる職場で働くために学ぶべき知識、身につけるべきスキル、海外で通用する仕事をするための姿勢（態度）を、自ら目標を設定しながら身につけることを目的とする。インターンシップ実施前に2回の事前学習を、実施後にレポートまたはプレゼンテーションを行うことにより、インターンシップで得た知識を自身の中で体系化することも目的である。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部間共通科目	グローバル総合講座		本科目では、ジェンダー、経済、社会、政治的格差をテーマとし、世界的・地域的な不平等に焦点を当てる。毎週、世界で生じる様々な問題について研究や活動を行う専門家が講義を行うことにより、グローバルとローカル双方の視点から多角的な視点から不平等を理解する。さらに、ローカルな不平等とグローバルな不平等の関連性を確認し、多様な視点から包括的に理解する。講義とディスカッションを通して、様々な不平等を批判的に学修することを目的としている。テーマに応じて最新のトピックを取り扱うことにより理解を深めるため、ゲストスピーカーを招聘する予定である。 （オムニバス形式　全14回） （92 ティン　ティン　トゥン/13回） 　グローバル・ジェンダーギャップ、ジェンダーと職場の不平等、国境を越えた移民と不平等、気候変動と不平等のテーマの他、リサーチ・プレゼンテーションの指導および授業の振り返り （46 武石　智香子、92 ティン　ティン　トゥン、/1回）（共同） 　韓国と日本の関係	オムニバス方式・共同（一部）
学部間共通科目	グローバル集中講義		投資・開発プロジェクトによる環境および社会への影響を特定のうえ、評価、最小化、緩和する方法について基本的な事項を理解することを目的とする。履修者は、地球環境保全とそれに対処するための国際戦略、環境・社会政策、欧州復興開発銀行（EBRD）等の国際機関の実践活動に触れて学習する。また、環境要因がビジネスの意思決定上にどのように影響するかについて学習する。更に、英語で環境知識を身につける実践的な方法を学ぶ。	
学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング		本科目では、演習形式にて、「グローバルアクティブラーニング」で決定したSDGsに関連するテーマについて、海外の大学に所属する学生と遠隔で毎週グループワークを行い、英語によるプレゼンテーションの準備と発表を行う。 異なる文化背景を持つ海外学生とのグループワークを重ね、相互に心を通わせる体験を重ねることを通じて、本科目のルーブリックで定義する異文化コミュニケーションのKSA力を身につけることを到達目標とする。	
学部間共通科目	グローバルアクティブラーニング		本科目は、「グローバル遠隔ラーニング」で海外の学生と充実したグループワークを行うことを前提として、英語で自分自身を表現し、地球規模課題についてコミュニケーションをとれるようになるために、SDGsの目標について学び、その中で自分が関心を持つ分野について英語で表現し、海外大学の学生の関心のあり方を理解しながら議論を行い、海外大学との共同プロジェクトのテーマを決めることを目的とする。授業は2回のプロジェクトマネジメントを行うことに加えて、海外の大学に対面形式で約1週間参加し、現地の学生との共同プロジェクトについて話し合い、内容や方法を調整する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部間共通科目	AI・データサイエンス総合		本科目では、講義形式にて、現代社会で解決が試みられている様々な課題に対して、AI・データサイエンスの手法が効果的に用いられた実践例と意義を、複数名の実務家から学ぶ。各講師1～2回目の授業では、対象とする業務や課題、およびそこで用いられている技術的な背景について解説を受ける。最後の3回目の授業では、講師と学生で、テーマにおけるAI・データサイエンスの適用について、在籍する学部で学ぶ学問的背景もふまえた、多角的な視野からの討論を行う。各授業においては最新のトピックを適宜取り扱い、ゲストスピーカーを招聘のうえ本学専任教員がサポート役を務める。本科目を通じて、実務におけるAI・データサイエンスの効果的な活用と展開について、実践的な理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （37 岡田　大士、54 樋口　知之／1回）（共同） 全体の概要と用語説明 （73 大野　航太／6回） 生成 AI（Generative AI）及びデジタルツイン（Digital Twin）の基礎と活用事例の紹介、生成AI・デジタルツインによる課題解決に関する議論、　AI・データ活用による課題解決、AI・データサイエンスの活用事例の紹介、課題解決に向けたAI・データサイエンスの導入の進め方に関する議論をゲストスピーカーを招聘して多角的に説明する。 （54　樋口　知之／3回） AI・ロボットの普及に伴う職業の変化とキャリア形成の考え方、データ活用人材の育成について、ゲストスピーカーを招聘して具体的に説明する。 （37 岡田　大士／1回） AI・データサイエンスの標準化の取り組みについて （24 中村　周史／2回） デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論、デジタルトランスフォーメーションの導入事例、デジタルトランスフォーメーションの開発と技術に関する議論を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （43　斎藤　正武／1回） 授業まとめと今後の学修について	オムニバス方式・共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅡ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをなるべく少ない操作で自動化して分析するツールが不可欠である。また、昨今はウェブサービスとして各種のAPI（Application Programming Interface）が整備されており、インターネット上のデータをAPI等を用いて自動的に収集するための環境が整っている。 本科目では、プログラミングを用いてスクリプトによるデータ分析を実現するために適しているプログラミング言語であるRubyを習得することとに加え、Rubyを用いてウェブアプリケーションを簡単に作成し得るRuby on Railsについて理解することである。到達目標は、Rubyを用いて簡単なデータ分析を自身でできるようになることと、簡単なウェブアプリケーションを構築できるようになることである。	
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅣ		AI・データサイエンスにおいて、データ分析・機械学習や可視化をウェブアプリと連動させたり、音声認識・画像認識などのタスクを行ったり、さらには深層学習や強化学習を含む人工知能を開発したりするためには、汎用的なプログラミング言語が不可欠である。また、格納されているデータベースの操作を行うにはデータベース言語が必要となる。 本科目では、汎用的プログラミング言語の中でデータサイエンスにおける中心的な役割を演じているPythonと、データベース言語SQLを学び、基本的な事項を理解することを目的とする。到達目標は、Pythonを用いて数十行程度のプログラムを読んで理解・修正できること、そして簡単なプログラムを自分で作成できること、およびSQLiteを用いてデータベースからのデータ抽出や基本的な処理を行えることとする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(1)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。受講者がどのようなことに興味を持つかでグループを作り、グループ単位でデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたる。なお、本演習で分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でもどちらでも構わない。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 コンピュータの基礎原理を理解し、データサイエンスやAIを実装するための基礎となるコンピュータ操作のスキルを身に着けることを科目の目的とし、AI・データサイエンス演習A(2)以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(2)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でのどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習A(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習B以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(1)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会のどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習Aで学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習B(2)以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(2)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会のどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習AおよびAI・データサイエンス演習B(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習C以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	

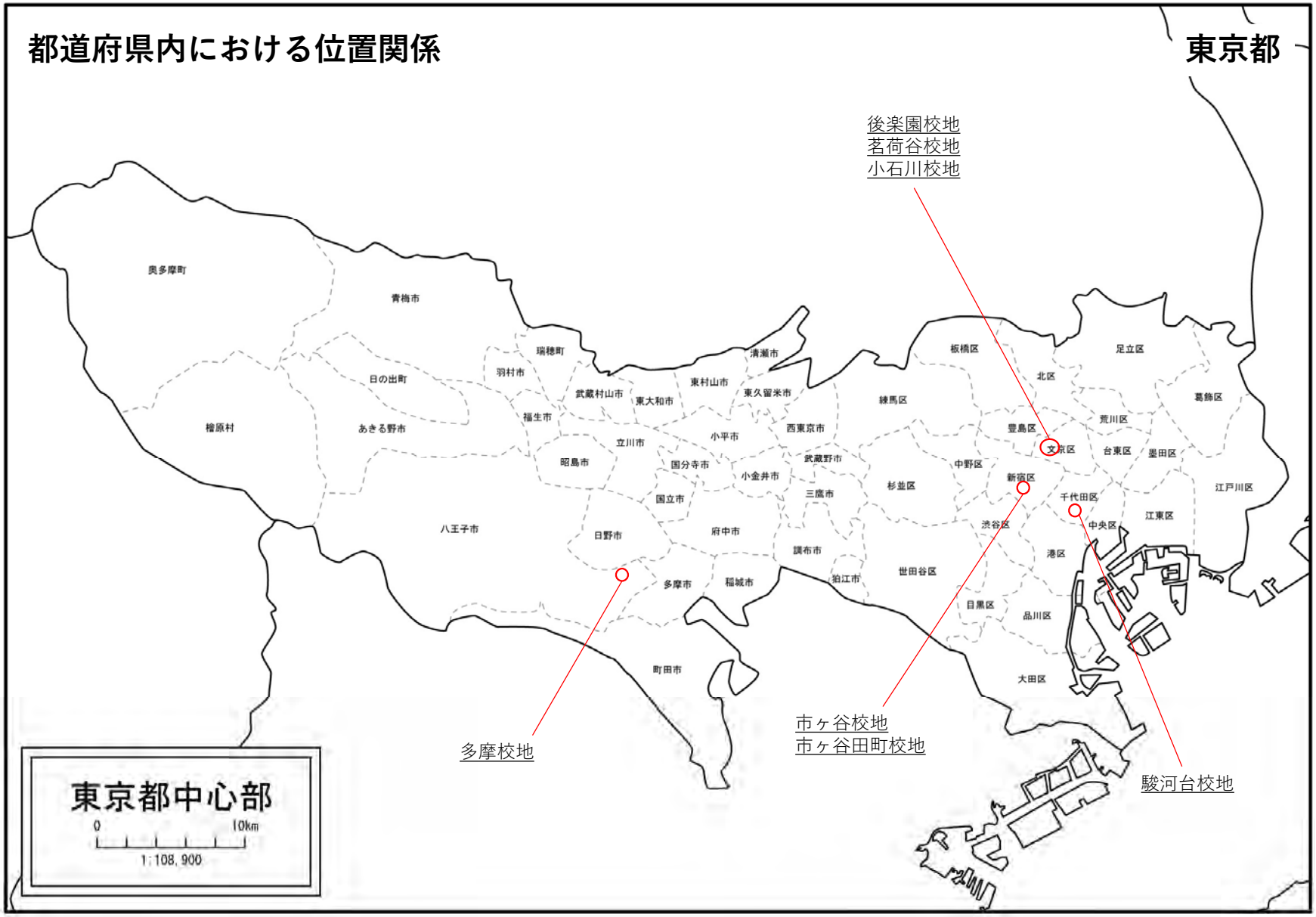
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(1)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会のどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習AおよびAI・データサイエンス演習Bで学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習A・Bで学んだスキルを踏まえてデータ分析としてまとまった成果を出すスキルの習得を目標とする。	
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(2)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でもどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習A・BおよびAI・データサイエンス演習C(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習A・BおよびC(1)で学んだスキルを踏まえてデータ分析としてまとまった成果を出すスキルの習得を目標とする。	
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（基礎編）		本科目は、大学生として学術的文章作成に必要な知識・技能・態度を基礎から学ぶことで、大学での学びの基礎となる学術的リテラシー（読み書き能力）を身につけることを目的とする。大学生として身につけておくべき学術的な基礎知識を理解し、大学での学修に必要な〈知る／読む／考える〉ことに習熟しながら〈書く〉ことを中心に学ぶ。大学で学ぶ人の心得と大学での学修について理解すること、分かりやすい文章を書くための表記、語彙・語句、文の書き方について理解すること、思考が整理された文章を書くための文章の構造と特徴について理解すること、そして科学的な文章を書くための論証と引用の方法について理解することを到達目標とする。	
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（発展編）		レポート作成や卒業論文の執筆のためには、①自分が立てた問いに対して必要な資料や文献を適切に選び、その内容を正確に理解するスキル、②そこで得た知見に基づいて自分と他者の考えを整理し、さらに思考を深め、自分の意見を確立するスキル、③その内容を他者と共有できるよう、きちんとした文章として書きあげるスキルが必要である。 本科目では、上記①～③のスキルを実践的かつ総合的に学び、大学における記述式テストやレポート作成等の場面で必須となる「書く力」を身につけることを目的とする。到達目標は、レポートや論文の執筆に必要な情報収集力を身につけると同時に、専門領域に関する知識を深めること、データや資料を用いて具体的な論拠を示し、論理的に他者に伝える能力を身につけること、自律的に文章を作成するための基礎知識を学び、自己評価のストラテジーを身につけることである。	
随意科目	学術情報の探索・活用法		本科目では、図書館の蔵書や提供しているデータベースおよび外部のウェブサイトに掲載された「学術情報」を使いながら、信頼性を備えた学術的価値のある資料へ効率よくアプローチする手法を体系的に修得し、その活用法を学ぶ。具体的には、情報リテラシーの必要性や「学術情報」についての基礎知識を学んだ上で、本学図書館が所蔵する紙媒体の蔵書や各種データベースの使い分けを覚えながら、図書・学術雑誌・レファレンスブックの検索等の実習を行う。さらに、著作権や引用、アカデミックリーディング・ライティングの一例も取り扱うことにより、関連したアカデミックスキルの向上も目指す。本科目を通じて身につけた学術情報リテラシーにより、目的に沿った有用な情報を効率よく入手し、大学における学修活動をより円滑に行えるようになることを目指す。	

学校法人中央大学　設置認可等に関わる組織の移行表

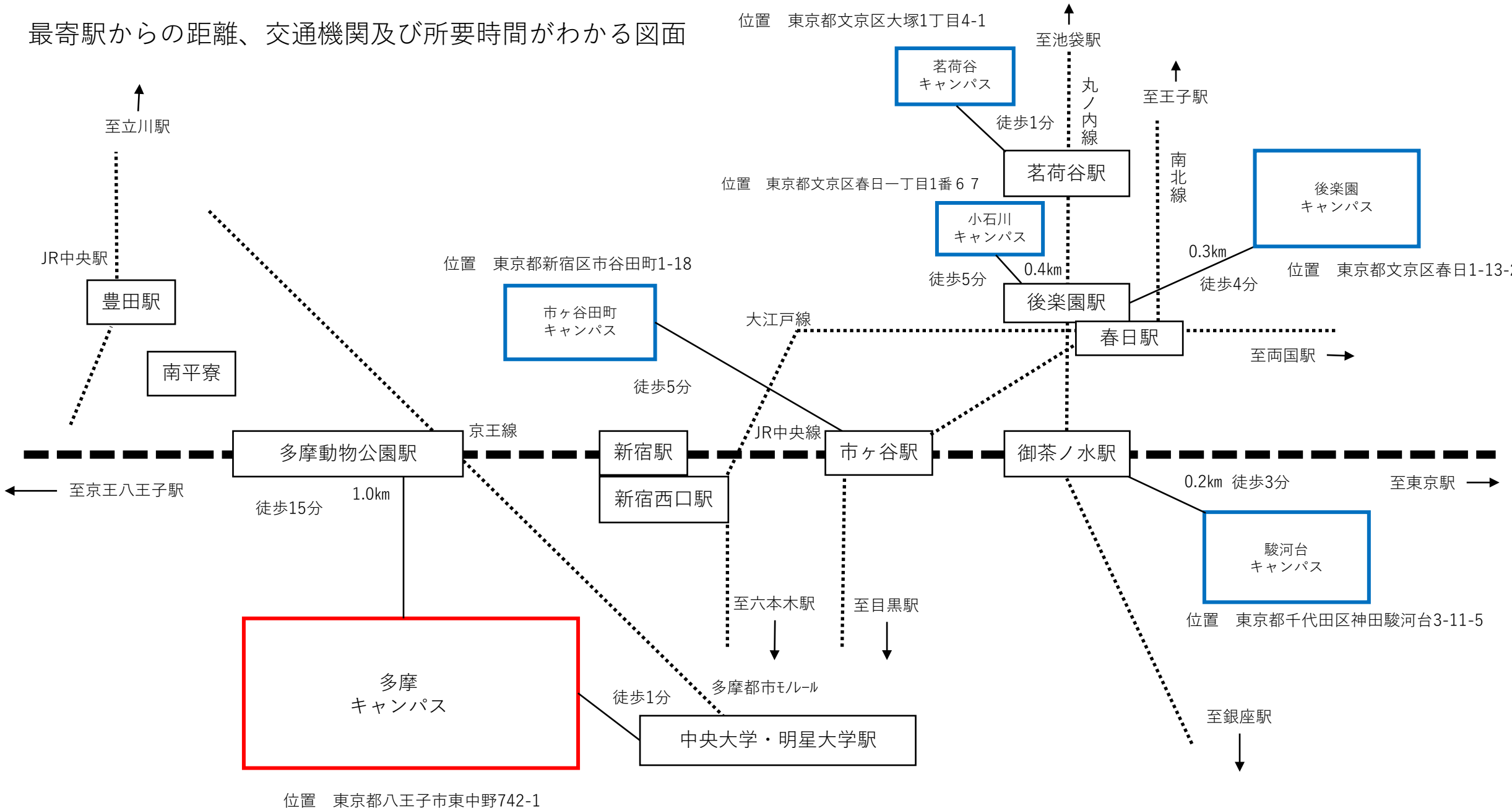
令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
中央大学				中央大学				
法学部				法学部				
法律学科	882	－	3,528	法律学科	882	－	3,528	
政治学科	389	－	1,556	政治学科	389	－	1,556	
国際企業関係法学科	168	－	672	国際企業関係法学科	168	－	672	
経済学部				経済学部				
経済学科	467	－	1,868		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
経済情報システム学科	180	－	720		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
国際経済学科	265	－	1,060		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
公共・環境経済学科	150	－	600		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
				経済学科	542	－	2,168	学部の学科の設置（届出）
				社会経済学科	520	－	2,080	学部の学科の設置（届出）
商学部				商学部				
経営学科	300	－	1,200	経営学科	300	－	1,200	
会計学科	300	－	1,200	会計学科	300	－	1,200	
国際マーケティング学科	300	－	1,200	国際マーケティング学科	300	－	1,200	
金融学科	120	－	480	金融学科	120	－	480	
基幹理工学部				基幹理工学部				
数学科	70	－	280	数学科	70	－	280	
物理学科	70	－	280	物理学科	70	－	280	
応用化学科	145	－	580	応用化学科	145	－	580	
生命科学科	75	－	300	生命科学科	75	－	300	
社会理工学部				社会理工学部				
都市環境学科	90	－	360	都市環境学科	90	－	360	
ビジネスデータサイエンス学科	115	－	460	ビジネスデータサイエンス学科	115	－	460	
人間総合理工学科	75	－	300	人間総合理工学科	75	－	300	
先進理工学部				先進理工学部				
精密機械工学科	145	－	580	精密機械工学科	145	－	580	
電気電子情報通信工学科	135	－	540	電気電子情報通信工学科	135	－	540	
情報工学科	100	－	400	情報工学科	100	－	400	
文学部				文学部				
人文社会学科	990	－	3,960	人文社会学科	990	－	3,960	
総合政策学部				総合政策学部				
政策科学科	150	－	600	政策科学科	150	－	600	
国際政策文化学科	150	－	600	国際政策文化学科	150	－	600	
国際経営学部				国際経営学部				
国際経営学科	300	－	1,200	国際経営学科	300	－	1,200	
国際情報学部				国際情報学部				
国際情報学科	150	－	600	国際情報学科	150	－	600	
				スポーツ情報学部				学部の設置（届出）
				スポーツ情報学科	295	－	1,180	
通信教育部	3,000	－	12,000	通信教育部	3,000	－	12,000	
（法学部通信教育課程）				（法学部通信教育課程）				
計	9,281	－	37,124	計	9,576	－	38,304	
中央大学大学院				中央大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
公法専攻（M）	8	－	16	公法専攻（M）	8	－	16	
民事法専攻（M）	20	－	40	民事法専攻（M）	20	－	40	
刑事法専攻（M）	10	－	20	刑事法専攻（M）	10	－	20	
国際企業関係法専攻（M）	20	－	40	国際企業関係法専攻（M）	20	－	40	
政治学専攻（M）	15	－	30	政治学専攻（M）	15	－	30	
公法専攻（D）	3	－	9	公法専攻（D）	3	－	9	
民事法専攻（D）	7	－	21	民事法専攻（D）	7	－	21	
刑事法専攻（D）	5	－	15	刑事法専攻（D）	5	－	15	
国際企業関係法専攻（D）	10	－	30	国際企業関係法専攻（D）	10	－	30	
政治学専攻（D）	3	－	9	政治学専攻（D）	3	－	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻（M）	50	－	100	経済学専攻（M）	50	－	100	
経済学専攻（D）	10	－	30	経済学専攻（D）	10	－	30	
商学研究科				商学研究科				
商学専攻（M）	25	－	50	商学専攻（M）	25	－	50	
商学専攻（D）	5	－	15	商学専攻（D）	5	－	15	
理工学研究科				理工学研究科				
数学専攻（M）	25	－	50	数学専攻（M）	25	－	50	
物理学専攻（M）	25	－	50	物理学専攻（M）	25	－	50	
都市人間環境学専攻（M）	60	－	120	都市人間環境学専攻（M）	60	－	120	
精密工学専攻（M）	52	－	104	精密工学専攻（M）	52	－	104	
電気電子情報通信工学専攻（M）	45	－	90	電気電子情報通信工学専攻（M）	45	－	90	
応用化学専攻（M）	45	－	90	応用化学専攻（M）	45	－	90	
ビジネスデータサイエンス専攻（M）	30	－	60	ビジネスデータサイエンス専攻（M）	30	－	60	
情報工学専攻（M）	40	－	80	情報工学専攻（M）	40	－	80	
生命科学専攻（M）	25	－	50	生命科学専攻（M）	25	－	50	
数学専攻（D）	3	－	9	数学専攻（D）	3	－	9	
物理学専攻（D）	3	－	9	物理学専攻（D）	3	－	9	
都市人間環境学専攻（D）	5	－	15	都市人間環境学専攻（D）	5	－	15	
精密工学専攻（D）	3	－	9	精密工学専攻（D）	3	－	9	
応用化学専攻（D）	3	－	9	応用化学専攻（D）	3	－	9	
ビジネスデータサイエンス専攻（D）	3	－	9	ビジネスデータサイエンス専攻（D）	3	－	9	
生命科学専攻（D）	2	－	6	生命科学専攻（D）	2	－	6	
電気・情報系専攻（D）	7	－	21	電気・情報系専攻（D）	7	－	21	

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(M)	10	－	20	国文学専攻(M)	10	－	20	
英文学専攻(M)	10	－	20	英文学専攻(M)	10	－	20	
独文学専攻(M)	5	－	10	独文学専攻(M)	5	－	10	
仏文学専攻(M)	5	－	10	仏文学専攻(M)	5	－	10	
中国言語文化専攻(M)	5	－	10	中国言語文化専攻(M)	5	－	10	
日本史学専攻(M)	7	－	14	日本史学専攻(M)	7	－	14	
東洋史学専攻(M)	5	－	10	東洋史学専攻(M)	5	－	10	
西洋史学専攻(M)	5	－	10	西洋史学専攻(M)	5	－	10	
哲学専攻(M)	5	－	10	哲学専攻(M)	5	－	10	
社会学専攻(M)	5	－	10	社会学専攻(M)	5	－	10	
社会情報学専攻(M)	5	－	10	社会情報学専攻(M)	5	－	10	
教育学専攻(M)	5	－	10	教育学専攻(M)	5	－	10	
心理学専攻(M)	8	－	16	心理学専攻(M)	8	－	16	
国文学専攻(D)	5	－	15	国文学専攻(D)	5	－	15	
英文学専攻(D)	5	－	15	英文学専攻(D)	5	－	15	
独文学専攻(D)	3	－	9	独文学専攻(D)	3	－	9	
仏文学専攻(D)	3	－	9	仏文学専攻(D)	3	－	9	
中国言語文化専攻(D)	3	－	9	中国言語文化専攻(D)	3	－	9	
日本史学専攻(D)	5	－	15	日本史学専攻(D)	5	－	15	
東洋史学専攻(D)	3	－	9	東洋史学専攻(D)	3	－	9	
西洋史学専攻(D)	3	－	9	西洋史学専攻(D)	3	－	9	
哲学専攻(D)	3	－	9	哲学専攻(D)	3	－	9	
社会学専攻(D)	3	－	9	社会学専攻(D)	3	－	9	
社会情報学専攻(D)	3	－	9	社会情報学専攻(D)	3	－	9	
教育学専攻(D)	3	－	9	教育学専攻(D)	3	－	9	
心理学専攻(D)	4	－	12	心理学専攻(D)	4	－	12	
総合政策研究科				総合政策研究科				
総合政策専攻(M)	40	－	80	総合政策専攻(M)	40	－	80	
総合政策専攻(D)	10	－	30	総合政策専攻(D)	10	－	30	
国際情報研究科				国際情報研究科				
国際情報専攻(M)	25		50	国際情報専攻(M)	25		50	
法務研究科				法務研究科				
法務専攻(P)	160	－	480	法務専攻(P)	160	－	480	
戦略経営研究科				戦略経営研究科				
戦略経営専攻(P)	80	－	160	戦略経営専攻(P)	80	－	160	
ビジネス科学専攻(D)	12	－	36	ビジネス科学専攻(D)	12	－	36	
計	1,020	－	2,340	計	1,020	－	2,340	

都道府県内における位置関係



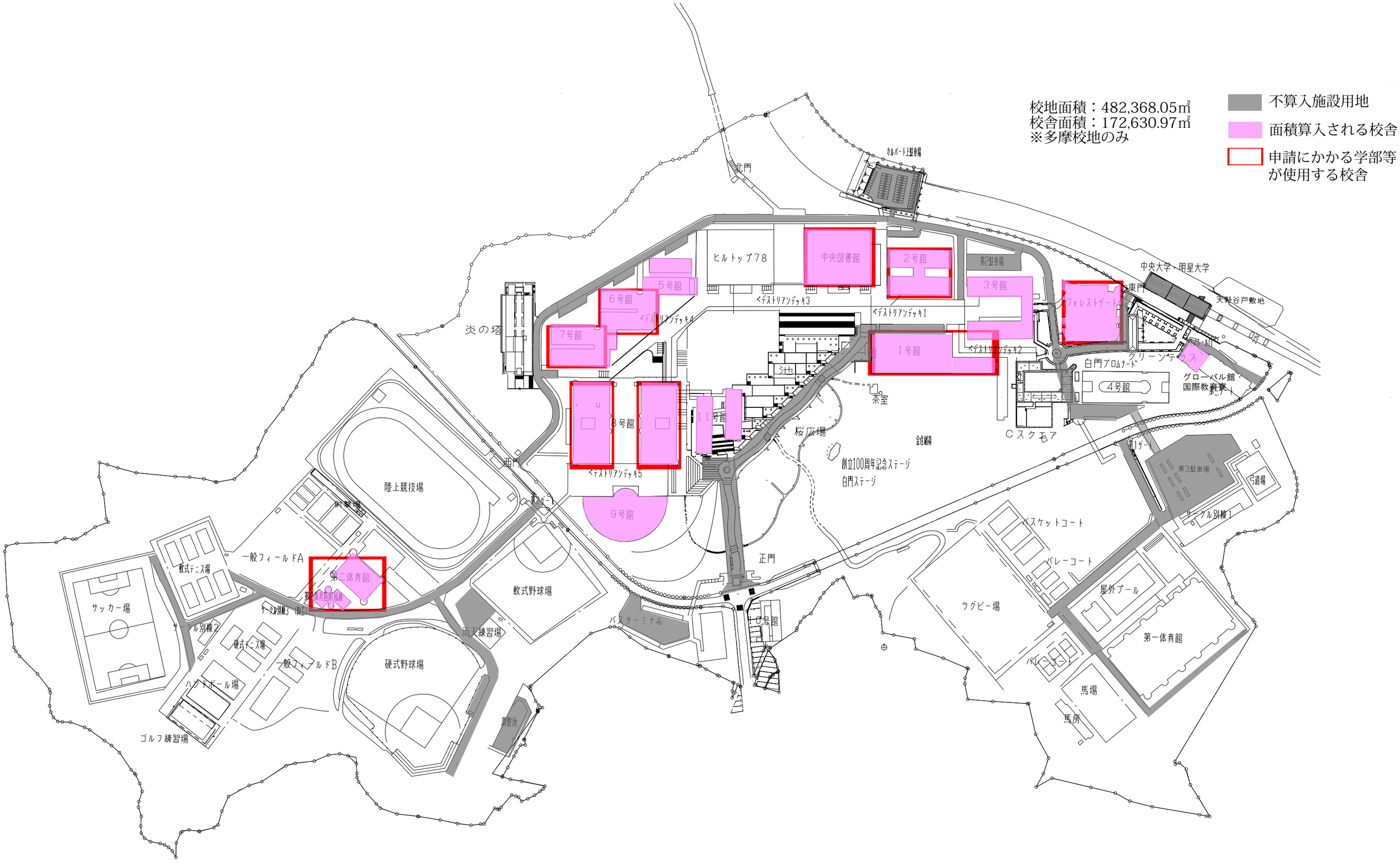
最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



校舎、運動場等の配置図

校地面積：482,368.05㎡
校舎面積：172,630.97㎡
※多摩校地のみ

不算入施設用地
面積算入される校舎
申請にかかる学部等が使用する校舎



校舎の平面図

（公開用ファイルから省略）

■スポーツ情報学部（仮称）開設のための工事_工程表（仮）

| No | トピック | 2025年（令和7年） | | | | | | | | 2026年（令和8年） | | | | | | | |

学則

中央大学学則

規程第二百九十三号

目次

第一章　総則（第一条・第二条）

第二章　本大学の組織

　第一節　教育と研究の組織（第三条―第七条）

　第二節　運営の機関及び教職員（第八条―第十六条）

　第三節　外国人研究者（第十六条の二）

第三章　修学の期間

　第一節　修業年限（第十七条）

　第二節　学年、学期及び授業日（第十八条―第二十条）

第四章　入学、留学、休学、退学及び除籍

　第一節　入学、留学等（第二十一条―第二十八条）

　第二節　休学、退学及び除籍（第二十九条―第三十一条の二）

第五章　教育課程及び履修方法（第三十二条―第三十六条の二）

第六章　試験及び成績（第三十七条―第四十一条）

第七章　卒業及び学士の学位（第四十二条―第四十五条）

第八章　奨学（第四十六条）

第九章　教員、職員及び学生の責務

　第一節　通則（第四十七条・第四十八条）

　第二節　学生の守るべき事項（第四十九条・第五十条）

第十章　賞罰（第五十一条・第五十二条）

第十一章　学費等

　第一節　入学検定料及び審査料（第五十三条・第五十四条）

　第二節　学費、科目等履修費及び聴講料（第五十五条―第五十八条の二）

　第三節　手数料（第五十九条）

　第四節　学費等の返還制限（第六十条）

第十二章　科目等履修生及び聴講生（第六十一条・第六十一条の二）

第十二章の二　外国人留学生（第六十一条の三）

第十三章　公開講座（第六十二条）

第十四章　改正（第六十三条）

第十五章　雑則（第六十四条）
附則

第一章　総則

（この学則の目的）

第一条　この学則は、大学の本旨に基づいて、学校法人中央大学の設置する中央大学（以下「本大学」という。）における教育・研究の組織及び運営について必要な基準を定めることを目的とする。

（本大学の使命）

第二条　本大学は、その伝統及び私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もつて個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。

第二章　本大学の組織

第一節　教育と研究の組織

（学部及び学科）

第三条　本大学に、次の学部を置く。

法学部
経済学部
商学部
基幹理工学部
社会理工学部
先進理工学部
文学部
総合政策学部
国際経営学部
国際情報学部
スポーツ情報学部

２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。

（学部の教育研究上の目的）

第三条の二　前条第一項に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　法学部　法学及び政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力及び問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成する。

二　経済学部　経済学及びその関連領域にかかる教育研究を行い、広く国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有し、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することのできる人材を養成する。

三　商学部　商学にかかる各専門分野及びその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成する。

四　基幹理工学部　理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、数学、自然科学（物理学・化学・生物学）、および工学の分野に関する理論と諸現象についての確実な知識と応用力を身につけ、新しい課題への果敢な挑戦力を持ち、人類共通の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。

五　社会理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成する。

六　先進理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、人・モノ・自然を結びつける仕組みを先導または協働して考案し、この世界に実現することを通じて、科学技術分野の諸課題の解決、ならびに持続的かつ包摂的な社会の構築に積極的に貢献できる人材を養成する。

七　文学部　人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。

八　総合政策学部　人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。

九　国際経営学部　経済学、経営学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急

速に変化する国際企業経営に必要となる企業経営やグローバル経済にかかる専門知識を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成する。

十　国際情報学部　情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論と社会における諸現象にかかる教育研究を行う。専門分野における高度な知識を有し、複雑さを極めてグローバルな性格を有する情報の諸問題に対する解決策を立案し、提案し、かつ実現することで公正な社会を構築しうる人材を養成し、社会に貢献する。

十一　スポーツ情報学部　データサイエンス及びビジネス領域に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と当該領域に関する汎用的能力を涵養するとともに、スポーツデータサイエンス及びスポーツビジネスの専門的学修を通じて、論理的思考力、分析力、コミュニケーション能力を備え、その専門性と優れた見識により社会課題の解決を実践できる価値創造人材を養成し、もって持続可能な社会の実現に貢献する。

（学生定員）

第四条　第三条の学部及び学科の学生定員は、別表第一に掲げるとおりとする。

（通信教育課程）

第五条　法学部に、通信教育課程を置く。

２　通信教育課程に関する特則は、別に定める。

（大学院）

第六条　本大学に、大学院を置く。

２　大学院に関する特則は、別に定める。

（附属施設）

第七条　本大学に、附属の図書館を置く。

２　本大学には、前項のほか、附属の研究所、センターその他必要な教育・研究施設を置くことができる。

３　附属施設に関する規則は、別に定める。

第二節　運営の機関及び教職員

（学長）

第八条　本大学に、学長を置く。

２　学長は、本大学の全般に関する事項をつかさどり、本大学を代表する。

（副学長）

第八条の二　本大学に、学長の職務を助けるため、副学長を置くことができる。

２　副学長に関する細目は、別に定める。

（学部長）

第九条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に学部長を置く。

２　学部長は、その学部に関する事項をつかさどり、その学部を代表する。

３　学部長の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。

４　学部長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（学部長補佐）

第九条の二　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、学部長の業務を補佐するために、学部長補佐を置くことができる。

２　学部長補佐に関する細目は、別に定める。

（学部長会議）

第十条　本大学に、各学部間の連絡協議のため、学部長会議を置く。

（教授会）

第十一条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、教授会を置く。

２　教授会は、その学部の教授、准教授及び助教をもつて組織する。この場合において、教授会を組織する助教の範囲は、当該学部が定めるところによる。

３　教授会は、その学部に関する次の事項について審議し、その意見を学長に述べるものとする。

一　学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること

二　学位の授与に関すること

三　その他その学部の教育研究に関する重要事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要と認めるものとして別に定める事項

４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について、審議し、又は、学長等の求めに応じて、学長等に意見を述べることができる。

（理工学術院）

第十一条の二　本大学に理工学術院を置き、理工学術院は、所属する教員により基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部の教育研究に係る運営を行う。

２　理工学術院に理工学術院長を置く。

３　理工学術院に、理工学術院長の業務を補佐するために、理工学術院長補佐を置くことが

できる。

4　理工学術院に教授会を置く。

5　理工学術院長の位置付け及び任期並びに理工学術院に置かれる教授会に関する組織及び審議事項、連合教授会については、第九条第二項から第四項、第九条の二第二項、第十一条第二項から第四項及び第十二条の規定を適用する。この場合において、第九条第二項から第四項中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と、「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第九条の二第二項中「学部長補佐」とあるのは「理工学術院長補佐」と、第十一条第二項中「その学部」及び「当該学部」とあるのは「理工学術院」と、第十一条第三項中「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第十一条第四項及び第十二条中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と読み替える。

6　理工学術院、理工学術院長及び理工学術院教授会に関する細目は、この学則に定めるもののほか、別に定める。

（連合教授会）

第十二条　学長、学部長又は教授会が、各学部に共通する重要事項について連絡協議する必要を認めたときは、連合教授会を開くことができる。

（共同の委員会）

第十三条　教授会が必要と認めるときは、他の教授会と共同して、共同の委員会を設けることができる。

（運営の手続き等）

第十四条　学部長会議、教授会、連合教授会及び共同の委員会に関する運営の手続きその他必要な事項については、別に定める。

（教職員）

第十五条　本大学に、専任の教授、准教授、助教、事務職員及び技術職員を置く。

2　本大学に、前項のほか、必要に応じ非常勤の教員（客員教授を含む。）及び臨時の職員を置く。

（名誉教授）

第十六条　本大学は、別に定める細則により、教員であつた者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。

第三節　外国人研究者

（外国人研究者）

第十六条の二　本大学に、外国人研究者を置くことができる。

２　外国人研究者の受入れについては、別に定める。

第三章　修学の期間

第一節　修業年限

（修業年限）

第十七条　学部の修業年限は、四年とする。ただし、第四十三条第二項の規定により卒業を認められた者については、この限りでない。

２　卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数は、通算して八年を限度とする。

３　在学できる年数の計算においては、第十九条に定める学期を〇・五年として計算する。

４　再入学及び編入学をした者の在学できる年数については、別に定める。

５　第二項の規定は、留学した者にも適用する。

第二節　学年、学期及び授業日

（学年）

第十八条　学年は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。ただし、後期の始めに入学した場合の学年は、九月二十一日に始まり、翌年の九月二十日に終わるものとする。

（学期）

第十九条　学年は、二期に分け、次の各号のとおりとする。

一　前期　四月一日から九月二十日まで

二　後期　九月二十一日から翌年三月三十一日まで

（休業日）

第二十条　授業を行わない日（以下「休業日」という。）は、次のとおりとする。ただし、必要があるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業することがある。

一　日曜日

二　国民の祝日に関する法律に定める休日

三　本大学の創立記念日　七月八日

四　夏季休業　七月二十一日から九月二十日まで

五　冬季休業　十二月二十五日から翌年一月七日まで

六　春季休業　翌年二月十五日から三月三十一日まで

２　休業日の変更又は臨時の休業日については、そのつど公示する。

第四章　入学、留学、休学、退学及び除籍

第一節　入学、留学等

（入学の時期）

第二十一条　入学の時期は、四月一日とする。ただし、教授会の議を経て学長が決定した場合は、入学の時期を後期の学期の始めとすることができる。

（入学の資格）

第二十二条　学部の第一年次に入学する者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

一　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

二　通常の課程による十二年の学校教育を修了した者

三　外国において学校教育における十二年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五　専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六　文部科学大臣の指定した者

七　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定に合格した者を含む。）

八　学校教育法第九十条第二項の規定により他の大学に入学した者であつて、本大学における教育を受けるにふさわしい学力があると本大学が認めたもの

九　本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、十八歳に達したもの

（入学の志願）

第二十三条　入学を志願する者は、入学願書その他の出願書類に入学検定料を添えて願い出て、かつ、入学試験又はこれに代わる選考（以下「入学の選考」という。）を受けなければならない。

（入学の手続き）

第二十四条　入学の選考に合格した者は、入学の手続きをすることができる。

２　入学の手続きをする者は、別に定める入学手続要項により、保証人連署の誓約書その他必要な入学書類に学費を添えて、手続きをしなければならない。

（保証人）

第二十五条　保証人は、父、母又はその他の成年者で独立の生計を営む者でなければならない。

２　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

３　学生は、保証人の変更又はその氏名若しくは居住地に変更があつたときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第二十六条　入学（編入学を含む。）の手続を終えた者（以下「新入生」という。）には、学生証を交付する。

（編入学及び転部科）

第二十七条　第二十二条から第二十四条までの規定にかかわらず、編入学及び転部科の資格、志願及び手続については、別に定める。

（他の大学における授業科目の履修）

第二十七条の二　本大学は、教育上有益と認めるときは、別に定める細則により、学生が他の大学の授業科目を履修することを許可することができる。

（留学）

第二十七条の三　前条の規定は、学生が外国の大学へ留学する場合に準用する。

（二重学籍の禁止）

第二十八条　本大学の学部・学科には、他大学又は本大学のその他の学部・学科と併せて在学することはできない。

第二節　休学、退学及び除籍

（休学）

第二十九条　傷病、海外留学その他やむを得ない事由によつて、学期のうち二カ月以上修学することができない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、休学の許可を受けて、休学することができる。

２　休学の期間は、休学の許可を受けた日から、その学期の終了日までとし、休学の期間が終了した翌日に復学するものとする。

３　前項の期間中に休学の事由が消滅しない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、許可を受けて引き続き休学することができる。

４　休学の許可を受けた日にかかわらず、休学の期間は学期ごとに〇・五年として計算し、通算して四年を超えることはできない。

５　休学の期間は、第十七条第一項に定める修業年限には算入しない。

６　休学の期間は、第十七条第二項に定める在学できる年数に算入する。

７　休学の期間については、学費を減免することができる。

（退学）

第三十条　病気その他の事由によつて退学しようとする者は、保証人と連署の退学届に学生証を添えて、退学の手続きをしなければならない。

（除籍）

第三十一条　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

一　新入生で、指定された期限までに履修届を提出しない者、その他本大学において修学する意志がないと認められる者

二　第五十六条第二項に定める期限までに、学費を完納しない者

三　在学できる年数を超える者

四　退学の決定をされた者

（再入学）

第三十一条の二　前条の規定（第三号の規定を除く。）により除籍された者が、再入学を希望するときは、その理由を附して、保証人と連署の再入学願を提出し、再入学の許可を受けることができる。

２　第五十二条の規定により退学の処分を受けた者の再入学については、特に反省が顕著であると認められたときでなければ許可しない。

第五章　教育課程及び履修方法

（授業）

第三十二条　本大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第二に掲げるとおりとする。

２　前項後段のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。

３　前項の授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第二の二、第二の三、第二の四及び第二の五に掲げるとおりとする。

（メディアを利用して行う授業科目）

第三十二条の二　前条に規定する授業については、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

２　多様なメディアを高度に利用して行う授業科目及び履修方法等は、各教授会が別に定め

る。

（単位の計算方法及び授業期間）

第三十三条　各授業科目の単位は、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、次の基準並びに授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して計算する。

一　講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

二　実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

三　講義、演習、実験、実習又は実技のいずれかの授業科目について、二以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前二号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

３　各授業科目の授業は、十四週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（履修の手続き）

第三十四条　学生は、その学年に履修しようとする授業科目について、指定された期限までに履修届を提出のうえ、履修しなければならない。

（単位の授与）

第三十五条　授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試験」という。）に合格した者には、所定の単位を与える。

（他の大学において修得した単位）

第三十五条の二　第二十七条の二の規定により履修した授業科目について修得した単位は、六十単位を超えない範囲で各教授会が定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

（外国の大学において修得した単位）

第三十五条の三　前条の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

（入学前に修得した単位）

第三十五条の四　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学の一年次に入学する前に第六十一条に規定する本大学の科目等履修生として修得した単位を、本大学入学後に本大学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本大学は、教育上有益と認めるときは、本大学に編入学した者が、本大学に入学する前に本大学、他大学、短期大学その他の中央大学学則施行規則（以下、「施行規則」という。）第三条に定める学校等において修得した単位を本大学において修得したものとみなすことができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第三十五条の五　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、各教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、第三十五条の二及び第三十五条の三により本大学において修得したものとみなす単位数並びに施行規則第十五条第一項により修得した単位と合わせて六十単位を超えないものとする。

（メディアを利用して行う授業で修得した単位）

第三十五条の六　第三十二条の二に規定する授業の方法により修得した単位については、第四十三条第一項第二号に規定する卒業に必要な単位のうち、六十単位を超えないものとする。

（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法）

第三十六条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。

２　前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第三に掲げるとおりとする。

（学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭資格を取得しようとする者の履修方法）

第三十六条の二　学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、それぞれの資格取得のために必要な授業科目を履修しなければならない。ただし、司書教諭の資格を取得しようとする者は、現に教育職員免許状を取得するために必要な授業科目を履修している者でなければならない。

第六章　試験及び成績

（試験の方法）

第三十七条　試験は、筆記又は口述によるものとする。ただし、論文の提出その他の方法に

よることができる。

（試験の時期）

第三十八条　試験は、学年末又は学期末において行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期においても行うことができる。

（受験の条件）

第三十九条　試験は、履修した授業科目でなければ、受けることができない。

２　学費及び必要な手数料を納入しない者は、試験を受けることができない。

３　休学又は停学の期間中は、試験を受けることができない。

（成績の表示）

第四十条　試験の成績は、S、A、B、C及びEで示し、S、A、B及びCを合格とし、Eを不合格とする。

（成績の通知）

第四十一条　前条の成績は、学生に通知する。

第七章　卒業及び学士の学位

（卒業に必要な単位）

第四十二条　各学部の卒業に必要な単位は、別表第二に掲げるとおりとする。

（卒業の要件）

第四十三条　卒業の要件は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、休学の期間中は卒業できない。

一　四年以上在学すること

二　卒業に必要な単位を修得していること

２　各教授会の定めるところにより、学部の学生として三年以上在学した者が、前項第二号に定める卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項第一号の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

（卒業の時期）

第四十三条の二　卒業の時期は、学年末とする。ただし、教授会の議を経て学長が決定した場合は、卒業の時期を他の時期とすることができる。

（学士の学位）

第四十四条　卒業の要件を備えた者には、学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

（専攻分野の名称）

第四十五条　学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従つて、別表第三の二に掲げるとおりとする。

第八章　奨学

（奨学）

第四十六条　能力があるにもかかわらず経済的理由によつて修学が困難な者及び特に学力が優れている者には、奨学の方法を講ずることができる。

２　奨学の方法は、奨学金の貸与及び給付とする。

３　奨学の方法に関する規程は、別に定める。

第九章　教員、職員及び学生の責務

第一節　通則

（相互の尊重と協力）

第四十七条　教員、職員及び学生（科目等履修生及び聴講生を含む。以下同じ。）は、個人の尊厳を重んじ、学問の自由を尊重し、それぞれの職責・地位に即しつつ、相互の信頼と協力によつて、本大学の使命を達成するように努めなければならない。

（環境の保持）

第四十八条　教員、職員及び学生は、本大学の使命にかんがみ、教育と研究にふさわしい環境が保持されるよう自ら努めるとともに、本大学の正常な運営に協力しなければならない。

第二節　学生の守るべき事項

（学生の守るべき事項）

第四十九条　学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

一　登校するときは、必ず学生証（科目等履修生証及び聴講生証を含む。）を携帯し、教職員から学生証の提示を求められた場合には、これを提示すること。

二　教育・研究に支障を及ぼし、又は他の者の個人の尊厳若しくは人格を侵害するような言動をしないこと。

三　その他学生としての本分に反しないこと。

（変更届）

第五十条　学生は、その氏名、居住地又は本籍に変更があつたときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

第十章　賞罰

（表彰）

第五十一条　学生として表彰に価する行為があつたときは、表彰することができる。

（懲戒）

第五十二条　学則に違反し、その他不都合な行為のあつた学生に対しては、行為の軽重と教育上の必要を考慮して、訓告、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対してでなければ行うことができない。

一　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

二　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

三　正当の理由がなくて出席の常でない者

四　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

２　前項に定める訓告、停学又は退学の処分は、学長が別に定めるところにより行うものとする。

第十一章　学費等

第一節　入学検定料及び審査料

（入学検定料）

第五十三条　入学（再入学及び編入学を含む。）又は転部科を志願する者は、別表第四に掲げる入学検定料を納めなければならない。ただし、推薦入学の選考において、二段階選考を実施する場合は、別表第四の二に掲げる入学検定料を納めなければならない。

２　前項本文の規定にかかわらず、本大学は、特別の理由がある場合に、別に定めるところにより入学検定料を減額することがある。

（審査料）

第五十四条　第六十一条に規定する科目等履修生又は第六十一条の二に規定する聴講生となることを願い出る者は、別表第四の三に掲げる審査料を納めなければならない。ただし、第六十一条第五項に規定する履修期間又は第六十一条の二第四項に規定する聴講期間を超えて継続して履修又は聴講を願い出る者については、審査料を免除する。

２　前項の規定にかかわらず、同一年度に第六十一条又は第六十一条の二に基づき二つ以上の学部に履修又は聴講を願い出る者の審査料は、重複して納入することを要しない。

第二節　学費、科目等履修費及び聴講料

（学費）

第五十五条　学費は次のとおりとし、納入額は別表第五、別表第六及び別表第七に掲げるとおりとする。

一　入学金

二　授業料

三　実験実習料

四　教育充実費

五　施設設備費

六　教職履修料

七　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

２　学費の減免措置については、別に定める。

（納期）

第五十六条　前条第一項に規定する学費は、毎学年、次に掲げる区分に従い、当該各号に定める期日までに全納しなければならない。ただし、授業料、実験実習料又は教育充実費及び施設設備費についてやむを得ない事由により全納できないときは、前期と後期の二期に分納することができる。

一　四月一日に入学した者　六月三十日

二　九月二十一日に入学した者　一月十四日

２　前項ただし書に定める分納の期限は次の各号のとおりとする。

一　四月一日に入学した者

前期　六月三十日

後期　一月十四日

二　九月二十一日に入学した者

後期　一月十四日

前期　六月三十日

３　前項各号に定める期日までにやむを得ない事由により学費を納入することができない場合は、保証人と連署の延納願を提出して許可を受け、次に掲げる期日までに学費を納入した場合に限り、前項各号の期限までに学費が納入されたものとみなす。

一　前期　七月十四日

二　後期　一月二十八日

（特殊学費）

第五十七条　再入学その他特殊な場合の学費については、別に定める。

（科目等履修費）

第五十八条　第六十一条に規定する科目等履修生の科目等履修費は次のとおりとし、納入額は別に定める。

一　登録料

二　科目履修料

三　教職履修料

四　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

（聴講料）

第五十八条の二　第六十一条の二に規定する聴講生の聴講料の納入額は、別に定める。

第三節　手数料

（手数料）

第五十九条　手数料の種類及び納入額については、別に定める。

第四節　学費等の返還制限

（学費等の返還制限）

第六十条　納入した学費等は、返還しない。

第十二章　科目等履修生及び聴講生

（科目等履修生）

第六十一条　各教授会（中央大学教育職員の養成に関する運営委員会（以下「教職運営委員会」という。）を含む。）は、本大学の学部学生以外の者が単位の修得を目的として、別表第四の三に掲げる審査料を添えて特定の授業科目の履修を願い出た場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。

２　前項により履修を願い出ることができる者は、第二十二条に定める入学の資格を有する者でなければならない。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りでない。

３　前項の規定にかかわらず、教育職員の免許並びに学芸員、社会教育主事、司書及び司書教諭の資格を取得するために必要な授業科目の単位の修得を目的として履修を願い出ることができる者は、学士の学位（大学院に在学する者を含む。）を有する者であつて、教職運営委員会又は文学部教授会がそれぞれ定める要件を満たす者でなければならない。

４　履修を許可された者は、所定の期日までに、別に定める科目等履修費を納入し、履修の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、科目等履修生証を交付する。

５　科目等履修生として、授業科目を履修できる期間は、六カ月又は一年とする。

６　科目等履修生が各学部において一学年度に履修できる単位は、三十単位を超えない範囲で当該教授会において定める。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限は、必要に応じて教職運営委員会又は文学部教授会におい

て定めるものとする。

7　前項本文の規定にかかわらず、科目等履修生が二学部以上の授業科目を履修する場合において、一学年度に履修できる単位は、各学部を通算して三十単位を超えることはできない。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限については、この限りでない。

8　科目等履修生が、授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試験」という。）に合格したときには、所定の単位を与える。当該試験の成績は、科目等履修生に通知する。

9　科目等履修生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

（聴講生）

第六十一条の二　各教授会は、別表第四の三に定める審査料を添えて、特定の授業科目について聴講を願い出た者がいる場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、聴講生として当該授業科目の聴講を許可することができる。

2　聴講を願い出る者の資格は、各教授会が定める。

3　聴講を許可された者は、所定の期日までに、別に定める聴講料を納入し、聴講の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、聴講生証を交付する。

4　聴講生として、授業科目を聴講できる期間は、六カ月又は一年とする。

5　聴講生が聴講した授業科目について試験を受けたときは、請求により成績証明書を交付する。ただし、授業科目の単位は与えない。

6　聴講生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

第十二章の二　外国人留学生

（外国人留学生）

第六十一条の三　外国人留学生の受入れについては、別に定める。

2　外国人留学生で、外国の大学を卒業した者又はこれに準ずる者は、第三年次に編入学を認めることができる。

3　外国人留学生については、学修の必要に応じて別表第二に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて特別の科目を置くことができる。

4　前項に定める特別の科目として日本語科目を置く。

5　日本語科目の名称、単位数及び履修の基本方法は、別表第二の六に掲げるとおりとする。

第十三章　公開講座

（公開講座）

第六十二条　本大学は、正規の授業のほか、適時、公開講座を開設する。

第十四章　改正

（改正）

第六十三条　この学則の改正は、教授会の議を経なければならない。

第十五章　雑則

（施行の細目）

第六十四条　この学則に特別の定めがあるものを除くほか、この学則の実施の手続きその他この執行について必要な細目は、別に定める。

附　則

（　省　略　）

附　則（規程番号第三千二百五十号）

（施行期日）

1　この学則は、令和九年四月一日から施行する。

（経過措置）

2　改正後のこの学則は、令和九年度以降の入学生から適用し、令和八年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　この学則施行後、最初に就任するスポーツ情報学部長の任期は、第九条第三項の規定にかかわらず、令和九年十月三十一日までとする。

附　則（規程番号第三千二百五十五号）

（施行期日）

1　この学則は、令和九年四月一日から施行する。

（経過措置）

2　この学則による改正後の別表第六にかかわらず、令和六年度以前の入学生の学費は、次のとおりとする。

（第五十五条関係）（学費）

（単位・円）

学部	費目／年度	授　業　料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇

	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
経済学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
商学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
理工学部	令和九年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十一年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十二年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十三年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
文学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
総合政策学部	令和九年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十一年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十二年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十三年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
国際	令和九年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇

経営学部	令和十年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十一年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十二年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十三年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
国際情報学部	令和九年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十一年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十二年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十三年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇

（文学部人文社会学科心理学専攻に係る教育充実費の経過措置）

3　改正後の別表第六の文学部の教育充実費は、令和八年度以前の入学生には適用しない。

（中央大学学則の一部を改正する学則の一部改正）

4　中央大学学則の一部を改正する学則（規程第三千百二十二号）の一部を次のように改正する。

附則中第二項及び表を削り、第三項を第二項とする。

改正　令和三・一〇・一五（規程第二千九百三十号）　令和五・一・一六（規程第三千十九号）

以上

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	467	1,868
	経済情報システム学科	180	720
	国際経済学科	265	1,060
	公共・環境経済学科	150	600
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
スポーツ情報学部	スポーツ情報学科	295	1,180
	計	295	1,180
総計		6,576	26,304

別表第二（第三十二条第二項関係）

（法学部、経済学部、商学部、基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、文学部、総合政策学部、国際経営学部、国際情報学部　省略）

スポーツ情報学部スポーツ情報学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語科目	
English Ⅰ	1
English Ⅱ	1
検定英語講座	1
検定英語初級	1
検定英語中級	1
検定英語上級	2
総合教育科目	
法学	2
人間工学	2
美学	2
美術史概論	2
色彩学	2
プロダクトデザイン	2
建築・デザイン概論	2
音楽と文化	2
環境工学	2
総合講座	2
ヒューマンウエルネス論	2
スポーツリスクマネジメント論	2
スポーツ心理学	2
救急救命システム論	2
生体システム論	2
スポーツ実技１	1
スポーツ実技２	1
スポーツ実技３	1
専門基礎科目	
数理基礎	
スポーツと数学	2
微分積分Ⅰ	2
微分積分演習	1

力学	2
線形代数Ⅰ	2
線形代数演習	1
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅱ	2
情報基礎	
デジタルコミュニケーションⅠ	2
デジタルコミュニケーションⅡ	2
デジタルデザイン	2
アルゴリズムとプログラミングⅠ	2
プロジェクトマネジメント	2
アルゴリズムとプログラミングⅡ	2
データサイエンス基礎	
スポーツデータ測定入門	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
スポーツと統計学	2
データサイエンス基礎技術Ⅰ	2
確率統計	2
データサイエンス基礎技術Ⅱ	2
社会調査法	2
AI・データサイエンス応用基礎	2
経営学基礎	
経営学	2
マーケティング論Ⅰ	2
財務会計論	2
マーケティング論Ⅱ	2
経営戦略論	2
デザインシンキング	2
ファイナンス	2
管理会計論	2
経営組織論	2
経済学基礎	
ミクロ経済学	2
マクロ経済学	2
公共政策論	2
政策評価論	2
地域社会産業論	2
地域産業連関分析	2
専門展開科目	

統計・数理モデリング	
多変量解析Ⅰ	2
多変量解析Ⅱ	2
線形モデル	2
オペレーションズ・リサーチ	2
最適化	2
質的データ解析	2
時系列解析	2
AI・情報技術	
データベース	2
スポーツとXR技術	2
機械学習Ⅰ	2
データ構造とアルゴリズム	2
機械学習Ⅱ	2
画像処理とAI動作解析	2
AIと身体性認知科学	2
データサイエンス特講	2
コンピュータシミュレーション	2
自然言語処理と生成AI	2
スポーツデータサイエンス	
スポーツ情報戦略・戦術論	2
スポーツテックとデータ活用	2
スポーツ映像分析論	2
モーションデータ解析	2
スポーツと計量社会学	2
データに基づくコンディショニング	2
データに基づくコーチング	2
ビジネスデータサイエンス	
ビジネスデータサイエンス	2
デジタル・マーケティング	2
ビジネスデータマイニング	2
計量経済学と因果推論	2
スポーツビジネス	
スポーツビジネス論	2
スポーツ倫理学	2
スポーツマーケティング	2
スポーツ経済学	2
スポーツ文化論	2
スポーツマネジメント	2

スポーツファイナンス	2
スポーツ産業論	2
スポーツスポンサーシップ論	2
サービスイノベーション論	2
スポーツ政策論	2
生涯スポーツ論	2
スポーツツーリズム	2
ｅスポーツビジネス論	2
グローバル・スポーツビジネス論	2
スポーツメディア論	2
スポーツファシリティマネジメント	2
スポーツビジネス特講	2
卒業論文	
卒業論文	2
演習・実習・実践科目	
演習	
基礎演習	2
専門演習A１	2
専門演習A２	2
専門演習B１	2
専門演習B２	2
スポーツビジネス実践	
スポーツ統括団体（リーグ・協会）経営論	2
Jリーグビジネス論Ⅰ	2
スポーツ代理人・マネジメント論	2
Jリーグビジネス論Ⅱ	2
スポーツアナリティクス実践論	2
スポーツツーリズム実践論	2
スポーツビジネス・プロジェクトⅠ	2
スポーツビジネス・プロジェクトⅡ	2
イベントプロデュース演習	2
イベントマネジメント演習	2
イベントプロデュース実習	2
イベントマネジメント実習	2
グローバル・スポーツビジネス・キャリア実習	2
スポーツアナリティクス実習	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4

短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(１)	2
AI・データサイエンス演習A(２)	2
AI・データサイエンス演習B(１)	2
AI・データサイエンス演習B(２)	2
AI・データサイエンス演習C(１)	2
AI・データサイエンス演習C(２)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
随意科目	
学術情報の探索・活用法	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130単位とする。
イ　外国語科目及び総合教育科目については、以下のとおりとする。
（１）　合計14単位を必修とする。
（２）　外国語科目について、「EnglishⅠ」、「EnglishⅡ」を含む３単位を必修とする。
（３）　総合教育科目のうち、「法学」から「総合講座」までの授業科目の中から４単位、「ヒューマンウエルネス論」から「生体システム論」までの授業科目の中から４単位、「スポーツ実技１」から「スポーツ実技３」までの授業科目の中から１単位を必修とする。
（４）　外国人留学生について、外国語科目の履修方法は別表第二の六による。
ウ　専門基礎科目について、「スポーツと数学」から「微分積分演習」までの授業科目、「線形代数Ⅰ」、「線形代数演習」、「デジタルコミュニケーションⅠ」、「アルゴリズムとプログラミングⅠ」、「スポーツデータ測定入門」から「データサイエンス基礎技術Ⅰ」までの授業科目、「AI・データサイエンス基礎技術Ⅱ」、「AI・データサイエンス応用基礎」、「経営学」から「経営戦略論」までの授業科目、「ミクロ経済学」を必修とする。
エ　専門展開科目について、「多変量解析Ⅰ」、「多変量解析Ⅱ」、「スポーツテックとデータ活用」、「ビジネスデータサイエンス」、「スポーツビジネス論」、「スポーツマーケティング」を必修とする。
オ　演習・実習・実践科目について、演習に置かれるすべての授業科目を必修とする。
カ　随意科目は卒業に必要な単位数に含めない。
キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

教職基幹科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
教育の理念と歴史	2
教職の基礎	2
教育と社会・制度	2
発達と学習の心理	2
特別支援教育の基礎	2
道徳教育の理論と方法	2
教育課程と総合的な学習の時間	2
生徒指導と特別活動	2
教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む）	2
教育相談と進路指導	2
教育実習Ⅰ（事前・事後指導の１単位を含む。）	3
教育実習Ⅱ	2
教職実践演習	2
学校インターンシップ１	1

学校インターンシップ２	1

二　履修方法

ア　「教育の理念と歴史」から「特別支援教育の基礎」まで、「教育課程と総合的な学習の時間」から「教育実習Ⅰ（事前・事後指導の１単位を含む。）」まで、「教職実践演習」を各教科必修とする。

イ　「道徳教育の理論と方法」、「教育実習Ⅱ」は、免許状相当教科必修とする（中一種免）。

ウ　「学校インターンシップ１」、「学校インターンシップ２」は各教科選択とする。

別表第二の二（第三十二条第四項関係）

学芸員資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	2
社会教育概論（２）	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館実習	3
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論	2
古文書学（１）	2
古文書学（２）	2
古文書学（３）	2
美術史概論A	2
美術史概論B	2
古文書学演習（１）	2
古文書学演習（２）	2
古文書学演習（３）	2
考古学実習	2
美術史美術館入門演習（１）	4
美術史美術館入門演習（２）	4
考古学A	2
考古学B	2
記録史料学A	2
記録史料学B	2
日本文化史A	2
日本文化史B	2
東洋美術史A	2
東洋美術史B	2
東洋考古学A	2
東洋考古学B	2
日本美術史（近世以前）	2
日本美術史（近現代）	2
西洋美術史（近代以前）	2
西洋美術史（近現代）	2

民俗学（学史・理論）	2
民俗学（記録・分析）	2

二　履修方法

（1）　「博物館概論」から「博物館教育論」までを必修とする。

（2）　「社会教育概論(1)」、「社会教育概論(2)」までの授業科目の中から２単位、「古文書学(1)」から「美術史概論B」までの授業科目の中から２単位、「古文書学演習(1)」から「美術史美術館入門演習（2）」までの授業科目の中から２単位、「考古学A」から「民俗学（記録・分析）」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

別表第二の三（第三十二条第四項関係）

社会教育主事資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	２
社会教育概論（２）	２
生涯学習経営論（１）	２
生涯学習経営論（２）	２
生涯学習支援論（１）	２
生涯学習支援論（２）	２
社会教育演習（１）	２
社会教育演習（２）	２
社会教育実習	１
社会教育特講（１）	２
社会教育特講（２）	２
社会教育特講（３）	２
社会教育特講（４）	２
キャリア教育論	２
生涯教育論	２
生涯発達心理学	２
健康教育学	２
図書館サービス概論	２
博物館教育論	２

二　履修方法

（１）　「社会教育概論（１）」から「社会教育実習」までを必修とする。

（２）　「社会教育特講（１）」から「博物館教育論」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

別表第二の四（第三十二条第四項関係）

司書資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	２
社会教育概論（２）	２
図書館情報学概論	２
図書館情報技術論	２
図書館・情報センター経営論	２
図書館サービス概論	２
情報サービス論	２
児童サービス論	２
情報サービス演習（１）	２
情報サービス演習（２）	２
図書館情報資源概論	２
情報資源組織論	２
情報資源組織演習（１）	２
情報資源組織演習（２）	２
専門資料論	２
学校図書館サービス論	２
アーカイブ論	２
図書・図書館史	２
図書館情報学実習	２

二　履修方法

（１）　「社会教育概論（１）」、「社会教育概論（２）」、「図書館情報学概論」から「情報資源組織演習（２）」までを必修とする。

（２）　「専門資料論」から「図書館情報学実習」までの授業科目の中から４単位を必修とする。

別表第二の五（第三十二条第四項関係）

司書教諭資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
学校図書館論	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

二　履修方法

「学校図書館論」から「情報メディアの活用」までを必修とする。

別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）

外国人留学生に関する特別科目（日本語科目）

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
日本語ＡⅠ（１）	1
日本語ＡⅡ（１）	1
日本語ＡⅢ（１）	1
日本語ＡⅣ（１）	1
日本語ＡⅠ（２）	1
日本語ＡⅡ（２）	1
日本語ＡⅢ（２）	1
日本語ＡⅣ（２）	1
日本語ＡⅠ（３）	1
日本語ＡⅡ（３）	1
日本語ＡⅢ（３）	1
日本語ＡⅣ（３）	1
日本語ＡⅠ（４）	1
日本語ＡⅡ（４）	1
日本語ＡⅢ（４）	1
日本語ＡⅣ（４）	1
日本語ＢⅠ（１）	1
日本語ＢⅡ（１）	1
日本語ＢⅠ（２）	1
日本語ＢⅡ（２）	1
日本語ＢⅠ（３）	1
日本語ＢⅡ（３）	1
日本語ＢⅠ（４）	1
日本語ＢⅡ（４）	1
日本語（読解）１ａ	1
日本語（読解）１ｂ	1
日本語（表現）１ａ	1
日本語（表現）１ｂ	1
日本語（読解）２ａ	1
日本語（読解）２ｂ	1
日本語（表現）２ａ	1
日本語（表現）２ｂ	1

二　履修方法

ア　日本語Ａのみを履修する日本語Ａコース（16単位必修）、日本語Ｂのみを履修する日本語Ｂコース（８単位必修）及び開講されている日本語科目から４単位を履修する日本語Ｃコース（４単位必修）を置き、いずれの方法で履修するかは、各学部が各人について指定する。

イ　修得した日本語の単位は、各学部の定めるところにより別表第二に掲げる外国語科目の卒業に必要な単位に代えることができる。

ウ　日本語Ａコース、日本語Ｂコース及び日本語Ｃコースのいずれかのコースを履修した者で、日本語の修得単位で外国語科目の卒業に必要な単位を充足しない者は、別表第二に掲げる外国語科目（本人が国籍を有する国の公用語を除く。）を履修しなければならない。当該外国語の履修の範囲及びその履修の方法については、各学部の定めるところによる。

エ　「日本語（読解）１a」から「日本語（表現）２b」までの授業科目は基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部に設置し、当該３学部に在学する外国人留学生に限り履修することができる。また、設置科目及び修得単位の扱いについては、基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部が学科ごとに別に定める。

三　備考

この表に掲げる授業科目の履修は、外国人留学生に限る。

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	経済情報システム学科	社会	公民・商業
	国際経済学科		
	公共・環境経済学科	社会	公民
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
基幹理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	応用化学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科
社会理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
先進理工学部	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	情報工学科	数学	数学・情報
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民
総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 経済情報システム学科 国際経済学科 公共・環境経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）
スポーツ情報学部	スポーツ情報学科	学士（スポーツ情報）

別表第四（第五十三条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
入学検定料	三五、〇〇〇
推薦入学検定料	三五、〇〇〇

別表第四の二（第五十三条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
第一次推薦入学検定料	一五、〇〇〇
第二次推薦入学検定料	二〇、〇〇〇

別表第四の三（第五十四条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
審査料Ａ	一一、〇〇〇
審査料Ｂ	五、〇〇〇

（注）一　審査料Ａは、第六十一条に基づく審査料

二　審査料Ｂは、第六十一条の二に基づく審査料

別表第五（第五十五条関係）

（単位・円）

入学金	二四〇、〇〇〇

（単位・円）

学部	費目／年度	授業料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２８５，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２９０，８００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
経済学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	１５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
商学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	１８，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１８，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
基幹理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
社会理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
先進理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
文学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	２５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	２５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
総合政策学部	令和９年度	１，１４３，８００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，１６６，６００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１２年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１３年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際経営学部	令和９年度	１，００１，２００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，０２１，２００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１２年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１３年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際情報学部	令和９年度	１，０７８，９００	―――――	５０，０００	２４７，３００
	令和１０年度	１，１００，４００	―――――	５０，０００	２５２，２００
	令和１１年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
	令和１２年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
	令和１３年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
スポーツ情報学部	令和９年度	１，１１７，２００	８０，０００	―――――	２８２，８００
	令和１０年度	１，１３９，５００	８０，０００	―――――	２８８，４００
	令和１１年度	１，１６２，２００	８０，０００	―――――	２９４，１００
	令和１２年度	１，１６２，２００	８０，０００	―――――	２９４，１００

（注）文学部は、当該年度において人文社会学科心理学専攻の第二年次以上に在学する者について教育充実費を要する。

別表第七（第五十五条関係）

（単位・円）

	全学部	文学部
教職履修料	一八、〇〇〇	八、〇〇〇
学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料		

（注）　司書・司書教諭を併せて履修する場合の履修料は一資格とみなす。

変更事項を記載した書類

変更事項を記載した書類

＜変更の事由＞

・収容定員増加を伴うスポーツ情報学部設置関連

データサイエンス及びビジネス領域に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と当該領域に関する汎用的能力を涵養するとともに、スポーツデータサイエンス及びスポーツビジネスの専門的学修を通じて、論理的思考力、分析力、コミュニケーション能力を備え、その専門性と優れた見識により社会課題の解決を実践できる価値創造人材を養成するため、令和９年４月に、入学定員２９５人、収容定員１，１８０人による定員の純増をもって、スポーツ情報学部を設置するため。

＜変更点＞

第３条、第３条の２、別表第１、別表第２、別表第３の２、別表第６

以上

変更部分の新旧対照表

中央大学学則現行・改正案対照表

改正箇所は、アンダーラインで表示

現行	改正案
中央大学学則 規程第二百九十三号	中央大学学則 規程第二百九十三号
（学部及び学科） 第三条　本大学に、次の学部を置く。 法学部 経済学部 商学部 基幹理工学部 社会理工学部 先進理工学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部 国際情報学部 ２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。	（学部及び学科） 第三条　本大学に、次の学部を置く。 法学部 経済学部 商学部 基幹理工学部 社会理工学部 先進理工学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部 国際情報学部 スポーツ情報学部 ２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。
（学部の教育研究上の目的） 第三条の二　前条第一項に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。	（学部の教育研究上の目的） 第三条の二　（現行どおり。）

一　法学部　法学及び政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力及び問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成する。	一　（現行どおり。）
二　経済学部　経済学及びその関連領域にかかる教育研究を行い、広く国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有し、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することのできる人材を養成する。	二　（現行どおり。）
三　商学部　商学にかかる各専門分野及びその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成する。	三　（現行どおり。）
四　基幹理工学部　理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、数学、自然科学(物理学・化学・生物学)、および工学の分野に関する理論と諸現象についての確実な知識と応用力を身につけ、新しい課題への果敢な挑戦力を持ち、人類共通の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。	四　（現行どおり。）
五　社会理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成する。	五　（現行どおり。）
六　先進理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、人・モノ・自然を結びつける仕組みを先導または協働して考案し、この世界に実現することを通じて、科学技術分野の諸	六　（現行どおり。）

課題の解決、ならびに持続的かつ包摂的な社会の構築に積極的に貢献できる人材を養成する。	
七　文学部　人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。	七　（現行どおり。）
八　総合政策学部　人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。	八　（現行どおり。）
九　国際経営学部　経済学、経営学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急速に変化する国際企業経営に必要となる企業経営やグローバル経済にかかる専門知識を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成する。	九　（現行どおり。）
十　国際情報学部　情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論と社会における諸現象にかかる教育研究を行う。専門分野における高度な知識を有し、複雑さを極めてグローバルな性格を有する情報の諸問題に対する解決策を立案し、提案し、かつ実現することで公正な社会を構築しうる人材を養成し、社会に貢献する。	十　（現行どおり。）
	十一　スポーツ情報学部　データサイエンス及びビジネス領域に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と当該領域に関する汎用的能力を涵養するとともに、スポーツデータサイエンス及びスポーツビジネスの専門的学修を通じて、論理的思考力、分析力、コミュニケー

	ション能力を備え、その専門性と優れた見識により社会課題の解決を実践できる価値創造人材を養成し、もって持続可能な社会の実現に貢献する。
（学生定員） 第四条　第三条の学部及び学科の学生定員は、別表第一に掲げるとおりとする。	（学生定員） 第四条　（現行どおり。）
（学部長） 第九条　各学部に学部長を置く。 ２　学部長は、その学部に関する事項をつかさどり、その学部を代表する。 ３　学部長の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。 ４　学部長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。	（学部長） 第九条　（現行どおり。） ２　（現行どおり。） ３　（現行どおり。） ４　（現行どおり。）
（授業） 第三十二条　本大学は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。 ２　本大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。授業科目の名称、単位数及び履修方法は、別表第二に掲げるとおりとし、年次配当その他については各教授会が別に定める。 ３　前項後段のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。 ４　前項の授業科目の名称、単位数及び履修方法は、別表第二の二、第二の三、第二の四及び第二の五に掲げるとおりとし、年次配当その他については各教授会が別に定める。	（授業） 第三十二条　（現行どおり。） ２　（現行どおり。） ３　（現行どおり。） ４　（現行どおり。）
(専攻分野の名称)	(専攻分野の名称)

第四十五条　学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従つて、別表第三の二に掲げるとおりとする。	第四十五条　（現行どおり。）
（学費）	（学費）
第五十五条　学費は次のとおりとし、納入額は別表第五、別表第六及び別表第七に掲げるとおりとする。	第五十五条　（現行どおり。）
一　入学金 二　授業料 三　実験実習料 四　教育充実費 五　施設設備費 六　教職履修料 七　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料	
	附　則（規程番号第三千二百五十号） （施行期日） １　この学則は、令和九年四月一日から施行する。 （経過措置） ２　改正後のこの学則は、令和九年度以降の入学生から適用し、令和八年度以前の入学生については、なお従前の例による。 ３　この学則施行後、最初に就任するスポーツ情報学部長の任期は、第九条第三項の規定にかかわらず、令和九年十月三十一日までとする。
別表第一（第四条関係） 【別紙１参照】	別表第一（第四条関係） 【別紙２参照】
別表第二（第三十二条第二項関係） 法学部法律学科 （略）	別表第二（第三十二条第二項関係） 法学部法律学科 （略）

国際情報学部国際情報学科 （略）	国際情報学部国際情報学科 （略） スポーツ情報学部スポーツ情報学科 【別紙３参照】
別表第三の二（第四十五条関係） 【別紙４参照】	別表第三の二（第四十五条関係） 【別紙５参照】
別表第六（第五十五条関係） 【別紙６参照】	別表第六（第五十五条関係） 【別紙７参照】

別紙１（現行）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	467	1,868
	経済情報システム学科	180	720
	国際経済学科	265	1,060
	公共・環境経済学科	150	600
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
総計		6,281	25,124

別紙２（改正案）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	467	1,868
	経済情報システム学科	180	720
	国際経済学科	265	1,060
	公共・環境経済学科	150	600
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
スポーツ情報学部	スポーツ情報学科	295	1,180
	計	295	1,180
総計		6,576	26,304

別紙３　（改正案）

別表第二（第三十二条第二項関係）

スポーツ情報学部スポーツ情報学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語科目	
English Ⅰ	1
English Ⅱ	1
検定英語講座	1
検定英語初級	1
検定英語中級	1
検定英語上級	2
総合教育科目	
法学	2
人間工学	2
美学	2
美術史概論	2
色彩学	2
プロダクトデザイン	2
建築・デザイン概論	2
音楽と文化	2
環境工学	2
総合講座	2
ヒューマンウエルネス論	2
スポーツリスクマネジメント論	2
スポーツ心理学	2
救急救命システム論	2
生体システム論	2
スポーツ実技１	1
スポーツ実技２	1
スポーツ実技３	1
専門基礎科目	
数理基礎	
スポーツと数学	2
微分積分Ⅰ	2
微分積分演習	1
力学	2
線形代数Ⅰ	2
線形代数演習	1
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅱ	2
情報基礎	
デジタルコミュニケーションⅠ	2
デジタルコミュニケーションⅡ	2
デジタルデザイン	2
アルゴリズムとプログラミングⅠ	2
プロジェクトマネジメント	2
アルゴリズムとプログラミングⅡ	2
データサイエンス基礎	
スポーツデータ測定入門	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
スポーツと統計学	2
データサイエンス基礎技術Ⅰ	2
確率統計	2
データサイエンス基礎技術Ⅱ	2
社会調査法	2
AI・データサイエンス応用基礎	2
経営学基礎	
経営学	2
マーケティング論Ⅰ	2

財務会計論	2
マーケティング論Ⅱ	2
経営戦略論	2
デザインシンキング	2
ファイナンス	2
管理会計論	2
経営組織論	2
経済学基礎	
ミクロ経済学	2
マクロ経済学	2
公共政策論	2
政策評価論	2
地域社会産業論	2
地域産業連関分析	2
専門展開科目	
統計・数理モデリング	
多変量解析Ⅰ	2
多変量解析Ⅱ	2
線形モデル	2
オペレーションズ・リサーチ	2
最適化	2
質的データ解析	2
時系列解析	2
AI・情報技術	
データベース	2
スポーツとXR技術	2
機械学習Ⅰ	2
データ構造とアルゴリズム	2
機械学習Ⅱ	2
画像処理とAI動作解析	2
AIと身体性認知科学	2
データサイエンス特講	2
コンピュータシミュレーション	2
自然言語処理と生成AI	2
スポーツデータサイエンス	
スポーツ情報戦略・戦術論	2
スポーツテックとデータ活用	2
スポーツ映像分析論	2
モーションデータ解析	2
スポーツと計量社会学	2
データに基づくコンディショニング	2
データに基づくコーチング	2
ビジネスデータサイエンス	
ビジネスデータサイエンス	2
デジタル・マーケティング	2
ビジネスデータマイニング	2
計量経済学と因果推論	2
スポーツビジネス	
スポーツビジネス論	2
スポーツ倫理学	2
スポーツマーケティング	2
スポーツ経済学	2
スポーツ文化論	2
スポーツマネジメント	2
スポーツファイナンス	2
スポーツ産業論	2
スポーツスポンサーシップ論	2
サービスイノベーション論	2
スポーツ政策論	2

生涯スポーツ論	2
スポーツツーリズム	2
ｅスポーツビジネス論	2
グローバル・スポーツビジネス論	2
スポーツメディア論	2
スポーツファシリティマネジメント	2
スポーツビジネス特講	2
卒業論文	
卒業論文	2
演習・実習・実践科目	
演習	
基礎演習	2
専門演習A１	2
専門演習A２	2
専門演習B１	2
専門演習B２	2
スポーツビジネス実践	
スポーツ統括団体（リーグ・協会）経営論	2
Jリーグビジネス論Ⅰ	2
スポーツ代理人・マネジメント論	2
Jリーグビジネス論Ⅱ	2
スポーツアナリティクス実践論	2
スポーツツーリズム実践論	2
スポーツビジネス・プロジェクトⅠ	2
スポーツビジネス・プロジェクトⅡ	2
イベントプロデュース演習	2
イベントマネジメント演習	2
イベントプロデュース実習	2
イベントマネジメント実習	2
グローバル・スポーツビジネス・キャリア実習	2
スポーツアナリティクス実習	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A（１）	2
AI・データサイエンス演習A（２）	2
AI・データサイエンス演習B（１）	2
AI・データサイエンス演習B（２）	2
AI・データサイエンス演習C（１）	2
AI・データサイエンス演習C（２）	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
随意科目	
学術情報の探索・活用法	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130単位とする。
イ　外国語科目及び総合教育科目については、以下のとおりとする。
（１）　合計14単位を必修とする。
（２）　外国語科目について、「EnglishⅠ」、「EnglishⅡ」を含む３単位を必修とする。
（３）　総合教育科目のうち、「法学」から「総合講座」までの授業科目の中から４単位、「ヒューマンウエルネス論」から「生体システム論」までの授業科目の中から４単位、「スポーツ実技１」から「スポーツ実技３」までの授業科目の中から１単位を必修とする。
（４）　外国人留学生について、外国語科目の履修方法は別表第二の六による。
ウ　専門基礎科目について、「スポーツと数学」から「微分積分演習」までの授業科目、「線形代数Ⅰ」、「線形代数演習」、「デジタルコミュニケーションⅠ」、「アルゴリズムとプログラミングⅠ」、「スポーツデータ測定入門」から「データサイエンス基礎技術Ⅰ」までの授業科目、「AI・データサイエンス基礎技術Ⅱ」、「AI・データサイエンス応用基礎」、「経営学」から「経営戦略論」までの授業科目、「ミクロ経済学」を必修とする。
エ　専門展開科目について、「多変量解析Ⅰ」、「多変量解析Ⅱ」、「スポーツテックとデータ活用」、「ビジネスデータサイエンス」、「スポーツビジネス論」、「スポーツマーケティング」を必修とする。
オ　演習・実習・実践科目について、演習に置かれるすべての授業科目を必修とする。
カ　随意科目は卒業に必要な単位数に含めない。
キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

別紙４（現行）

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 経済情報システム学科 国際経済学科 公共・環境経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

別紙５（改正案）

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 経済情報システム学科 国際経済学科 公共・環境経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）
スポーツ情報学部	スポーツ情報学科	学士（スポーツ情報）

別紙６　（現行）

別表第六（第五十五条関係）　（単位・円）

学部	費目／年度	授　業　料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	―――――	２７９，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２８５，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２９０，８００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
経済学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	１５，０００	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	１５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
商学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	１８，０００	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	１８，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１８，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
基幹理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
社会理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
先進理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
文学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	―――――	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２４１，４００
総合政策学部	令和８年度	１，１２１，４００	―――――	５０，０００	２２７，６００
	令和９年度	１，１４３，８００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，１６６，６００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際経営学部	令和８年度	９８１，６００	―――――	５０，０００	２２７，６００
	令和９年度	１，００１，２００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，０２１，２００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際情報学部	令和８年度	１，０５７，８００	―――――	５０，０００	２４２，５００
	令和９年度	１，０７８，９００	―――――	５０，０００	２４７，３００
	令和１０年度	１，１００，４００	―――――	５０，０００	２５２，２００
	令和１１年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００

別紙7　（改正案）

（単位・円）

学部	費目／年度	授業料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２８５，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２９０，８００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
経済学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	１５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
商学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	１８，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１８，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
基幹理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
社会理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
先進理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
文学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	２５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	２５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
総合政策学部	令和９年度	１，１４３，８００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，１６６，６００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１２年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１３年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際経営学部	令和９年度	１，００１，２００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，０２１，２００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１２年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１３年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際情報学部	令和９年度	１，０７８，９００	―――――	５０，０００	２４７，３００
	令和１０年度	１，１００，４００	―――――	５０，０００	２５２，２００
	令和１１年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
	令和１２年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
	令和１３年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
スポーツ情報学部	令和９年度	１，１１７，２００	８０，０００	―――――	２８２，８００
	令和１０年度	１，１３９，５００	８０，０００	―――――	２８８，４００
	令和１１年度	１，１６２，２００	８０，０００	―――――	２９４，１００
	令和１２年度	１，１６２，２００	８０，０００	―――――	２９４，１００

（注）文学部は、当該年度において人文社会学科心理学専攻の第二年次以上に在学する者について教育充実費を要する。

中央大学教授会規程

規程第二百九十七号

（趣旨）

第一条　この規程は、中央大学学則第十四条に基づき、教授会の運営について、必要な事項を定める。

（招集）

第二条　教授会は、学部長（理工学術院長を含む。以下同じ。）が招集する。

２　学部長は、学長または教授会員の三分の一以上の者から、会議に付すべき議題を示して会議の招集を請求された場合は、すみやかに教授会を招集しなければならない。

３　会議の議長は、学部長とし、学部長に事故があるときは、出席教授会員の互選によつて議長を決定する。

（学長の出席）

第三条　学長は、教授会に出席して意見を述べることができる。

（開会）

第四条　教授会は、教授会員の過半数の出席がなければ開くことができない。

（議決）

第五条　教授会の議事について議決する場合には、出席教授会員の過半数の同意を要する。

（連合教授会）

第六条　連合教授会は、関係学部長が共同して招集する。

２　会議の議長は、学長とし、学長に事故があるときは、関係学部長の互選によつて議長を決定する。

（改正）

第七条　この規程の改正は、教授会の議を経なければならない。

（細則）

第八条　この規程に特別の定めがあるものを除くほか、この規程の実施のため必要な細目は、別に定める。

附　則

この規程は、昭和五十年四月一日から施行する。

附　則（規程第三千百三十九号）

この規程は、令和八年四月一日から施行する。